

科学技術と倫理 S

15295

担当者名 / Instructor 鶴田 尚美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、現代の科学技術の進歩によって生じた、生命倫理学の基本的な諸問題を扱う。
 遺伝子診断、代理出産など、この数十年に現れた新しい医療技術によって、どのような倫理的問題が生じたのか、なぜそれらの技術は倫理的に問題となるのか、そしてこれらの問いに答えるためにはどのような考え方をすればよいのか、といったことを授業を通じて学んでほしい。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 問題を考えるにあたって必要な知識を習得すること。
2. 倫理的諸問題について自分で考える態度を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	生命倫理学の概要と問題設定	
2	基本的な倫理原則	功利主義、カント、四原理
3	インフォームド・コンセント	自己決定、患者の自律の尊重
4	医学実験(1)	臨床試験
5	医学実験(2)	動物実験
6	生殖医療(1)	人工授精、出生前診断、代理母・代理出産
7	生殖医療(2)	クローン技術
8	生殖医療(3)	ビデオ
9	ヒトゲノム(1)	遺伝子診断
10	ヒトゲノム(2)	遺伝子治療、遺伝子の改変による増強
11	臓器移植(1)	臓器不足と公正な配分、臓器売買
12	臓器移植(2)	ビデオ
13	安楽死・尊厳死(1)	安楽死は不正な殺人か、すべりやすい坂の論法
14	安楽死・尊厳死(2)	

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	期末に2000字程度のレポートを課す。講義で取り上げたテーマの中から自由に選択し、それについて自分の考えを論理的に述べること。
日常点・その他	20 %	コミュニケーションペーパーの提出を出席点と見なす。

日常点評価として中間レポートを課す場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業時に配布するレジュメに参考文献・ウェブサイトを記載するが、生命倫理学に関する書籍はそれ以外にも数多く出版されているので、各自関心のある問題については積極的に調べること。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代の人権 S

12930

担当者名 / Instructor 徐勝

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

21世紀は「人権の世紀」と言われている。「冷戦の崩壊」、イデオロギーの終焉とともに、人権、環境、平和、ジェンダーなどが新しい世紀のキーワードとして登場してきている。これらの課題のすべてが、「人間が人間らしく生きることのできる世界」の創造を目指しているが、各地で戦争や紛争が多発し、重大な人権侵害が行われている。今日、人権ほど広く用いられている言葉は少ないが、明確に説明できる人は少ない。本講義では、人権の基本的な概念と歴史、さらにいくつかのトピックを取り上げて、日本とアジアの関係を視野におきながら、人権の実際を分かりやすく理解する。

到達目標 / Attainment Objectives

人権が国家権力からの自由を本質的な性格を持っていること、そこから人権がどのように発展してきたかという歴史的過程を理解する。戦争と人権の関係について理解する。世界人権宣言、国際人権規約、国連憲章、ジェノサイド条約など、重要な国際人権条約や法を読み、それを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

憲法、刑法、刑事訴訟法、できれば、国際法

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
2	国連憲章、世界人権憲章(世界人権宣言、国際人権規約)を読む	国連、世界人権宣言
1	人権とはなにか	
2	人権概念の成立と自由権的人権	
1	人権論の展開(社会権)	
1	発展権的人権	
1	国家安全保障論(非常事態論)と重大な人権侵害	
1	アメリカの人権外交	
2	アジア的人権論	
1	人道介入の論理と実際	
1	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

人権の歴史と世界人権宣言について、幅広く本を読んでほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	主題の明確な把握、論理性、文章の完成度。
日常点・その他	50 %	中間レポートを20%、出席・日常点数30%

この講義は、出席・日常点を重視する。したがって、出席が3分の2を満たさないものは評価しないので、重々、気をつけてください。講義開始後、30分以後の出席は認めません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は特にありません。講義の時に配布するプリントと参考書籍を参照してください。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
人権宣言集	高木八尺訳 / 岩波書店 / /
人権の歴史	杉原泰雄 / 岩波書店 / /
国際法から世界を見る	松井芳郎 / 東信堂 / /
人権の歴史	浜林正夫 / 吉川弘文堂 / /
憲法 1 人権	渋谷 秀樹 赤坂 正浩 / 有斐閣 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国連ホームページ <http://www.unic.or.jp/>

財団法人アジア・太平洋人権情報センター http://www.hurights.or.jp/index_j.html

Yahoo!カテゴリ人権: http://dir.yahoo.co.jp/Society_and_Culture/Issues_and_Causes/Human_Rights/

http://dir.yahoo.co.jp/Society_and_Culture/Issues_and_Causes/Human_Rights/

その他 / Others

ジェンダー論 SA

12839

担当者名 / Instructor 堀江 有里

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義の目的は、社会的に構築された「性別」(ジェンダー)という視点から社会の構造を解読することである。社会は、性別を「男」と「女」に二分し、固定した上で、前者により多くの利益配分を行なうシステムを維持している。また、このような「性別二元論」は、二分された「男」と「女」をつがうものとして認識する社会規範もあわせて持っている(「異性愛主義」)。わたしたちの生活に、多くの場合、無意識に存在する、これらの価値観を、いくつかの事例からひとまずは「問うてみる」作業を行ないたい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会のなかに、「性別二元論」や「異性愛主義」という価値観が、どのように表れているのかを考えること。そして、日常生活のさまざまな場面で、ふと立ち止まり、考える契機を生み出すこと。これらの姿勢を身に付けることが、本講義の到達目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし。社会学の基礎的な知識を身に付けていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	序論: ジェンダー論とは何か	
2.	ジェンダーとセクシュアリティを考える: その多様性 / 多属性	
3.	ジェンダーと越境: 国家の身体管理から	
4.	女性解放のあゆみ(1): 世界の情勢	
5.	女性解放のあゆみ(2): 日本の情勢	
6.	女性解放のあゆみ(3): 日本のウーマン・リブ	
7.	性的指向とジェンダー(1): 北米の情勢	
8.	性的指向とジェンダー(2): 日本における同性愛者の運動史	
9.	性暴力(1): DV、レイプ	
10.	性暴力(2): セクシュアル・ハラスメント	
11.	性暴力(3): 性的少数者への暴力	
12.	結婚とジェンダー(1): 婚姻制度の諸問題	
13.	結婚とジェンダー(2): 同性間パートナーシップ	
14.	戦争とジェンダー	
15.	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

疑問に思った点や、わからない部分は、積極的に、図書館やインターネットなどを使って、調べる習慣を付けてください。また、「単位だけ必要」、「出席していれば通る」という考え方をもちの学生さんは歓迎いたしません。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	論述試験を実施します。授業内容の理解度と受講生自身の意見を総合して判断します。
必要に応じて、コミュニケーション・カードの提出回数や内容を、成績評価に加味する場合があります。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の方法: わたしは講義は「ナマモノ」だと思っています。大教室での講義では、受講生の方々とのコミュニケーションには限界があるとは思いますが、できる限り、レスポンスを求め、それを講義に反映させようようにしたいと思います(よって、シラバスに記した内容は、みなさんに説明した上で、大きく変動する可能性があります)。そのために、適宜、「コミュニケーション・カード」を書いていただきます。ご意見、質問、反論などを歓迎します。

教科書 / Textbooks

とくになし。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
21世紀のジェンダー論(改訂版)	池内靖子・二宮周平・姫岡とし子編 / 晃洋書房 / /
フェミニズム	竹村和子 / 岩波書店 / /

クィア・スタディーズ

河口和也 / 岩波書店 / /

「レズビアン」という生き方

堀江有里 / 新教出版社 / /

参考書は、講義のなかで、適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ジェンダー論 SB

15219

担当者名 / Instructor 高橋 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ジェンダー概念について解説をした後、私たち自身の日常的なジェンダー感覚とはいかなるものなのかを様々な角度から取り上げる。私たち自身が社会的・文化的な「思い込み」の産物＝ジェンダーから隔絶した時空に生きることができないからこそ、それらが相互行為場面でどのように作用するのかを検証することもまた必要なのではないだろうか。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会「科学」に基づいたジェンダー理解を得るためには、講義に継続的に出席する、積極的に自習するといった学習態度が不可欠である。受講生の地道な努力に多に期待したいところである。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。	
	生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダー	
	生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダー	
	母親へのまなざし	
	母親へのまなざし	
	ビデオ:生殖医療の現場で・・・	
	ジェンダー・アイデンティティの実践	
	ジェンダー・アイデンティティの実践	
	「ブレンダと呼ばれた少年」の場合(ジョンズ・ホプキンス病院の事例)	
	自己決定権はどこまで認められるのか? for or againstの先にあるもの・・・	
	ジェンダー、その決め付けのポリティックス	
	ジェンダー、その決め付けのポリティックス	
	ジェンダー・フリーの射程	
	「私らしさ」が抱える問題	
	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	50 %	
日常点・その他	50 %	レポート課題を課す。

最終講義日試験を実施します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
女らしさの社会学	高橋裕子 / 学文社 / 4-7620-1164-9 /

講義の初めに適宜レジュメを配布するかとありますが、後日にレジュメを再配布することはありません。なお遅刻した学生は講義後にレジュメを受け取るようにしてください。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ブレンダと呼ばれた少年	ジョン・コラピント / 無名舎 / ISBN4-89585-987-1 /
性同一性障害	吉永みち子 / 集英社新書 / ISBN4-08-720020-5 /
OLたちのレジスタンス	小笠原祐子 / 中公新書 / ISBN4-12-101401-4 /
改訂版 21世紀のジェンダー論	池内靖子 / 昇洋書房 / ISBN4-7710-1565-1 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

レポート課題については講義内で説明しますが、体裁・提出期限・提出先・提出方法が守られていないものに関しては全て未提出扱い(0点)にします。(また課題説明を聞いていなかったという理由は、疾病など診断書のある場合を除いて原則的には例外を認めません。)

講義を妨げるような私語を繰り返す学生には退室を求め、そのような場合には総合評価点から5点引きます。

携帯電話の使用はメールも含め禁止とし、と同様の扱いをします。

宗教と社会 GA

13608

担当者名 / Instructor 福浦 一男

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業は、宗教と社会とのさまざまな関係を検討し、現代世界を読み解く枠組みを提供することを目的とする。本年度は、東南アジア大陸部に位置するタイ王国の社会と宗教を取り扱う。タイ社会は個人の救済を重んじる上座部仏教を事実上の国教としており、仏教的価値観が社会に浸透している。その一方で、精霊崇拜をはじめとする民間宗教も盛んに実践されている。これらの宗教と社会との関係について、バンコクを中心とする近年の都市化・近代化との関連も含めて論じる。

到達目標 / Attainment Objectives

国民国家の形成における宗教の役割を理解する。
世界宗教と民間宗教が共存する社会の事例を通じて、文化の多様性とその重要性を理解する。
グローバル化の影響下にある都市化・消費社会化と宗教との関係を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	タイ社会の構造(1)	
第2回	タイ社会の構造(2)	
第3回	タイ社会の構造(3)	
第4回	タイ社会の構造(4)	
第5回	タイの上座部仏教(1)	
第6回	タイの上座部仏教(2)	
第7回	タイの上座部仏教(3)	
第8回	タイの上座部仏教(4)	
第9回	タイの上座部仏教(5)	
第10回	タイの民間宗教(1)	
第11回	タイの民間宗教(2)	
第12回	タイの民間宗教(3)	
第13回	タイの民間宗教(4)	
第14回	タイ社会と宗教	
第15回	最終講義日試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	50 %	
日常点・その他	50 %	出席点 / 小テスト

日常点について

- ・受講者は、QRコードのシールを必ず持参してください。
- ・QRコード未貼付の出席票・小テストは無効となります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
タイを知るための60章	綾部恒雄・林行夫(編) / 明石書店 / 475031725X /
上座部仏教の政治社会学	石井米雄 / 創文社 / 4423896060 / 新訂版, 2003年。
その他の参考書については適時指示します。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

タイ国政府観光庁 <http://www.thailandtravel.or.jp/>
日タイ観光交流年2007:Let's THAILAND 2007 <http://www.thai-japan120.com/>

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

ヨーロッパ的精神と人間

ヨーロッパ的精神は前世紀末に理性中心主義などと厳しく批判されてきました。だが、それはそこに単に自然的ではない人間の固有性と問題性が表現されているからだともいえます。そこでこの講義では、哲学的観点からヨーロッパ的精神の生成と変遷をたどりつつ人間という存在にアプローチしたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・ヨーロッパ的精神のあり方を学ぶ。
- ・それを通して人間とは何かを考える。
- ・哲学の基礎的な知識を身につける。
- ・論理的、批判的に思考する力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

西洋思想史関連の科目を履修しておくとう理解が深まります。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	、概観 哲学とは何か 従来の哲学=形而上学と現代の反形而上学的傾向について ニーチェの『この人を見よ』、『力への意志』などを読む	「存在するものによせる信仰は一つの帰結にすぎないことが立証されている。すなわち、本来の最初の動きは、生成するものを信じないこと、生成するものに対する不信、すべての生成の軽視なのである」(ニーチェ)
2回目	、ヨーロッパ的精神の生成と変遷 1、ソフィストとソクラテス 哲学の誕生 プラトンの『ソクラテスの弁明』を読む	「人間は万物の尺度である」(プロタゴラス)、「靈魂の最高可能の完成」をめざすこと(ソクラテス)
3回目	2、ニーチェのギリシア悲劇解釈をとおしてのソクラテス批判 『悲劇の誕生』を読む	「ソクラテスの背後に論理的ソクラテス主義の巨大な歯車がまわっている」
4回目	3、キリスト教 a、ユダヤ教 ヤハウェとイスラエルの契約 『旧約聖書』を読む	「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない」
5回目	b、イエスの教え 『新約聖書』を読む	「この子のようにみずからへり下るものこそ天国で最大である」
6回目	c、原始キリスト教におけるキリスト教の成立 代理救済者としてのイエス=キリスト、ヨーロッパ的精神におけるキリスト教の意義 パウロの書簡を読む	「キリストが、聖書に書いてあるとおり、わたしたちの罪のために死んだこと、そして葬られたこと、聖書に書いてあるとおり、三日目によみがえったこと」(パウロ)
7回目	d、原罪の問題 人間は原罪を負った存在なのか ヘーゲルの『歴史哲学』を読む (参)ヨブの問い 罪なき人間がなぜ苦しむのか	「認識は自然的統一を打ち壊すものとして墮罪であるが、しかもこの墮罪は偶然的な歴史ではなくて、精神の永遠の歴史である」(ヘーゲル)
8回目	4、デカルト 近代的自我とは何か 『方法序説』を読む	「私は考える、ゆえに私はある」というこの真理は、懐疑論者のどのような法外な想定によってもゆり動かしかねないほど、堅固な確実なものである」
10回目	5、バスケル 考える葦としての人間の偉大さ 『パンセ』を読む	「知恵は我々を幼年に向かわせる。 幼子のようにならなければならない」
11回目	6、ニーチェのヨーロッパ的精神の批判 a、力への意志としての生	「それ[搾取]は有機的な根本機能として、生あるものの本質に属する。それは生の意志そのものにほかならぬ本来の力へ意志の一つの帰結である」
12回目	b、キリスト教批判 二元論による禁欲主義的理想の確立 (参)全面的な理性批判は可能か	「この理想の本性は...最も低劣な者の幸福が可能となる徳を、すべての価値を裁く理想たらしめ、この理想を神と名づける試み」
13回目	c、神の死によるニヒリズムの到来とその克服 『道徳の系譜』、『ツァラトゥストラ』、『力への意志』を読む	「運命愛 これからはこれが私の愛でありますように!... つまるところ、いつの日にか私は、ただひたすら肯定する者になりたいのだ」
14回目	7、ニーチェ哲学に規定される現代思想 サルトル、フーコー、ドゥルーズなどの哲学から	「人間の本性は存在しない。その本性を考える神が存在しないからである。...人間はみずからつくることのもの以外の何物でもない」(サルトル)
15回目	、総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

それぞれの関心をもって講義にのぞんで下さい。参考書をはじめとして哲学に関連のある書物を読むように心がけて下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義をいかに理解しているか、そしてそれをいかに文章化しているかを中心に評価します。
日常点・その他	20 %	3回に1回出席を取ります。講義に関連して2度ほど小レポートを書いてもらいます。評価の割合は各10%です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

哲学にはさまざまな角度から入ることができます。それぞれの関心に応じて哲学に関連のある書物を読むように心がけて下さい。3回に1回質問ペーパーを配布します。質問の方も心がけて下さい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
使用しません。	///

教科書は使用ませんが、原典その他のプリントを教科書代わりにします。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『西洋哲学史』	岩崎武雄 / 有斐閣 / / 定評ある西洋哲学の解説書です。
『反哲学史』	木田元 / 講談社 / / 反哲学の観点から西洋哲学を捉えたものです。
『教養としてのキリスト教』	村松剛 / 講談社 / / キリスト教の精神を解き明かそうとしたものです。
『イエスとその時代』	荒井献 / 岩波書店 / / イエスの実像に迫ったものです。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

人間性と倫理 S

15176

担当者名 / Instructor 門屋 秀一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「どのようにすれば人間は善く生きることができるのか」という倫理学の根本問題に対しては、その根底にある概念「善」の哲学的考察が不可欠である。倫理学には現代的なテーマを含む応用倫理学もあるけれども、本講義ではむしろ「善」の考察のために、いわゆる伝統的古典的な倫理学を取り上げ、この価値概念が他のさまざまな価値概念とそれぞれいかなる関係を持っているかを考察する。また教養の一端として、関連する西洋絵画も多く紹介しようと思う。

到達目標 / Attainment Objectives

善悪の区別にもとづいた実践としての倫理は大学生諸君にとってもうすでに習得済みの事柄であるから、大学教育であらためて徳育を行おうとは思わない。これに対して、学問としての倫理学とはこれまで諸君が体得している道徳的事実を整理し、秩序付け、体系化することである。自分の過去の経験を踏まえて、卓越した倫理学者たちの学説を学ぶことによって、揺るぎない自己の人格を確立すれば、将来の実社会において倫理的、道義的にさほど間違った轍を踏むことは決してないであろう。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	第1章 倫理学と哲学	講義内指示
2	第1章 倫理学と哲学	講義内指示
3	第2章 イデアと人生	講義内指示
4	第2章 イデアと人生	講義内指示
5	幸福と学問	講義内指示
6	幸福と学問	講義内指示
7	ヘレニズムの倫理学	講義内指示
8	ヘレニズムの倫理学	講義内指示
9	倫理と宗教	講義内指示
10	倫理と宗教	講義内指示
11	善意志と道徳法則	講義内指示
12	善意志と道徳法則	講義内指示
13	道徳性と人倫性	講義内指示
14	道徳性と人倫性	講義内指示

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

授業外学習は特に指示しない

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	記述式。持ち込みは不可。試験前における程度情報は開示。
日常点・その他	50 %	出席票は機械で読み取るため、二次元バーコード持参のこと。
追加点希望者は講義最終日までに、講義に関連したテーマで小レポートを提出のこと。講義内でも指示する。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
エチカとは何か	有福孝岳編、門屋秀一他 / ナカニシヤ出版 / 4888485208 / なるべく購入
行為の哲学	有福孝岳 / 情況出版 / 4915252256 / 購入必須ではない
形而上学の克服	シュヴァイドラー著・門屋他訳 / 見洋書房 / 4771016585 / 購入必須ではない
カント第三批判と反省的主観性	門屋秀一 / 京都大学学術出版会 / 487698428X / 購入必須ではない

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

メンタルヘルス GA

13028

担当者名 / Instructor 坂梨 小枝子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「あわただしくやってきて、気がついたら終わってる」そんな 青年期 にある皆さんは、「自分のころ」を持って余していませんか。学業、恋愛、人間関係、そしてこの先の人生を考え、葛藤し苦悶するこのライフステージにおいて、「自分のころ」を掌握し、丁寧に生きることを目指すために大切なことについて、一緒に考えたいと思います。私の臨床から得た経験や、様々な映画や本、漫画、音楽などを紹介し、また、可能な限り事例検討やワークを取り入れた講義を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

「今ある自分」を振り返り、自身のころの健康について考えること。さらに、ころを健やかに保つために必要な「生きる技法」を、生物・心理・社会的視点から学ぶこと。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メンタルヘルスとは(イントロダクション)	
2	ころのメカニズム(不安・葛藤・防衛)	
3	青年期の心理	
4	対人関係の心理	
5	「適応する」ということ / 自分と世界との和解	
6	さまざまな「ころの病」	
7	心理測定いろいろ	
8	心理療法	
9	心理療法	
10	「症状」に繋がるころの動き	
11	「症状」の変化・治療におけるころの動き	
12	コミュニケーションスキル	
13	ストレスコーピング	
14	まとめと振り返り	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	
日常点・その他	20 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自己を見つめる作業は、「学び、修得すること」よりも「考えること」が主となりますので、エネルギーを要します。モチベーションのある学生さんの受講が望ましいと考えます。また、「レポート」の作成にあたり、読書などである程度の文章力を養っておいてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

論理と思考 S

12885

担当者名 / Instructor 高木 敏美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

命題論理及び一階の述語論理を取り上げる。
現代論理学が、言語・思考・論理を対象化する際の基本的枠組み、及び様々なテクニックを紹介する

到達目標 / Attainment Objectives

・記号化を通じて、言語表現の多様性を識別しその論理を辿り、さらに自ら展開できる。
・各種資格試験、及び適正試験問題中の<推理、判断>に適切に対処できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	導入講義	論証
第2回	日常言語での論証-1	論証の妥当性
第3回	日常言語での論証-2	論証の妥当性
第4回	日本語と論理	記号化
第5回	真理関数的論理・・・命題論理-1	真理値
第6回	真理関数的論理・・・命題論理-2	トートロジー
第7回	意味論と構文論(公理系)	記号、意味、世界
第8回	公理系・・・その導入	規則に従う
第9回	一般性・・・述語論理-1	全て、～が在る
第10回	一般性・・・述語論理-2	ヴェン図
第11回	関係	多重量化
第12回	複雑な関係	同一性
第13回	様々な問題	実践へ
第14回	まとめ	
第15回	定期テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	各回で取り上げた基本問題や概念についてきちんと理解できているかどうかを評価する。
日常点・その他	30 %	毎回の授業終了後に、授業内容の理解度を確認する小テストを実施する。 プリントを使用する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

適宜紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 小川 丈治

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

古語辞典には「影像」だけで「映像」の文字はありません。「映像」という造語は1896年(明治29年)日本に映画技術が紹介されて以降に登場しました。今では写真、映画、テレビ、アニメ、CG等「他の物の表面に映った物の形・姿」を表す言葉として使われています。映像の知識とこれを駆使する能力を伝授します。

なお、講義内容は前期・後期、各クラス共基本は同じですが、受講生の反応をみて多少修正する事があります。

到達目標 / Attainment Objectives

普段何気なく見て楽しんでいるテレビも映画も、学問的に分析していくと随分奥が深いことを、講義を通して実感、理解してもらうこと。そして映像との接し方を考え直す機会にしてみられれば結構です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前に履修してほしい科目はありません。但し、講義には心理学や言語学に関係した話が何度かあります。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講師の自画像(VIDEO)	講師の生い立ちをビデオで自伝風に描きながら、映像(学)と講師との関わりを説明します。まずは映像を使って諸君に御挨拶を!
第2回	「映像の時代」の意味	映像という言葉が出現したいきさつを探ると共に、「現代は映像の時代である」と言われる所以(ゆえん)をメディアの今昔を比較して浮き彫りにします。いくなれば映像論序説です。
第3回	歴史—絵画から写真へ	以後3回の講義で映像誕生までの足跡をたどりま。絵画の歴史を振り返ると、画家が正確な絵を描く工夫をかさねていくうちに、静止画像(写真)を写すカメラが発明されたことが判ります。
第4回	歴史—動く映像の発明	絵画や写真を動かしてみたいという人間の遊び心が、動く映像(映画)を生み出しました。映画が生まれるまでの人間の様々な営みをビデオでふりかえります。
第5回	歴史—初期の映画	初期の幼稚で短い映像の数々を見ることで、映画誕生から110年有余を経た現代の映像表現技術の進展ぶりが実感できます。
第6回	映像認知の仕組み	ここから3回は映像の特性を考察します。まずは「人間にとってものが見え、わかるとはどういうことなのか」を認知心理学の研究を基に説明します。
第7回	脳の中の映像と言語	神経心理学の研究を援用しながら「言葉と映像が脳の中でどう処理されているか」その仕組みを解説します。
第8回	映像と言語の比較	記号論を基に「映像と言語の性質の類似と違い」を明らかにします。
第9回	映像表現法1(撮影)	以後2回は映像表現の初歩的技法の講義です。今回はレンズの種類やカメラの動かし方(camera work)等、撮影技法について説明します。
第10回	映像表現2(編集)	撮影より前の作業として必要な「台本(scenario シナリオ)の作成」や「映像のカット割り(decoupage デクーパージュ)それに撮影後の作業としての「編集(montage モンタージュ)」について解説します。
第11回	ナチスと映画	これより3回は映像が社会に及ぼしてきた負の側面(弊害)について言及します。まず映画によってドイツ国民を破局に導いたナチス・ドイツの例を検証します。
第12回	嘘つき映像の歴史	「写っているから事実だ」と思いがちな人々の映像信仰を逆にとり、映画誕生当初から、虚偽映像の数々が観客を欺いてきました。過去の事例をフィルムで見ます。
第13回	米国政治とTV	現代アメリカの政治コマーシャルの制作理念とそれが民主政治を歪めている現実をドキュメンタリー番組で見えます。
第14回	映像との付き合い方	講義のまとめとして、今後私たちは映像とどう接すれば良いかを考えます。

第15回 補遺(疑問に答える)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

興味がわけば関連の参考書を何冊かピックアップして読んでください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	授業で得た「映像」に関する知識と諸君のこれまでの体験を元に、君独自の「考え」を構築して書くこと。表現が下手でも君の頭脳のぬくもりが感じられるものを評価します。
日常点・その他	30 %	出席を不定期に数回とり、レポート点に上積み。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

将来広告や放送業界を目指す人は是非受講してください。毎回プリントを配布、ビデオ教材を沢山上映します。出席してビデオを見るのが大切です。講師は元TVディレクター。南米ペルー滞在3年。

教科書 / Textbooks

テキストは使わない。

参考書 / Reference Books

参考図書は授業初回時に紹介。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

観光学 GA

16064

担当者名 / Instructor 小松原 尚

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

観光学には様々な学問分野がかかわっている。

本講義ではこれまで担当者がかかわってきた観光地に関する事例をも踏まえつつ、地理学の視点から観光学へのアプローチを紹介する。可能な限り、具体例をあげ、映像教材も利用しつつ、近年の地域構造の再編と観光とのかかわりについて考察してみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 地図帳や文献を使い、観光地に関する知識を深める。
2. 地形や気候の違いによる観光地の特徴を理解する。
3. 個別地域の産業の発展と観光とのかかわりを考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

地理・地域科学にかかわる科目
サービス産業に関する科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに	成績評価、受講計画、点数計算
第2回	観光客流動の構造的把握(1)	日本列島の観光客の流れ[7-16p.]、[]内はテキスト参照頁。以下同様。
第3回	観光客流動の構造的把握(2)	訪日外国人の地方圏への流れ[17-27p.]
第4回	観光客流動の構造的把握(3)	入込み調査の特徴と利用[28-38p.]
第5回	観光客流動の構造的把握(4)	国立公園における利用客流動構造[38-48p.]
第6回	都市圏と観光機能(1)	輸送能力の向上と観光の広域化[49-56p.]
第7回	都市圏と観光機能(2)	河川のレクリエーション的利用[56-67p.]
第8回	都市圏と観光機能(3)	港湾地域再生と観光開発[67-78p.]
第9回	都市圏と観光機能(4)	大都市圏沿岸域の再開発と観光[78-87p.]
第10回	都市圏と観光機能(5)	情報通信手段の発達と観光地[87-98p.]
第11回	農山村の再生と観光(1)	スキー観光地と農業[99-108p.]
第12回	農山村の再生と観光(2)	都市生活者と山間地域の観光[108-117p.]
第13回	農山村の再生と観光(3)	宿泊観光と山間地域への関心[117-127p.]
第14回	農山村の再生と観光(4)	観光への山間地域からの働きかけ[127-140p.]
第15回	まとめと観光研究の展望	これまでの講義内容をふり返り、自学自修による課題設定と解答の作成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

研究会への参加など、講義時間外の学修活動も奨励する。
そして、その成果を特別レポートとして受け付ける。
要領はその都度、講義の中でお知らせする。
参考書を使った自主的な勉強についても、
特別レポートとして成績評価に組み入れられるように特別な課題を編集する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	講義時間ごとに提出を求めるワークシートの得点、毎回10点満点、学用品の持参、受講態度
・成績評価方法		
各自の得点の合計が以下の式で算出した合格最低点(B値)を上回れば単位を認定する。		
$B = 2/3Y$ ただし、Y:ワークシートの満点の合計値、百分法への換算方法は講義時間中に説明する。		
・講義時間以外における自主的発展的な学修に関するレポートを受け付ける。提出は任意であるが、内容の完成度を評価し、得点に加算する。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義への出席は当然のことであるが、席を占めているだけでは評価に値しない。
目標の成績に到達する方法を多様に用意している。
共通しているのは、努力の成果をしっかりと評価するシステムであるということである。
受講者各位の学生としてのライフスタイルに応じて努力のパターンを編成されたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
地域からみる観光学	小松原尚 / 大学教育出版 / 9784887307780 / 定価1,800円(税別)

教科書は2回目の講義から毎時間使用する。
必ず購入の上、教室に持参されたい。
ワークシートの作成にも使う。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
E・M・ブルーナー観光と文化/旅の民族誌	安村克己ほか訳 / 学文社 / 978-4-7620-1694-3 / 定価本体3,900円(税別)
アジア市場のコンテクスト東南アジア編	川端基夫 / 新評論 / 4-7948-0677-9 / 定価本体2,200円(税別)
総合的現象としての観光	江口信清 / 晃洋書房 / 4-7710-1641-0 / 定価本体2,000円(税別)

特別点の課題図書として使用する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

京都学 GA

13693

担当者名 / Instructor 古澤 夕起子、藤村 健一、加藤 政洋、瀬戸 寿一、松岡 恵悟、小山 俊樹、藤巻 正己、河島 一仁、片平 博文、吉越 昭久、古賀 慎二、河原 典史、生田 真人、河角 龍典 単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本科目は「京都」をテキストとして、地理学・日本史学・日本文学の方法と視点から、過去そして現在の京都の個性や地域性を総合的に理解する。講義は各専門分野の立場からリレー方式で行われる。この講義を通じて、新たな「京都像」を描くことができる。

到達目標 / Attainment Objectives

「京都」を多面的重層的にとらえ、他者に語る事ができる。
自ら「京都」をフィールドワークし、そのフィールド経験を通じて、自身にとっての「京都」を他者に語る事ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本年度より教養科目として開講される「京都歴史回廊概論」の履修を推奨する(ただし受講制限あり)。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	藤巻正己: はじめに	ガイダンス
第2回目	河角龍典: 平安京の環境史	平安京、環境考古学、環境史
第3回目	片平博文: 平安京の祭礼と歴史災害	平安京、祭礼、歴史災害
第4回目	吉越昭久: 近世における鴨川の堤防と防災	鴨川、歴史災害、防災
第5回目	藤村健一: 宗教都市京都	宗教都市
第6回目	瀬戸寿一: 京都の庭園を探る - 系譜とその風景	庭園
第7回目	小山俊樹: 近代京都の挑戦 - 明治期における「京都策」の展開 -	明治の京都、京都策
第8回目	古澤夕起子: 福沢諭吉も感嘆した京都の学区制小学校	明治京都の小学区、福沢諭吉
第9回目	加藤政洋: 近代京都のインナーリング - 洛中農村・近郊の都市化を中心に -	近代京都、洛中農村、洛外近郊、都市化、インナーリング
第10回目	河島一仁: 近代京都の地理的变化 立命館大学とその周辺地域	近代京都、洛外近郊、都市化、立命館大学
第11回目	河原典史: 朝鮮に渡った京都の缶詰	祇園、缶詰産業、朝鮮
第12回目	生田真人: 産業経済の特徴とまちづくり	産業都市京都、京阪神三大都市比較
第13回目	古賀慎二: 京都のオフィス空間の変貌	オフィス空間
第14回目	松岡恵悟: 京都都心部のマンション立地と居住者の変容	京都都心部、マンション、人口の都心回帰
第15回目	藤巻正己: おわりに	総括、レポートについて
* 上記の授業スケジュールは、事情により変更されるかもしれません。		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

「京都」をフィールドワークすることを大いに推奨します。フィールドを歩き・観察し・写真やメモをとり、時には関係施設を訪れ、地元の方々へのさやかなインタビューを通じて、現場での身体的学びを追求してみてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	所定のテーマ・方法によるレポート。詳細については備考欄参照。
統一テーマ(論題)「京都を歩く・撮る・描く」(仮題) 最も興味をいだいた授業内容の要旨を簡潔にまとめ、さらにそれをふまえて自身のテーマを設定し、それにふさわしい参考文献を活用しつつ執筆。 その際、執筆内容に関連する自身が撮影した風景(景観)写真を2点以上、添付し、それらの写真についても概説を加える。 写真をどこで撮影したのか、撮影箇所を明示した地図を添付。 書式・分量などについては、所定の時期に指示する。 インターネットや文献からのカット/ペースト的記述は「不可」となるので要注意。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「京都」の只中に所在する大学での学びの醍醐味は、フィールド経験を日常的に行うことができる点にあります。日頃から、自身でテーマを設け、大いに「京都」をフィールドワークすることを奨励します。
日頃のフィールドワーク経験を通して、授業内容に関連づけ、自身で「京都研究」を試みてください。

教科書 / Textbooks

なし。

参考書 / Reference Books

「京都本」多数あり。自身で探求してください。なお、講師の方々が、授業内容にかかわって有益な図書を推奨してくれることでしょう。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

とくになし。自身で探索してください。

その他 / Others

現代の教育 S

15156

担当者名 / Instructor 沖 裕貴

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

講義は、現代の教育の諸相と題して、学校内外の教育の諸問題について解説する。現在の子どもの実態、学力低下論争や情報化社会の影の問題、大学教育の課題、教育現場の様子などを解説し、各自の問題意識を高めたい。
大規模授業ながら、一方的に聴くのではなく、積極的に質問をし、授業に参画してほしい。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現代の教育の諸問題について、その背景や原因、検討すべき課題を指摘できる。(知識・理解)
2. 現代の教育の諸問題について、教育学的な視点に基づき、解決策や対処すべき課題に関して自らの意見を述べる事ができる。(思考・判断)
3. 教育に関して興味関心を持ち、自ら調べ、考える態度を持つ。(関心・意欲・態度)

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方、授業の目的、評価方法等
2	現代の教育の諸相	学力低下論争
3	現代の教育の諸相	教授と学習の理論
4	現代の教育の諸相	立命館小学校の実践
5	現代の教育の諸相	ゆとり世代の学生像
6	現代の教育の諸相	情報化社会の影1
7	現代の教育の諸相	情報化社会の影2
8	現代の教育の諸相	命の教育を考える
9	現代の教育の諸相	教育の目的と評価
10	現代の教育の諸相	現代の大学事情1(立命館大学とは)
11	現代の教育の諸相	現代の大学事情2
12	現代の教育の諸相	格差社会を考える
13	現代の教育の諸相	教育の現場と課題1(要求する親、問われる教師)
14	現代の教育の諸相	教育の現場と課題2(現場の先生の声)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

本授業を通して、教育問題に関心を持ち、自ら調べ、考える態度を持ってほしい。毎回の小レポートで自らが疑問に思ったり、研究を深めたいと考えた内容をもとに最後にレポート試験を行うので、毎回の授業を課題意識を持って聴くとともに参考文献を当たってほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポート試験(A4 2~3枚 - 原稿用紙10枚程度)。自らが調べた資料を基に自分の考えが主張されているか。
日常点・その他	50 %	毎回、講義終了後、小レポート(各4点満点×13回)を提出。質問点3点/回

毎回の授業の最後に、授業で学んだこと(「驚き」「ひらめき」「納得」「疑問」「意欲」)を小レポートに記入し、提出する。この小レポートは、単なる授業の感想ではなく、最後のレポート試験の発展研究のテーマにもつながるので、特に「驚き」や今後調べたいことに対する「疑問」「意欲」を重視する。小レポートは出席確認(出席点はなし)としても利用するが、採点はその内容に関して毎回1点~4点で行い、成績に算入する。なお、小レポートにはQRコードを必ず添付すること。

また、レポート試験は、小レポートで各自が見つけた教育のテーマあるいは自分の関心のある教育のテーマに関して、自らがより深く調べ、考察したものを提出する。50点満点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業は約1時間講義を行い、事前に配布する質問票を回収し、質問への回答を約20分程度行う形で進める。適切な質問として取り上げた受講生には3点/回を成績に加算する。積極的に授業に参画してほしい。

なお、本授業は、教職科目の「教育方法論1」(沖担当)と重複する内容が多いので、できれば受講者が重ならないことを望む。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。必要な資料は適宜配布する。

参考書 / Reference Books

毎回の授業で、その分野に関する参考書を紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツと現代社会 SA

12890

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

冷戦体制が大きく変化してきている今日、政治・経済のあらゆる面で「市場原理」が強調されるような変化が生じています。そんな中で、スポーツを商品として捉え、その「消費的」価値を高めることにスポーツの社会的意味を見いだそうとする動きがあります。さまざまなスポーツ問題を見ながら、そうした動向に視点をあてなおし、スポーツの本質を探求しながら矛盾点を明らかにしていきます。そうした中で、できあがった「商品」の単純な「消費者」にさせられないように、主体的「創造者」として現代のスポーツにどうかかわっていくかを考えていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

まず、様々なスポーツ現象から何が問題であるかに気づくところから出発し、つぎに、その問題がなぜ生じるのかを考えようとする姿勢を持つことができればいいと思います。そうしたスポーツ問題をいろいろと考えながら、自分にとってスポーツとはどんな意味や価値があるのかを考えられるようになればいいと思います。その価値を受け取るために何をすべきかに目が向くようになると、さらにいいと思います。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

スポーツをプレイしたときの実感が重要です。スポーツのプレイ経験が不足していると思う人は教養科目の「スポーツ方法論」を受講してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	現代におけるスポーツを考える視点	スポーツの価値 / 享受能力 / スポーツ技能
第2回	体育・スポーツの戦後改革	第二次世界大戦 / 民主化 / 反動化
第3回	オリンピック主義スポーツの台頭	運動文化論 / 技術系統主義
第4回	高度成長期の政治・経済と国民スポーツ	体力科学主義 / 根性論
第5回	余暇社会論の中のスポーツ展開	プレイ主義 / めあて学習 / 二極分化政策
第6回	戦後スポーツ展開に見る基本矛盾	プレイ内主義 / 主体主義
第7回	スポーツ文化の生成と本質	文化と労働 / 労働とスポーツ / 同根異種関係
第8回	スポーツ誕生の基盤	スポーツ手段 / おもしろさの論理
第9回	近代スポーツの社会的背景	ブルジョアジー / 市民革命 / 産業革命
第10回	近代スポーツの「近代性」	スポーツ空間 / スポーツの「私事性」 / スポーツの占有
第11回	優勝劣敗主義とフェアプレイ	第一次アマチュアリズム / 第二次アマチュアリズム
第12回	近代オリンピックとアマチュアリズム	クーベルタン / ブランデー / サマランチ
第13回	アマチュアリズムと現代のスポーツ	プロ / ノンプロ / アマチュア / ノンアマチュア
第14回	国民のスポーツ権をめざして	市場原理主義 / スポーツの自由 / 基本的人権
第15回	試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基本的な述語の理解を軸にして授業内容全体の理解度を重視する
コミュニケーションペーパーによる記述内容もプラス として加味することがある。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

スポーツの理解にとっては、各自のプレイ経験から得られるスポーツ実感が重要である。その意味で、各自のスポーツ経験を自覚的に関連づけて理解を深めていって欲しい。また、新聞やテレビ等でのスポーツを解説する記事に関心をもって欲しい。

教科書 / Textbooks

授業の中でレジュメと資料を配付するので、とくに「テキスト」とするものは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代・スポーツ・健康	立命館大学保健体育教室編 / 文理閣 / 89259-099-1 C3075 /
この参考書は ~ 部で構成されている。その内の 部と 部が直接この授業に係る部分である。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツと現代社会 SB

15135

担当者名 / Instructor 山下 高行

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、現代社会の中でスポーツが位置している状況を、いくつかの問題群を通して理解し、その有り様を考察すると共に、形成期に構造化された近代文化としての性格を再考することにより、今後どのような方向を目指すべきか考えることとしたい。また本講義が主に低回生を対象とすることを考慮し、これまで持っていた「スポーツ」の「概念砕き」を行えるよう、さまざまなトピックを交えながら講義を進めることとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツが現代社会の中でどのような位置を占め、どのような課題が存在しているか、社会の側から、またスポーツの側から考察し得るための基礎的知識や考え方を学ぶ。最終的には、現れているスポーツの様々な現象を社会的に考察し、自己の意見をもち得ることを目指すこととしたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と進め方	
2	現代スポーツの変化と問題群(1)変化の枠組み	国民国家とスポーツ、スポーツの市場的展開
3	現代スポーツの変化と問題群(2)国民国家とスポーツ	高度競技力とスポーツ
4	現代スポーツの変化と問題群(3)国家を表象するスポーツ	オリンピック
5	現代スポーツの変化と問題群(4)グローバルスポーツの展開	グローバルスポーツの見取り図、商品連鎖、移民
6	現代スポーツの変化と問題群(5)スポーツ商品	グローバルな商品連鎖とスポーツ
7	現代スポーツの変化と問題群(6)移民	スポーツ労働力商品 = 移民の現状と問題
8	近代スポーツの社会史(1)	近代スポーツとはなにか
9	近代スポーツの社会史(2)	近代スポーツと担い手
10	近代スポーツの社会史(3)	中心化と周辺化
11	現代日本社会の変化とスポーツ(1)	1970年代以降地域スポーツの展開
12	現代日本社会の変化とスポーツ(2)	80年代以降の変化と産業的展開
13	現代日本社会の変化とスポーツ(3)	Jリーグの誕生とスポーツの場の変化
14	まとめ	スポーツの場の変化と新しい担い手の登場

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

主題がより理解しやすいように、講義では可能な限り写真や映像などの視覚資料を使用する。同時に、適宜授業時間内にレポートを課し、受講生が自分の頭でまとめていくことができるようにしたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義内容の理解度、および自己の意見がきちんと作られているかを評価の基準とする
日常点・その他	30 %	適宜行うレポート提出により評価する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に使用しない。

参考書 / Reference Books

課題に応じ適宜授業時に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.jsss.jp/> (日本スポーツ社会学会HP)

<http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html> (日本スポーツ産業学会HP)

その他 / Others

スポーツの歴史と発展 SA

12931

担当者名 / Instructor 西原 茂樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義ではスポーツを広い意味での身体運動文化ととらえ、その社会的歴史的存在としての個性を、古代から中世、近代を経て現代に至るまで、主としてヨーロッパを中心にスポーツ文化の諸相とその発展の経緯から概観していく。講義では文献資料の紹介が中心となるが、受講生の理解を促進するために、できる限り映像資料なども用いて進めていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

講義を通じて、それぞれの時代におけるスポーツ文化が当該社会の中でいかなる意味を持っていたのか、また私たちが日頃親しんでいる野球、サッカーなどの「近代スポーツ」が、19世紀のヨーロッパの社会状況からの影響をいかに強く受けて生まれてきたのかといったことを理解してもらい、そのことによって受講者のスポーツ観が一層深まることを望みたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション、「スポーツ」の近代性	「スポーツ」の語義の変遷、時代区分
第2～4回	古代の身体運動文化	未開社会のスポーツ、古代文明のスポーツ、古代オリンピック、古代ローマのショー・スポーツ、古代日本のスポーツ
第5～7回	中世の身体運動文化	身分社会のスポーツ、キリスト教的合理化、都市のスポーツ、騎士学校、民俗フットボール、中世日本のスポーツ
第8～12回	近代スポーツの誕生と発展	近代化、合理的娯楽、パブリック・スクール、ルールの統一と組織化、アスレティズム、アマチュアリズム、近代オリンピック創設
第13回	近代スポーツの伝播と受容	文化帝国主義
第14回	日本における近代スポーツの受容と展開	運動会、メディア・イベント、野球
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業内容全体の理解度を重視する。
日常点・その他	30 %	数回に一度の割合で受講生にミニレポートを書いてもらい、それを日常点として組み入れる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義では主としてヨーロッパを中心に、日本の身体運動文化や近代スポーツの受容にもふれることになるが、スポーツ文化が発展していくうえで、ヨーロッパと日本とはどのような基盤の違いが存在しているのか、そのことを常に頭の片隅に置きながら受講してもらいたい。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。講義の中で参考となり得る文献をその都度紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
図説スポーツ史	寒川恒夫 / 朝倉書店 / 4-254-69023-1 /
古代オリンピック	桜井万里子、橋場弦 / 岩波書店 / 4-00-430901-8 /
近代スポーツの誕生	松井良明 / 講談社 / 4-06-149512-7 /
スポーツの歴史	レイモン・トマ / 白水社 / 4-560-05750-8 /
スポーツと帝国	アレン・グットマン / 昭和堂 / 4-8122-9712-5 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

スポーツの歴史と発展 SB

15124

担当者名 / Instructor 西原 茂樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義ではスポーツを広い意味での身体運動文化にとらえ、その社会的歴史的存在としての個性を、古代から中世、近代を経て現代に至るまで、主としてヨーロッパを中心にスポーツ文化の諸相とその発展の経緯から概観していく。講義では文献資料の紹介が中心となるが、受講生の理解を促進するために、できる限り映像資料なども用いて進めていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

講義を通じて、それぞれの時代におけるスポーツ文化が当該社会の中でいかなる意味を持っていたのか、また私たちが日頃親しんでいる野球、サッカーなどの「近代スポーツ」が、19世紀のヨーロッパの社会状況からの影響をいかに強く受けて生まれてきたのかといったことを理解してもらい、そのことによって受講者のスポーツ観が一層深まることを望みたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション、「スポーツ」の近代性	「スポーツ」の語義の変遷、時代区分
第2～4回	古代の身体運動文化	未開社会のスポーツ、古代文明のスポーツ、古代オリンピック、古代ローマのショー・スポーツ
第5～7回	中世の身体運動文化	身分社会のスポーツ、キリスト教的合理化、都市のスポーツ、騎士学校、民俗フットボール、中世日本のスポーツ
第8～12回	近代スポーツの誕生と発展	近代化、合理的娯楽、パブリック・スクール、ルールの統一と組織化、アスレティズム、アマチュアリズム、近代オリンピック創設
第13回	近代スポーツの伝播と受容	文化帝国主義
第14回	日本における近代スポーツの受容と展開	運動会、メディア・イベント、野球
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業内容全体の理解度を重視する。
日常点・その他	30 %	数回に一度の割合で受講生にミニレポートを書いてもらい、それを日常点として組み入れる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義では主としてヨーロッパを中心に、日本の身体運動文化や近代スポーツの受容にもふれることになるが、スポーツ文化が発展していくうえで、ヨーロッパと日本とはどのような基盤の違いが存在しているのか、そのことを常に頭の片隅に置きながら受講してもらいたい。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。講義の中で参考となり得る文献をその都度紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
図説スポーツ史	寒川恒夫 / 朝倉書店 / 4-254-69023-1 /
古代オリンピック	桜井万里子、橋場弦 / 岩波書店 / 4-00-430901-8 /
近代スポーツの誕生	松井良明 / 講談社 / 4-06-149512-7 /
スポーツの歴史	レイモン・トマ / 白水社 / 4-560-05750-8 /
スポーツと帝国	アレン・グットマン / 昭和堂 / 4-8122-9712-5 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

世界の言語と文化 S

10565

担当者名 / Instructor 梁 貞模、仲井 邦佳、MUELLER BEATE、玉木 佳代子、久津内 一雄、文 楚雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

言語習得(学習)に関わる基本的な課題と論点を整理した上で、異文化理解と多文化共生の観点から、産業社会学部で開設される初修外国語学習の動機付けをも踏まえて、言語と文化をテーマにして、講義を行う。この講義ではドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語の五つの言語とそれらの言語を話す国の文化について、それぞれリレー方式で講義する。外国語、特に初修外国語を学習する意義や目的、または、国際化の観点から、異文化理解、多言語・多文化共生、平和と民族共存などについての教養を深めて欲しい。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総論	
2	総論	
3	フランス語	
4	中国語	
5	中国語	
6	中国語	
7	スペイン語	
8	スペイン語	
9	スペイン語	
10	ドイツ語	
11	ドイツ語	
12	ドイツ語	
13	朝鮮語	
14	朝鮮語	
15	朝鮮語	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

* 定期試験として実施

* 筆記試験による評価。配点は、講義内容(各論 = 各国語)の基礎知識の確認が六割、講義内容(総論 = 第一回目講義)と関連した論述が四割。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

講義時レジュメ配布。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『言語学とは何か』	田中克彦 / 岩波書店 / 4-00-430303-6 /
『ことばと国家』	田中克彦 / 岩波書店 / 4-00-420175-6 /
『多文化主義社会の到来』	関根政美 / 朝日新聞社 / 4-02-259750-X /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

美と芸術の論理 S

12865

担当者名 / Instructor 竹中 悠美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

美や芸術という、普段もっぱら感性的にとらえ、享受しているものを学問の対象として考察し、論ずるなら、どのような論理的アプローチが可能であろうか？

当科目は、まず古代ギリシアを起源とする西洋美術を研究対象とした美学や美術史学の基本的な問題意識と概念、および方法論から始める。次に19世紀半ばから20世紀半ばまでの芸術を論じたモダニズム理論を検証し、さらに私たちと同じこの時代に生み出されている現代アートが置かれている状況や、現代アートがなにをどのように表現しているのかを考察していく。また、芸術／非芸術の区分を超えた視覚文化という広い視野のもとで「美」や「芸術」という概念をとらえなおしたり、「イメージを見る」ということが文化や社会の中でどのように機能しているかを問うひとまわり大きな視点にも議論を進める。

到達目標 / Attainment Objectives

美術の歴史と様々な芸術論の基礎的知識を習得し、それを足がかりとして美や芸術について自分で考え、言葉にしていく力を身につけることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンスと導入	単位が必要な学生は必ず出席すること
2	様式論(1)	古代ギリシア、中世キリスト教美術、ルネサンス
3	様式論(2)	ルネサンスとバロック、ロココとロマン主義
4	意味論(1)	イコノロジーとイコノグラフィー
5	意味論(2)	マニエリスムとネーデルラント絵画
6	モダニズム論(1)	印象主義、表現主義、抽象絵画
7	モダニズム論(2)	アヴァンギャルドとフォーマリズム
8	中間テストとまとめ	
9	視覚論(1)	視覚装置の発展と視覚性
10	視覚論(2)	視線の政治学
11	現代アート論(1)	現代アートの主題
12	現代アート論(2)	現代アートの制度と場所
13	視覚文化論(1)	芸術と非芸術
14	視覚文化論(2)	現代アートとサブ・カルチャー
15	最終講義日試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

授業内容に関連した展覧会があれば紹介し、自主的な美術展見学や鑑賞を推奨する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	50 %	記述問題中心。自筆のノートと教科書持ち込み可。
日常点・その他	50 %	中間期の授業で行うテスト。記述問題と選択問題。持ち込み不可。

出席は取らないが、受講生は全授業出席していることを前提としている。よって、正当な理由のない欠席・遅刻・途中退出によって授業の進行についていけなくなったり、連絡事項や試験範囲を聞き逃したりしても、フォローはないことを理解しておくこと。

また、この科目の単位が必要で、絶対に落とせないという学生は、試験の間際ではなく、必ず2回目の授業までに申し出ておくこと。授業を真面目に受けていても単位が危ぶまれる場合には相談のうえ特別なレポート課題を出す場合がある。もちろん、やむを得ない理由なしに欠席をしたり、出席していてもしっかりとノートを取っていない場合はそのような救済措置は行わない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

参考文献や参考ウェブサイトおよび配付資料は授業用ホームページでも公開している。ただし、授業中に提示する画像は毎回50点以上あり、画質やサーバーの容量や著作権等々の理由により公開していないので、授業中は作品画像をよく観察しながら素速くメモを取っていく集中力が要求される。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アートスタディー	秋庭史典、島本浣、竹中悠美、長尾浩幸、茂登山清文編 / 晃洋書房 / / 2007年4月刊行予定

上記の教科書は主に後半の授業で用いるので、後半より持参すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
美学と現代美術の距離	金悠美 / 東信堂 / /
カラー版 西洋美術史	高階秀爾監修 / 美術出版社 / /
カラー版 20世紀美術史	末永昭和監修 / 美術出版社 / /
ヴィジュアル・カルチャー入門	ジョン・A・ウォーカー / サラ・チャップリン / 晃洋書房 / /
アートを学ぼう	大森淳史、川田都樹子、岡林洋編 / ランダムハウス講談社 / / 2007年春刊行予定

その他、授業中に紹介し、順次、参考文献リストを授業用ホームページでも順次公開する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業用ホームページ <http://mypage.odn.ne.jp/home/artichoke>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 村田 好哉

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

明治から大正という時代の大きな転換期とも重なり1910年代には多様な文学運動の中から多くの問題作が生まれた。本講義では時代や社会とのかかわりをふまえながら、1910年代を代表する作家やその作品について具体的に考えることを通じて理解を深め、あわせてその特色についての考察を試みたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1910年代の文学の特色を理解した上で、代表的な作家やその作品について説明することができる。あわせて自分の考えを的確に述べるができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	ガイダンス	日本近代文学を学ぶことの意義
第2回目	日本近代文学入門	日本近代文学の流れ
第3回目	白樺派の文学 1	志賀直哉 人と作品
第4回目	白樺派の文学 2	「城の崎にて」の世界
第5回目	新思潮派の文学 1	芥川龍之介 人と作品
第6回目	新思潮派の文学 2	「枯野抄」の世界
第7回目	新思潮派の文学 3	菊池寛 人と作品
第8回目	新思潮派の文学 4	「藤十郎の恋」の世界
第9回目	余裕派の文学 1	森鷗外 人と作品
第10回目	余裕派の文学 2	「雁」の世界
第11回目	余裕派の文学 3	夏目漱石 人と作品
第12回目	余裕派の文学 4	「道草」の世界
第13回目	耽美派の文学 1	谷崎潤一郎 人と作品
第14回目	耽美派の文学 2	「刺青」の世界
第15回目	まとめ	1910年代の文学の意義

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

講義で取り上げる作品は、できるだけ読んでおくこと

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義内容の理解度と、自分の考えが論理的に述べられているか等を基準とする。
日常点・その他	20 %	

定期試験の成績を主とし、出席状況等とあわせて総合評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
1910年代の文学	玉井敬之他 / 翰林書房 / 4-87737-009-9 c0093 / 1997年

参考書 / Reference Books

講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

文化人類学入門 SB

15121

担当者名 / Instructor 鈴木 清史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

世界にはさまざまな民族が生活しており、かれらは固有の生活様式を有している。文化人類学では、こうした民族の個別研究を積み重ね、比較することによって人間とは何かを考えようとしている。本講義は文化人類学入門であり、この分野の基本的な考え方や概念を事例を用いて紹介する。

到達目標 / Attainment Objectives

文化人類学の基本的な概念や考え方を理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入総括説明	
2	イントロダクション 文化人類学とは何か	用語の紹介・整理など
3	文化人類学史概説	理論的展開や学史の概説
4	人類の起源と進化	
5	人間と文化(1) 環境適応戦略としての文化の特徴	
6	人間と文化(2) 言語など	
7	人間と生計(1) 食料入手の活動の検討	狩猟採集
8	人間と生計(2) 食糧確保の活動	牧畜・農耕
9	食を巡る現象 生業活動の補足と事例紹介	
10	世界観 宗教と人間	
11	社会組織(1) 親族関係	
12	社会組織(2) 親族を超えて	
13	文化人類学の方法	
14	まとめ	
15	定期試験予定	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	95 %	客観的・判断可能な素材を利用する予定
日常点・その他	5 %	

* 定期試験として実施 成績評価の仕方は受講生数によっても変わります。授業中にも指示をします。受講生数に応じて試験形式はかわります。本シラバス作成時点では受講生数の情報を入手していないのでこれ以上のことは言えません。授業が始まった段階で具体的な指示をします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
増補改訂版 文化人類学入門	祖父江孝男 / 中公新書 / /
人類学の歴史	アダム・クーパー / 明石書店 / /
装いの人類学	鈴木・山本編 / 人文書院 / /

文献は、参考書のほかにも授業の進行に応じて適宜紹介します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

文化人類学入門 SA

15145

担当者名 / Instructor 山本 勇次

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

私は、この『文化人類学入門』において、次の二つのことを主張したい。第一は、本来人間の文化はトータルな「全体性」を持っており、その全体のバランスの上に我々の健全な精神が存立している。それが、第二に、グローバル市場の競争に強迫された産業社会に生きる我々は、効率化の追求に専念して余りにも細分化した専門性の領域に埋没しようとしすぎている。現在の文化人類学は、21世紀に生きる人類の各個人が、極めて細分化された専門家への成就ゆえに、人間としての全体性のバランスを失はしめたことに警鐘を鳴らす学問であろう。

到達目標 / Attainment Objectives

文化人類学をもっと本格的に勉強したいと思うようになる学生が一人でも多く出てくるように、諸君を知的興味の極みにお誘いすることが、本入門講座を担当する小生の「挑戦」である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

入門コースであるから、受講に必要な知識・スキルなどはまったく必要ない。我々は、今や全ての物事を地球的規模で考える必要があるという見識と、近い将来世界のどこかで活躍したいという希望を抱く学生諸君を、心から歓迎したい。さらに諸君が、人間以外の動物一般、とりわけ我々の進化論的同族であるエイブを愛する心の広い動物愛護派ならば、もっといい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の方針・概要の説明： 野外科学としての文化人類学の成立と、それがカバーする知的全体領域。	フィールド・サイエンス、殖民主義、アームチェア人類学者、E.タイラー、フランツ・ボアズ、J.フレーザー。
2	先史人類学入門： サルからヒトへの進化、ポスト・ダーウィニストによる進化系統樹のDNA分析による理論的検証。	C.ダーウィン、R.ドーキンス、ガラパゴス諸島、サバンナ化と直立二足歩行、脳の発達、道具の使用、言語の誕生。
3	言語人類学入門： 恐竜と共存した夜行性哺乳類、野生類人猿の言語、イルカの言語と人間の言語の比較。	P.カーペンターズ、N.チョムスキー、コンピテンストパフォーマンス、ASL、ワショー、サラ、ラナ、アイ、野生人。
4	結婚・家族論入門： 結婚の成立、家族の誕生、インセスト・タブーの発生とその理由、性行為と生殖行為との分離。	親子相姦、性の自家消費、オイデップス・コンプレックス、C.レヴィ＝ストロース、女によるコミュニケーション、一般交換と限定交換。
5	社会人類学入門： 親族名称・婚姻研究の進化論的影響、親族名称の6つの類型。	L. H. モルガン、G. P. マードック、HRAF、クロ ^A -パー＝マードック方式、イロコイ型、エスキモー型、ハワイ型。
6	エスノグラフィー入門： B. マリノフスキーによるトロブリアド諸島でのフィールドワークと、その方法論の確立。	『西太平洋の遠洋航海者』、クラ、ギムワリ、ムワリ、ソウラヴァ、互酬性の規範、カヌー、呪術信仰。
7	経済人類学入門： 沈黙貿易、贈与から貨幣市場への発達と貨幣・利子の誕生。ワインの互酬的交換の象徴的意味。	K. ポラニー、M. モース、ハウ、ポトラッチ、贈与の三義務、M. サーリンス、血族関係と互酬性の三類型。
8	民俗生殖理論入門： 未開社会からの現代生殖医療への倫理的警告。人工生殖への各国の法的処理。	エミックとエテック、ジェニター、ジェトリックス、ベイター、メーター、ゴースト父、代理母出産と親権論争。
9	エスノグラフィー的ビデオ鑑賞： 『ヌアー族』(但し、英語)	E. プリチャード、婚資金、ゴースト結婚、上昇婚・下降婚、牧畜、牛の放牧。
10	心理人類学入門： オイデップス・コンプレックス、通過儀礼、文化化、文化とパーソナリティ、IQとEQと人種差別。	G. フロイド、F. ヘネップ、オイデップス・コンプレックス、R. ベネディクト、文化の型、基本的人格、Fスケール。
11	政治人類学入門： 権力と支配、リーダーシップ、エスニック集団、複合民族国家のエスニック紛争、難民。	人種、民族、エスニシティ、階級、カースト、部族、利益集団、マイノリティ、エスニック同一性、大衆稼働力、テロ。
12	日本文化論入門： シンター・メンタリティと儀礼的互酬交換、価値の二重原理と思想的転向、儀礼的贈答と社交。	神道、折口信夫、柳田國男、ケガレ浄化と再生産力、言霊現象、理論信仰と実感信仰、談合、賄賂。
13	ネパール観光人類学入門： 観光都市ボカラの発展と文化的・社会的変容、フィールドワークの撮影ビデオ鑑賞。	ヒンドゥー教、カースト制度、カースト通婚、上昇婚、下降婚、サンスクリット化、スクンパシ、マオイスト。
14	フィールドワーク入門： 情報過多の日本を離れ、外国語で現地人と話会いながら、新しい自分を探しに行こう！	外国語習得、ラポール、参与観察、インフォーマント、KJ法、フィールドノート、デジカメ、地図作成、危機管理術。
15	総合的質疑応答とビデオ鑑賞(沢木耕太郎『深夜特急』：南アジア編)	出席点、最終テストに関する質問などを受け付け。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

授業を受けたら、それをテーマ毎に大きくまとめる復習をしてほしい。それがテストで高得点を取るコツだ。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義中配布した資料の持ち込みは許可する。
日常点・その他	30 %	出席表にコメント・質問を書いて毎回提出してもらう。全出席なら2点×15回 = 30点。

授業中の私語は、周囲の迷惑になるから止めるようにお願いします。
授業中は脱帽。室内では男子は脱帽するのが、国際的なエチケットである。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

予習は別に必要でない。しかし、講義終了後に、話された講義テーマ毎に大きくまとめておいてください。
テスト前に役立ちます。

教科書 / Textbooks

講義の進行に合わせて、テキスト代わりの配布資料を、ほぼ毎回お配りする。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ヒトと文化	江口信清 / 八千代出版 / 4-8429-0520 /
「貧困の文化」再考	江口信清(編著) / 有斐閣 / 4-641-19938-8 /
生活世界としての「スラム」	藤巻正巳(編著) / 古今書院 / 4-7722-4024-1 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

その他 / Others

企業と社会 S

12979

担当者名 / Instructor 玉井 信吾

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本経済を支えている会社のおかれている状況を理解するためには、会社というものの全体像をつかみ、その仕組みや運営・動きを知ることが必要である。このためには、企業に関する基礎的知識を確実に習得することである。更に、企業間関係や企業のグローバル化などの現代企業の活動、そして、直面する諸問題について理解しておくことが必要である。

到達目標 / Attainment Objectives

上記「授業の概要」を参照のこと。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

企業財務、或いはコンプライアンスなどに関する講義科目を履修済みであれば、本講義の内容は理解し易くなると思われる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	オリエンテーション	
第02回	会社とは何か/会社の種類/会社以外の事業組織	
第03回	株式会社の誕生・普及/資本と経営の分離	
第04回	会社の組織・制度/日本の株式会社・世界の株式会社	
第05回	資金調達メカニズム/株式公開・株式上場	
第06回	企業格差(大企業と中小企業)	
第07回	事業の縮小・整理・倒産	
第08回	企業経営を支える制度・企業環境	
第09回	企業間関係の諸類型/財閥と企業集団	
第10回	企業グループ/下請企業グループ	
第11回	日本企業の多国籍化/日本的経営の海外移転	
第12回	外資系企業/世界の中の日本企業	
第13回	企業の社会的責任・貢献/環境問題など	
第14回	総括	
第15回	最終講(進度調整用の予備時間)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

日本経済新聞の産業や経済などの記事を読むことを薦める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	記述・論述形式を中心とする。
レポート試験	20 %	VTR教材を見た上で、設問に解答してもらう。
最終講義日試験	0 %	なし。
日常点・その他	10 %	出席点ではなく、毎回の質問・感想票(=任意提出)とする。

* 定期試験として実施---

期末試験(評価全体の70%を占める)による。VTR教材視聴を通じた小レポートも求めるが、あくまで上記試験にとつての補完的評価材料という位置づけを越えることはない。出席点は10%程度は考慮する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
企業形態論(第3版)	小松 章 / 新世社 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本型コーポレート・ガバナンス	伊丹 敬之 / 日本経済新聞社 / /

テキスト現代企業論	坂本 恒夫ほか / 同文館出版 / /
西武事件	吉野 源太郎 / 日本経済新聞社 / /
日米欧の企業経営	吉森 賢 / 放送大学教育振興会 / /

上記以外の参考文献については講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本経営学会 --- <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsba/>
組織学会 --- <http://wwwsoc.nii.ac.jp/aos/>

その他 / Others

丸暗記だけで単位がとれる仕掛けにはなってありません。

担当者名 / Instructor 吉垣 実

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、企業社会における法の機能とその役割を果たす役割について学ぶ。ビジネス法の学習が中心となる。しかし、ビジネス法という名前の法律が存在するわけではない。ビジネス法とは、市場経済体制のもと、利益を得ることを目標に企業が行う生産から消費に至るまでの経済活動と、これと関連する金融・保険、さらには、情報通信および各種サービスなどの諸活動を推進または規制する法律の総体であるということが出来る。それゆえ、ビジネス法を学ぶということは、企業活動に関連する法律全般、とくに民法および会社法、労働に関する法、さらには、紛争の予防や解決に関する法律などを広く学ぶことを意味することになる。

到達目標 / Attainment Objectives

法律を学ぶというと、法律の条文を丸暗記し、裁判所が示した判断をおぼえることだと思っていないだろうか。本講義では、まず法律学の常識・非常識、ビジネスにおける法律の重要性、ビジネス法の輪郭などを理解してもらい、最終的には、大学生として最低限しておくべき法的素養を身につけることを目標とする。講義終了後には、今まで抱えてきた法のイメージが少しでも変わっていればと願っている。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なるべく多くの法律系科目を履修してほしい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	法学への招待	
2回	六法全書に触れてみよう(1)	
3回	六法全書に触れてみよう(2)	
4回	民法(1)	
5回	民法(2)	
6回	会社法(1)	
7回	会社法(2)	
8回	民事訴訟法(1)	
9回	民事訴訟法(2)	
10回	ケーススタディ(1)	
11回	ケーススタディ(2)	
12回	ケーススタディ(3)	
13回	ケーススタディ(4)	
14回	ケーススタディ(5)	
15回	最終講義日試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method
成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	

最終講義日試験の結果によって判断する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義中に触れる。

教科書 / Textbooks**参考書 / Reference Books**

六法(ポケット版のものでよい)は必ず持参すること。
その他については、講義中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

現代日本の政治 S

12949

担当者名 / Instructor 赤澤 史朗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

日本政治の現状を理解することに焦点を当てながら、その背景となる制度や歴史に関する基本的知識・考え方の習得に力点をかけて講義します。授業内容の3分の2位はテキスト『現代日本政治』（五十嵐仁著）に沿って展開しますが、テキストにない内容が3分の1位あり、毎回授業のレジュメを出します。テーマに関連して新聞記事のトピックスも紹介、解説することがあります。

到達目標 / Attainment Objectives

現代日本政治の基本的な枠組みについての理解を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

科目としてはありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	政治とは何か(テキストの序章)	紛争と解決
第2回	正統性と権力(pp.21～29)	合法的支配
第3回	議会と政党(pp.32～46, 42～45)	代表
第4回	日本の国会(pp.62～72, 86～89)	国会の種類
第5回	日本の選挙(pp.46～51, 104～110, テキストになし)	小選挙区比例代表並立制
第6回	政党と族議員(pp.110～122, 84～86, 91～95)	優勢政党制
第7回	圧力団体と政治資金(pp.38～42, 136～140)	政治資金規正法
第8回	日本の官僚(テキストになし, pp.51～54)	大部屋主義
第9回	日本の内閣(pp.72～84)	内閣強化策
第10回	マス・メディアと政治(テキストになし, pp.51～54)	議題設定機能
第11回	地方自治(pp.187～192)	団体自治、住民自治
第12回	憲法改正問題(テキストになし, pp.172～173)	解釈改憲論
第13回	現代日本のナショナリズム(テキストになし, pp.166～167)	冷戦終焉
第14回	講義のまとめと補足	
第15回	定期試験日	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

新聞の政治欄、社会欄を読むようにしてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基本事項の理解度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業を聞き、ノートを取る

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代日本政治	五十嵐仁 / 八潮社 / 4-86014-100-8 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

現代の経営 S

12857

担当者名 / Instructor 宮内 拓智

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「現代の経営」のテーマは、P.ドラッカーの経歴と理論の紹介とともに、社会と経営と人間は、どのような相互関係と相互作用の下にあるのか、経営者・管理者は経営体を社会の中でいかに存続させればよいのか、人間は経営体や経営者にどのように接すればよいのかなどです。

到達目標 / Attainment Objectives

企業・経営・マネジメント・マーケティングに関する基礎知識を、具体的な商品や企業・業界を事例を通じて、理解し、企業経営の社会的・現代的意義の探求にむかう問題意識を獲得してもらうことを教育目的としている

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくにない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	企業と組織	法人、会社制度、株式会社
第2回	マネジメントとマーケティング	顧客満足、従業員満足、株主満足
第3回	マネジメントの役割と仕事	成果、評価、イノベーション
第4回	事業とは何か	顧客、製品コンセプト、ビジネス・モデル
第5回	事業をマネジメントすること	新製品開発、新事業開発、
第6回	明日の成果のための意思決定	経営戦略、マーケティング・リサーチ、顧客創造
第7回	経営管理者をマネジメントする	ミドル・マネジャーの役割、知識労働者の生産性
第8回	中間総括	
第9回	目標と自己管理、組織文化	目標管理、成果主義、業績評価
第10回	人と仕事のマネジメント	標準化、体系化、専門化
第11回	最高の仕事のための人間組織	軍隊型組織、機能別組織、事業部制組織
第12回	最高の仕事への動機付け	経済的インセンティブ、非経済的インセンティブ、フィードバック
第13回	経営管理者であることの意味	成果、リーダーシップ、イノベーション
第14回	全体総括	
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

- 1.学部科目：産業社会学部
- 2.授業外の学習の指示：適宜、指示する。
- 3.大学院科目：該当なし
- 4.授業の方法：講義形式を中心とするが、適宜、学生の感想などを求める場合がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	基礎概念の理解をはじめ、論旨の論理性や 独自性などを問う。
最終講義日試験	30 %	基礎概念の理解をはじめ、論旨の論理性や 独自性などを問う。
日常点・その他	10 %	積極性や貢献度など

とくにない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

適宜、指示する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
なし	///

適宜、紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

なし

///

適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する。

その他 / Others

とくにない。

現代の経営 SB

16867

担当者名 / Instructor 宮内 拓智

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「現代の経営」のテーマは、P.ドラッカーの経歴と理論の紹介とともに、社会と経営と人間は、どのような相互関係と相互作用の下にあるのか、経営者・管理者は経営体を社会の中でいかに存続させればよいのか、人間は経営体や経営者にどのように接すればよいのかなどです。

到達目標 / Attainment Objectives

企業・経営・マネジメント・マーケティングに関する基礎知識を、具体的な商品や企業・業界を事例を通じて、理解し、企業経営の社会的・現代的意義の探求にむかう問題意識を獲得してもらうことを教育目的としている

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくにない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	企業と組織	法人、会社制度、株式会社
第2回	マネジメントとマーケティング	顧客満足、従業員満足、株主満足
第3回	マネジメントの役割と仕事	成果、評価、イノベーション
第4回	事業とは何か	顧客、製品コンセプト、ビジネス・モデル
第5回	事業をマネジメントすること	新製品開発、新事業開発、
第6回	明日の成果のための意思決定	経営戦略、マーケティング・リサーチ、顧客創造
第7回	経営管理者をマネジメントする	ミドル・マネジャーの役割、知識労働者の生産性
第8回	中間総括	
第9回	目標と自己管理、組織文化	目標管理、成果主義、業績評価
第10回	人と仕事のマネジメント	標準化、体系化、専門化
第11回	最高の仕事のための人間組織	軍隊型組織、機能別組織、事業部制組織
第12回	最高の仕事への動機付け	経済的インセンティブ、非経済的インセンティブ、フィードバック
第13回	経営管理者であることの意味	成果、リーダーシップ、イノベーション
第14回	全体総括	
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

- 1.学部科目：産業社会学部
- 2.授業外の学習の指示：適宜、指示する。
- 3.大学院科目：該当なし
- 4.授業の方法：講義形式を中心とするが、適宜、学生の感想などを求める場合がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	基礎概念の理解をはじめ、論旨の論理性や 独自性などを問う。
最終講義日試験	30 %	基礎概念の理解をはじめ、論旨の論理性や 独自性などを問う。
日常点・その他	10 %	積極性や貢献度など

とくにない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

適宜、指示する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
なし	///

適宜、紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
なし	///

適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する。

その他 / Others

とくにない。

現代の国際関係と日本 S

15146

担当者名 / Instructor 篠原 美江

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマは『世界経済のグローバル化と日本』。現代の国際関係と日本について、主に経済的側面から学ぶ講義です。グローバル化の進展によって表面化した現代の世界経済における様々な諸問題について、日本との関連性を視野に含めながら総合的に把握し、それらの解決へ向けていったいどのような第一歩を踏み出すべきか、議論を通じて理解を深めていくことが本講義の目的です。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標は、次の3点です。

- 1) 現代の世界経済における現状とその特徴について把握する。
- 2) 現代の世界経済を取り巻く諸問題について理解する。
- 3) 現代の世界経済における諸問題に対して、積極的に関わっていくための想像力、構想力、対応力を身に付ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	
第2回	世界経済のグローバル化と地域化	現代における世界経済の動向
第3回	世界貿易の動向と自由貿易協定 (FTA)	GATTからWTOへの移行、貿易自由化の拡大
第4回	多国籍企業と海外投資	国際投資の進展、多国籍企業の活動と諸問題
第5回	国際通貨体制と円	国際通貨体制の成立、国際通貨と地域通貨
第6回	世界人口と食糧問題	世界人口の動向、食糧需給バランス、グローバル化時代の食糧政策
第7回	ディスカッション - その1	第2回～第6回の講義内容に関する問題提起
第8回	地球環境問題 - その1) 資源問題の本質と論点	枯渇性天然資源と非枯渇性天然資源、代替資源
第9回	地球環境問題 - その2) 工業化の促進と環境破壊	工業化促進の論理、循環型経済社会への転換
第10回	世界における所得格差	南北問題、海外援助、対応策としての地域主義の台頭
第11回	グローバル化と軍事化の進展	冷戦崩壊後の軍事化、政府の経済政策、市民社会への道
第12回	現代の世界経済と日本	グローバル化の進展と日本の選択
第13回	ディスカッション - その2	第8回～第12回の講義内容に関する問題提起
第14回	講義のまとめ	
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	論述形式の問題。
日常点・その他	20 %	ディスカッション(第7回、第13回)の問題提起に対する論述回答(試験ではありません)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講にあたって、世界経済に関する特別な知識は必要ありません。ただし、新聞やテレビ、インターネット等を通じて世界経済に関する情報と日常的に接し、関心を高めておくことが、講義をさらに理解するための手助けになります。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
経済新語辞典2007年版	日本経済新聞社 / 日本経済新聞社 / 978-4532215163 / 生協書籍部で購入可
世界経済図説 第二版	宮崎勇、田谷禎三 / 岩波新書 / 978-4004306573 / 生協書籍部で購入可
講義プリントの「参考書ガイド」を参照してください。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国連貿易開発会議 (UNCTAD)のHP www.unctad.org
経済協力開発会議 (OECD)のHP www.oecd.org

その他 / Others

現代の世界経済 S

15296

担当者名 / Instructor 中戸 祐夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

グローバル化が進んでいる現代の国際社会においては、世界経済を舞台に様々なドラマが繰り広げられています。こうしたドラマを読み解くために、本講義では政治、経済、社会、文化のそれぞれの相互関係や歴史的背景を基礎から把握することで、現代世界経済の諸問題に対する理解を深めたいと思います。本講義は経済学の知識を必要としませんが、共通科目として現代の世界経済について学びたいと思う学生を対象にします。

到達目標 / Attainment Objectives

現代の世界経済をグローバルな視点から捉え、世界経済に関するニュースや新聞記事に対して自分なりの考えを持てるようにすること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	
第2～14回	現代世界経済をとりまく諸問題	国際貿易 国際金融 国際投資 多国籍企業 南北問題 グローバリゼーション その他
第15回	試験	

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	50 %	
日常点・その他	50 %	
試験と小レポート(3～5回)		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

とくに使用しませんが、日本経済新聞などの新聞記事や雑誌記事、ニュースなどを題材に活用します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

国際化と法 S

15137

担当者名 / Instructor 井出 真也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

国際社会においても、国内社会と同様、絶えず紛争が生じている。テロ問題、環境問題、人権問題、領域問題など、国際社会には将来のために解決をしなければならない問題が山積している。本講義では、このような様々な国際問題を解決するに当たって、法がどのように役立ち、また活用されているのかという観点から、現状の国際関係を読み解きたい。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 本講義を通じて、国際問題に少しでも関心を持ってもらえるようになれば幸いである。
 - (2) 本講義を通じて、国際社会における価値観の多様性に触れてもらいたい。
- この2点が、本講義における到達目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「市民と政治」等の政治系科目及び「現代社会と法」などの法律系科目を平行して履修することにより、本講義に対する理解がいっそう促進されると思われる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション(1)	国際テロリズム、安全保障理事会、自衛権
第2回	イントロダクション(2)	越境汚染、地球環境問題
第3回	人権の歴史(1)	人権概念の誕生、自由権、社会権
第4回	人権の歴史(2)	大日本帝国憲法、不平等条約改正
第5回	国際人権保障(1)	第一次世界大戦、国際連盟による人権保障
第6回	国際人権保障(2)	第二次世界大戦、国際連合による人権保障
第7回	国際人権保障(3)	社会権規約委員会、規約人権委員会、人権条約の履行確保システム
第8回	国際人権保障と日本	日本の裁判所における国際人権保障、国際人権教育
第9回	性別と国際人権(1)	国際結婚、国際離婚
第10回	性別と国際人権(2)	ドメスティックバイオレンス(DV)、日本のDV防止法
第11回	領域問題(1)	領土・領空・領海、領域の取得原因、国家主権
第12回	領域問題(2)	南極、宇宙、国際河川、人類の共同財産
第13回	領域問題(3)	海洋法条約、船舶の通航制度、深海底
第14回	領域問題(4)	日本の領土問題(竹島問題、千島問題、尖閣諸島問題)
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

新聞やインターネット中の国際問題に関する記事に積極的に目を通しておくことによって、本講義の理解がいっそう促進されると思われる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

国際問題は、用語等が難しく、最初はとっつきにくく感じられると思われるが、イスラム問題や資源問題など、自分の少しでも関心のある問題について、インターネットや読書等を通じて、自分で積極的に調べてみることで、国際問題の理解には大事である。

教科書 / Textbooks

特に指定するテキストはない。テーマに併せて随時レジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
国際法から世界を見る	松井芳郎 / 東信堂 / /
テロ、戦争、自衛	松井芳郎 / 東信堂 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- <http://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html> (外務省ホームページ)
<http://www.unic.or.jp> (国連広報センターホームページ)

持続可能な開発 GA

12798

担当者名 / Instructor 大西 学

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「持続可能な開発 (Sustainable Development)」が『Our Common Future』の中で登場し、注目を集めてから、既に20年が経過した。環境問題は、現在でも様々な形で噴出し、多様な視点からその把握と解決が提示されているが、その際に「持続可能な開発」の概念は欠くことのできないキーワードとなっている。

そこで本講義では、「持続可能な開発」の概念、環境問題の多様性、主にミクロ経済学の視角からその問題の把握と解決のための手法の解説、の3点を通じて、「持続可能な開発」に向けた取組みとその課題について理解することを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・「持続可能な発展」という用語の登場背景とその概念についての理解を深める。
- ・「持続可能な発展」に向けて、ミクロ経済学の枠組みから環境問題に対する解決方法を習得する。
- ・様々な環境問題の事例から、「持続可能な開発」の構築を可能とする政策的手段についての知識を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
イントロダクション	「持続可能な開発」は、1987年に国連の「環境と開発に関する世界委員会」にて提示された定義が採用されることが多い。まず、この用語の登場背景とその問題意識を解説する。	成長の限界、ブルントラント委員会
「持続可能な開発」とは何か	「持続可能な開発」の定義は多岐に渡る一方で、これを脅かす原因の多くが経済活動に関わっている。ここでは特に環境と経済の関係に着目し、環境思想を概観した上で、「持続可能な開発」に対する定義を確認していく。	持続可能な開発、環境主義、人間中心主義
環境経済学の概観	環境問題に対する解決策は、当然問題の把握の仕方によって変わる。新古典派経済学を中心に、「諸」環境経済学がどのような視角から環境問題を捉え、そして解決策を提示しているのか、概観する。	新古典派、マルクス、エントロピー
外部性と内部化 (新古典派からの環境問題に対するアプローチの理論的枠組み)	新古典派経済学では、市場に反映されない経済的影響(外部性)をどのように市場の中に取込む(内部化)かが、焦点となる。この「外部性」の「内部化」についての理論的枠組みについて学ぶ。	市場メカニズム、外部性、内部化
内部化の手段 : 環境税:ピグー税とボーモル・オーツ税	外部性を内部化する手段の一つ、環境税を取り上げる。環境税には、ピグー税とボーモル・オーツ税があるが、これを「パレート最適」と「費用最小」の差異を踏まえて理解する。	パレート最適、費用最小
内部化の手段 : 許可証取引制度:地球温暖化 / アメリカ・京都議定書	外部性を内部化する手段の一つ、許可証取引制度(量的規制)を取り上げる。特に、環境税(価格規制)との比較をし、両政策手段の長短を把握する	ワイツマンの定理
その他の政策手段:	環境問題を解決する手段は、何も外部性の内部化に限らない。ここでは、直接規制、補助金、デポジットといった政策手段に対して、経済的側面からその有効性を検討する。	効率性、汚染者負担原則
環境価値の測定	環境が持つ価値を、人々の支払意思額(Willingness to pay)から算定し、その貨幣的価値を表現する方法がある。これを算出する各手法について概観する。	利用価値、非利用価値、支払意思額
各論対象 大気汚染と水質汚濁	水俣病や四日市喘息に象徴されるように、大気汚染や水質汚濁は環境汚染の典型的なケースである。内外の事例を元に、その問題解決に取られた各政策手段を検討する。	課徴金、排出権取引制度、直接規制
各論対象 :景観の保全	生活空間の中にアメニティ(快適な環境)を創出するために、豊かな景観の保全が求められている。伝統的な建築物である京町家を事例に、その経済的価値の測定とその活用について学ぶ。	アメニティ、文化的価値、経済的価値
各論対象 :都市交通	都市の郊外化と中心市街地の空洞化を促進した要因の一つにモータリゼーションが挙げられる。このように交通機関が都市に与える影響を踏まえ、特に自動車交通のコントロールについて理解を深める。	中心市街地の活性化、交通権、ロード・プライジング、

各論対象 : 漁業 (その他第1次産業類?)	漁業では、乱獲による資源量の低下と漁業経営の悪化、という二つの問題を抱えているケースが稀ではない。ここでは、許可証取引制度の導入によって、その二つの問題の解決に向けた取組みについて解説する	コモنز、レント
各論対象 : 地球 温暖化問題	京都議定書は、2008年から2012年までを対象として、先進国の温室効果ガスの排出抑制を目指したものである。そこで採用された京都メカニズムの特徴をまとめつつ、今後の展望を考察する	京都メカニズム、南北問題
まとめ	これまでの内容を振り返り、「持続可能な開発」、およびその取組みと課題への理解を深める。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	いくつかのテーマの中から選択する形で、達成目標に到達と「持続可能な開発」に対する受講生自身の考えを記述してもらう。
日常点・その他	30 %	講義時における発言、および配布するコミュニケーション・ペーパーにおけるコメントは、講義への積極的参加として考慮する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

経済学的な視点から、「持続可能な開発」についての捉えることを主軸とするものの、その限界についても言及する。頭の体操という気持ちを持って受講して欲しい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「環境経済学」	植田和弘 / 岩波書店 / /
「環境経済学」	岡敏弘 / 岩波書店 / /
「環境経済学」	柴田弘文 / 東洋経済 / /

その他は各回に応じて適宜参考テキストを紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

市民と政治 S

15120

担当者名 / Instructor 一柳 直子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代社会では、市民が政治に参画する民主主義が多くの国々で政治制度として浸透している。しかし他方で、この民主主義が今なお未成熟な国家も多数存在する。そもそもこの民主主義という概念は西洋世界で発展してきたものである。この民主主義の形成・発展過程を中心に、この概念がどのようにして、今日の我々の政治システムとして成立したかを学び、同時にこのシステムに内包される諸々の問題点について考察することが本講義のテーマである。

到達目標 / Attainment Objectives

市民社会論の基本問題や概念を幅広く理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に政治学に関する知識を持っていることは要求しないが、学習意欲の高い学生の受講を望む。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	市民と市民社会へのアプローチ
第2回	ヨーロッパにおける市民社会の形成・その1	ホブズ、ロック、スミスの市民社会論
第3回	ヨーロッパにおける市民社会の形成・その2	カント、ヘーゲル、マルクス、トクヴィルの市民社会論
第4回	国家とは何か	近代国家、ネーション、管理国家、行政国家など
第5回	議会制度	議会制度、議会主義、議会制デモクラシー、両院制、議院内閣制など
第6回	選挙制度・その1	日本、イギリス、フランス、ドイツの選挙制度
第7回	選挙制度・その2	アメリカの政体と大統領選挙の仕組み、二大政党制、連邦制など
第8回	政党 - 政治と集団	政党の起源、諸類型、機能など
第9回	官僚制	官僚制の理念型、テクノストラクチャ、日本の官僚制など
第10回	圧力政治	圧力団体の機能、活動、諸類型、日米の圧力団体など
第11回	地方自治	地方自治改革、英米における近代自治、日本の地方自治、都市化と自治、住民参加など
第12回	NGO	NGO、地球市民のネットワーク運動
第13回	人道的介入・その1	人道的介入の定義、具体例(ソマリアとルワンダ)
第14回	人道的介入・その2	人道的戦争? - コソヴォの事例
第15回	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	論述問題を出題予定。解答の分量についての指定は特にしない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しないが、毎回レジュメを配付する。出席できなかった講義のレジュメに関しては、事務室で一定期間の保管をお願いしているが、保管期間が短いので早めに取りに行くようにしておくこと。(試験直前の入手は困難である)

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代政治学	加茂利男、大西仁、石田徹 / 有斐閣アルマ / 4-641-12047-1 /
現代政治学・第二版	堀江湛、岡沢憲英編 / 法学書院 / 4-587-03252-2 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

日本経済概説 S

15175

担当者名 / Instructor 松川 周二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

テーマ - 日本経済の諸問題を学ぶ。

日本経済は、戦後1950年から60年代にかけて、高度成長を実現し、国民の生活水準も向上し、先進国の仲間入りをした。しかし、70年代に入ると、日本経済は2度のオイル・ショックや円の対外価値の変動(繰り返される円高と円安)を経験するものの、それらを克服、経済大国への道を突き進む。そして、80年代後半、日本経済は絶頂期を迎えるが、それはバブルの形成を促し、90年代、バブル崩壊と伴に日本は不況とゼロ成長の時代となる。本講義では、90年代以降の日本経済の諸問題を、理論的、現実的、政策論的に概説する。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

新聞・テレビ・雑誌などで、現実の経済の動きに関心をもってほしい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	日本経済をめぐる問題を4つの大きなテーマに分け、それぞれについて、3・4回の講義を行う。	毎回の講義で、2～3のキーワードが示され、その経済的意味を理解する形で、授業を進めていく。たとえば、[1] - デフレ・スパイラル、[2] - ワーク・シェアリング、[3] - 循環型社会、[4] - WTOやFTAなど
	[1]デフレ・不況とマクロ経済	デフレ・不況の経済学的意味を明らかにし、不況対策の効果を検討する。
	[2]雇用・生活・家庭と労働	不況下で進行する雇用形態の多様化を生活者の視点から説明する。
	[3]環境・資源・エネルギー問題	これは21世紀の世界の課題であり、企業や政府の積極的な試みやわれわれの生活スタイルの変革などをとりあげる。
	[4]日本経済の国際化	日本企業の海外進出やFTA、ODAなどについて説明する。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	
主に定期試験で評価する		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

毎回、講義に用いるプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業で配布する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

質問のある学生、講義終了後、直接私に質問して下さい。

日本国憲法 S

15195

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「法」は私たちの生活を規定しながら、その実態を掴むことは難しい。中でも「憲法」は、最も基本的な「法」でありながら、日常生活においてはなかなか実感できない。本講義では、この基本的な「ルール」(憲法)がいかなるもので、どのように機能しているかを知ることが目標となる。具体的には、いくつかのトピックをあげながら、法文を参照し、どのように考えていけばよいかを学んでいながら、基本的な知識を習得していくこととなる。

到達目標 / Attainment Objectives

法についての基本的知識の習得。
憲法についての基本的知識の習得。
憲法的な思考方法の習得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	法の基本的知識	法、公法、私法、憲法、法と私たちの生活、通説・判例、多数説、少数説、解釈
2	憲法の基本的知識	大日本帝国憲法と日本国憲法、憲法の構造、憲法の三大原理、基本的人権、統治機構、前文、違憲審査制
3	天皇	天皇、象徴天皇制、国事行為、内閣の助言と承認
4	戦争の放棄	第9条、平和主義、自衛権、自衛隊、国際紛争を解決するための戦争
5	人権1(人権総則)	個人の尊厳、基本的人権、幸福追求権、公共の福祉、権利・自由と義務
6	人権2(平等)	法の下での平等、差別の禁止、人種差別
7	人権3(思想・良心の自由と信教の自由)	思想・良心と信教、「国家からの自由」と「国家による自由」、多数者と少数者
8	人権4(表現の自由1)	表現の自由の優越的地位と二重の基準論
9	人権5(表現の自由2)	表現の自由と違憲審査制、違憲審査基準、コミュニケーション技術の発達と表現の自由
10	人権6(経済的自由と生存権)	経済的自由と福祉国家、封建制、居住移転の自由、財産権、損失補償、生存権
11	人権7(法の適正手続き)	デュー・プロセス・オブ・ロー
12	統治機構1(三権分立)	三権分立と民主主義、人権
13	統治機構2(国会・内閣・裁判所)	国会、衆議院の優越、内閣、議院内閣制、裁判所、違憲審査制
14	まとめ	民主主義と人権、多数者と少数者、憲法と私たちの生活

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

講義では、出来る限りエッセンスを分かりやすく解説しようとするため、詳細な知識や判例などは授業外で補う必要がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	基本的な知識の習得及び基本的な考え方、思考能力を問う。
日常点・その他	20 %	基本的な知識の修得を問う小テストなど。

小テストの回数や、評価割合は、講義の進行速度により調整を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

資格試験などを目指す受講生は、この講義で基本的な考え方を身につけ、詳細な知識を学習し、問題演習を行うことを薦める。

教科書 / Textbooks

キーワード集などを配布する予定である。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

いちばんやさしい憲法入門

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

初宿 正典 ほか / 有斐閣アルマ / 4641120870 / 基本的な論点、基本的な考え方を見る、もっともやさしい良書である。

参考書の他、より詳しく憲法を学ぶためには、基本書と呼ばれる書籍を読むと良い。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

平和と人間の安全保障 GA

15152

担当者名 / Instructor 池尾 靖志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

第2次世界大戦を経た後、とにかく「戦争のない世界」をどのようにして模索するのかという問題意識から出発した平和学は、冷戦後のグローバル化の進展とともに、新たな課題に直面している。この講義では、21世紀において、平和学が直面している課題を、網羅的にフォローすることは困難かもしれないが、受講生とともに考えることにしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

メディアなどの報じるニュースをみたときに、自分なりの「見方」が培われることが、講義の到達目標。常に「自分で」考える姿勢を養ってほしい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期の「戦争の歴史と現在」を受講していることがのぞましい(必修ではない)。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	
2	人間の安全保障の突きつけられた課題	
3	恐怖からの自由を求めて(1)対人地雷全面禁止条約の締結	
4	恐怖からの自由を求めて(2)誰が紛争を和解に導くのか?	
5	恐怖からの自由を求めて(3)紛争後の心のケアを誰がするのか?	
6	恐怖からの自由を求めて(4)平和構築を模索する	
7	恐怖からの自由を求めて(5)「帝国」アメリカのゆくえ	
8	欠乏からの自由を求めて(1)南北問題の起源、累積債務問題のゆくえ	
9	欠乏からの自由を求めて(2)構造調整プログラムのもたらしたもの	
10	欠乏からの自由を求めて(3)グローバル化と反グローバル化	
11	欠乏からの自由を求めて(4)地球温暖化がもたらした弊害	
12	誰が「平和」をつくるのか(1)国際協調というあり方	レジームという考え方
13	誰が「平和」をつくるのか(2)NGOの活動	
14	誰が「平和」をつくるのか(3)知らなかったことに気づく	
15	期末試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
日常点・その他	20 %	WebCTによる小レポート提出(2回、1回10点)

ただし、受講生の数を見て、変更する可能性あり

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本から発信する平和学	安齋育郎、池尾靖志編 / 法律文化社 / 9月末刊行予定

出版が10月にずれ込むかもしれないので、講義中に指示する。

参考書 / Reference Books

講義中に指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に指示する

その他 / Others

教員のホームページを時々みること。

新しい日本史像 S

12916

担当者名 / Instructor 笹部 昌利

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義のテーマを「幕末維新と日本社会」とし、幕末維新期における日本の政治社会および文化の様相について、近年の研究成果をふまえ考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

「明治維新」という時代変革を、日本近世の帰結、日本近代の出発点のみ捉えるのではなく、変革の前提となる諸要因について考えることで、日本史上において明治維新がいかなる意味を有したのかを再検討する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに 幕末維新と史学史	
第2回	幕末維新の背景 将軍権力と天皇・公家社会	
第3回	幕末維新の背景 近世日本の対外秩序	
第4回	日本開国と対外関係 ペリー来航の背景	
第5回	日本開国と対外関係 「征夷」認識と西洋	
第6回	大名家と京都 宮廷社会との関わり	
第7回	大名家と京都 将軍上洛と京都守護	
第8回	幕末維新期の史料 風聞・うわさ	
第9回	幕末維新期の史料 書簡をよむ	
第10回	幕末維新と「志士」	
第11回	幕末維新と人物 坂本龍馬	
第12回	幕末維新と人物 川路聖謨	
第13回	戊辰戦争と日本近世	
第14回	むすびに 幕末維新研究の可能性	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

講義は配布するレジュメを中心におこなう。テキストの指定はしないが下記の参考文献のほか、講義内で紹介する書籍を読み、積極的に理解を深めること

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
日常点・その他	20 %	日々の出席のほか、小レポートの提出を求める予定である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『幕末・維新 シリーズ日本近現代史』	井上勝生著 / 岩波書店 / 978-4004310426 /
『もうひとつの明治維新 幕末史の再検討』	家近良樹編 / 有志舎 / 978-4903426051 /
『幕末維新 奔流の時代』	青山忠正著 / 文英堂 / 978-4578006572 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

アメリカの歴史 S

15316

担当者名 / Instructor 吹戸 真実

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

20世紀を通じて日本は、東アジア・太平洋地域最強のパワーであるアメリカ合衆国と常に向き合ってきたし、今後も重要な隣国であり続けるであろう。ただ他方でアメリカは政治・経済・文化を問わず我々にとり最も存在感の大きな国であるため、好悪の感情につくごかされた議論がややもすれば見うけられる。だからこそ、ときに立ち止まって、アメリカとは何かについて冷静に振り返る必要があるだろう。本講は、広大な自然空間のもと、多様な人種・民族集団を抱えてきたアメリカが、如何にして統合をはかり今の相貌を示すに至ったかについて、アメリカの置かれた国際環境との連関を常に意識しつつ、さまざまな切り口から歴史的に考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

21世紀のアメリカにおいて現在進行中の様々な事象に関して、感情的な議論に安易に流されることなく、歴史的観点に基づき思考する力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教科書に目を通したことを前提に授業を進めるので、指定した章を事前に予習しておくこと。資料、レジュメは適宜配布する予定。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション: アメリカ史を学ぶにあたって	
第2回	空間から読み解くアメリカ: その多様性の源泉	
第3回	経済の発展: 消費者資本主義のアメリカ	
第4回	アメリカ人の「階級」意識: 「機会の国」の現実	
第5回	先住アメリカ人の歩み: その苦難の歴史	
第6回	アメリカ史のなかの移民: 「白人」の創造	
第7回	アフリカ系アメリカ人の歴史: 奴隷制から公民権運動まで	
第8回	ラティーノ / ヒスパニック: アイデンティティ形成に向けて	
第9回	アジア系アメリカ人の歩み: 差別、偏見との戦い	
第10回	ジェンダーで見るアメリカ史: 家族像の変容とフェミニズム	
第11回	アメリカ政治史(前編): 自由と秩序のはざままで	
第12回	アメリカ政治史(後編): 福祉国家の消長	
第13回	アメリカ史における宗教: 「見えざる国教」の伝統	
第14回	国民統合と人種、エスニシティ: 多文化主義の現在	
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	85 %	持込不可
日常点・その他	15 %	原則的に出席はとらず期末筆記試験のみで評価するが、平常点(課題の評価)を加味する場合がある

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者には高校の世界史レベルの知識があることを前提として、講義を進める。したがって日本史しか履修してこなかった学生は、できれば事前に、概説書などにより、最低でも、17世紀以降の世界史(西洋史を中心に)の流れを把握しておくことが望ましいであろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アメリカの歴史	有賀夏紀・油井大三郎(編) / 有斐閣 / 4641121621 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

時間に余裕があれば、ウェブ上で公開されているアメリカ史関連の様々な資料(画像など)を、授業中に紹介することも考えている。

その他 / Others

イスラーム世界の多様性 S

12868

担当者名 / Instructor 磯貝 健一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

我々にとって馴染みの薄いイスラームという宗教の内実、および、現代におけるイスラームの在り方について系統的に学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

現代イスラーム世界の諸問題を歴史的に理解することを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが、高校時に世界史を履修していれば比較的理解は容易になるだろう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イスラームの世界地図	宗教別人口、日本のムスリム、一神教と多神教
2	イスラームの世界地図	ロシア、インド、中国、ヨーロッパ、移民
3	イスラームの世界地図	アラブの大征服、イスラーム拡大のパターン
4	西アジアのイスラーム諸国	言語、民族、政治体制、サウディアラビア、トルコ
5	アフリカと南・東南アジアのイスラーム諸国	マグリブ、インド、パキスタン、バングラデシュ
6	中央アジアのイスラーム諸国	ソ連、ウズベキスタン、イスラーム復興、上海協力機構
7	セム的一神教	ユダヤ教、キリスト教、イスラーム、契約、預言者
8	預言者の生涯とイスラームの教義	預言者ムハンマド、メッカ
9	預言者の生涯とイスラームの教義	預言者ムハンマド、ヒジュラ、メディナ
10	イスラームから見たユダヤ教とキリスト教	ユダヤ教、キリスト教、「啓典の民」
11	スンナ派とシーア派	正統カリフ、アリー、ウマイヤ朝
12	スンナ派とシーア派	歴史観、イマーム、12イマーム派、イラン、イラク
13	イスラーム主義とは何か	イスラーム原理主義、イスラーム復興、イスラーム主義
14	イスラーム主義とは何か	ワッハーブ派、サウディアラビア、ムハンマド・アリー朝、エジプト、近代
15	イスラーム主義とは何か	アラブ民族主義、イスラエル、イラン革命、アフガニスタン

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

特にないが、各種メディア(新聞、テレビ、インターネット等)が発信する国際ニュースには注意しておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	学期末に定期試験を行い、ほぼその成績のみで評価する。
日常点・その他	10 %	初回授業で説明する受講に際してのルールを破った者は、その都度氏名と学籍番号を問い質し、定期試験の点数を減点する。

出席はとらないので、学習意欲のある者のみ受講してほしい。また、この講義では受講に際してのルールを設定し、それを厳格に適用するが、このルールについては初回授業で説明するので必ず出席すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

イスラーム世界がらみのニュースに接する度に、講義で得た知識を活かし、自分なりにそのニュースを読み解く癖をつけてみよう。

教科書 / Textbooks

講義中に配布するプリントを教科書として使用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
イスラーム主義とは何か	大塚和夫 / 岩波新書 / 4-00-430885-2 / 所謂「イスラーム原理主義」の本質を平易に解説したもの
「イスラムvs.西欧」の近代	加藤博 / 講談社現代新書 / 4-06-149832-0 / イスラーム世界にとっての近代を政治思想の展開から考察したもの

原理主義から世界の動きが見える	中田考(他) / PHP新書 / 4-569-65577-7 / イスラームを含むセム的一神教の原理主義について解説するもの
アッラーのヨーロッパ	内藤正典 / 東京大学出版会 / 4-13-025028-0 / ヨーロッパのムスリムの現状について社会学的見地から解説したもの
国際政治とは何か	中西寛 / 中公新書 / 4-12-101686-6 / 現代の国際秩序を形成する要因について初学者向けに解説するもの

現在のイスラーム世界を理解するために役立つ書物を選んだ。特に、ヨーロッパにおける大量のムスリム移民の現状を扱った『アッラーのヨーロッパ』、イスラーム世界に限らず現代世界の国際関係を理解するためにきわめて有益な『国際政治とは何か』は必読である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

外務省HP内、各国・地域情勢のページ

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html>

講義には様々な国の名前が出てくるが、各国の位置や基礎的データを把握するにはこのページが最も役立つ。

国連サイト内の各国・地域地図ページ

<http://www.un.org/Depts/Cartographic/english/htmain.htm>

世界各国、ないし、各地域の詳細な地図をpdf形式でダウンロードできる。この講義にかかわらず、外国研究一般に際して非常に有益である。

現代のファトワー・データ・バンク(英語)

http://www.islamonline.net/English/Living_Shariah/index.shtml

現代のイスラーム法学者が同時代の諸問題について提出した法律の見解(ファトワー)を、テーマ別に閲覧できるサイト。イラク戦争などの政治的問題から、日常生活における細々とした問題まで扱う範囲は広い。

その他 / Others

エリアスタディ入門 S

12909

担当者名 / Instructor 応地 利明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

エリア・スタディは地域研究と訳される。地域研究での「地域」とは、日本で一般につかわれる比較的小さな場所のことではなく、もっと大規模な一体性をもつ空間を指して用いられる。最終的には、地球規模で「地域」をとらえることを目指している。この授業でも、生態的に地球をどのようにとらえ、理解することができるかをめざす。

到達目標 / Attainment Objectives

地域研究をもとに、世界像の構築・再構築をめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	収集から分類さらに説明へ	空間の世紀、時間の世紀、博物学、環境決定論、発展段階論
第2回	地域研究	科学の方法論、演繹論、帰納論、文化相対主義
第3回	地域研究の立場 : 「仮説をして語らしめよ」×「混沌をして語らしめよ」	ポストモダン、捨象と抽象、分析と総合
第4回	地域研究の立場 : 「部分」×「全体」	重層的思考、「意味のハシゴ」、上流と下流、教条主義
第5回	地域研究の立場 : 「仮想化する現実」×「身体性の復権」	仮想現実、五官、感覚、フィールドワーク
第6回	ノア衛星がとらえた地球	衛星画像、色の組み合わせとしての地表、生態系、仮想と現実
第7回	ノア衛星画像をいかに要約できるか	分類と要約、モデルと模型、三つのモデル、地表の生態編成のモデル化
第8回	< 青の世界 > : 海域	地と図、プレート、付属海と大洋、海域世界
第9回	海域の両義性: 人類にとっての海とはなにか	遮断と結合、海洋資源、インド洋海域世界、モンゴロイド、マレー系集団、大航海時代
第10回	< 緑の世界 > : 二つの樹林(一)なぜ極北と湿潤熱帯がおなじ緑なのか	土壌水分、降水量、蒸発量、永久凍土層、地球温暖化
第11回	< 緑の世界 > : 二つの樹林(二)熱帯降雨林の世界	二つの生態系、生物多様性、共進化、ヨーロッパ人の誤解、やせた土壌と豊かな植生
第12回	< 緑から黄への遷移世界 > : インド亜大陸	インド亜大陸と東南アジア、生態と地域形成、「多様性のなかの統一性」と「統一性のなかの多様性」
第13回	< 黄の世界 > : 沙漠	海洋との同型性、乾燥と湿潤、沙漠と森林、古代文明・大宗教の生成、二つの遊牧類型
第14回	< 白の世界 > : 高山域と極地	プレート・テクトニクス理論、ヒマラヤ山系、「アジアにもヒマラヤ山系がなければ？」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	65 %	
日常点・その他	35 %	講義中に、何度かレポートの提出を求め、それを評価にくわえる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義に際しては、頻繁に受講生に質問する。それに対して、「知りません」・「分かりません」という答えではなく、間違ってもいいから、きちんと答える努力を要求する。また期間中に単なる感想文ではなく、小論文つまりそのテーマについての自己の思考の過程と結果を示した文章(これをレポートとよぶ)の提出を何度か求める。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

適宜、指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

戦争の歴史と現在 GA

12765

担当者名 / Instructor 池尾 靖志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

戦争の「歴史」の問題がこれほどまでに「政治化」する時期は、これまでなかった。なぜ、戦争の「歴史」をめぐって、これほどまでに「問題化」するのかを、考えてみることにしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	
第2回	「平和主義」のバリエーション	
第3回	首相の靖国参拝をめぐって(1)	
第4回	首相の靖国参拝をめぐって(2)	
第5回	戦争の「記憶」をめぐる問題(1) : ナショナリズムとの関連で	
第6回	戦争の「記憶」をめぐる問題(2) : 「平和学」の考える、戦争の「記憶」の問題	
第7回	戦争の「展示」をめぐる問題 : 戦争博物館と平和博物館にみる、戦争展示の違い	
第8回	「沖縄戦」の悲劇	
第9回	「核兵器」をめぐる考え方の違い : 「エノラ・ゲイ」展示をめぐる	
第10回	核抑止の誤謬(1) : ゲームの理論を用いて	
第11回	核抑止の誤謬(2) : システム論の考え方をめぐって	
第12回	米軍再編の動き(1) : 日米安保との関連において	
第13回	米軍再編の動き(2) : アメリカの世界戦略とは?	
第14回	「新しい戦争」	
第15回	期末試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
日常点・その他	20 %	今年度は、授業中に抜き打ちで、小レポートを課す。

* 受講生の人数をみて、変更する可能性あり。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「戦争の記憶と和解」	池尾靖志 / 晃洋書房, 2006年 / /

参考書 / Reference Books

講義内で指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

中国の国家と社会 S

12973

担当者名 / Instructor 増井 寛也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「中国」が日本の最も重要な隣国のひとつであることは、時代により程度の差はあれ、古来不変の事実であった。ところが、この「中国」という存在は、長い歴史と多様性により、総合的全身的に把握することが著しく困難である。この講義では、「中国」理解の一環として、支配権力の保持者/組織を基準とした時代区分(授業スケジュール参照)を立て、そうした権力を支える国家と社会の通時的説明を試みる。

到達目標 / Attainment Objectives

中国史の全体的な流れを理解できる。
中華帝国の成立から現代中国に至るまでの各時代の特徴を把握する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	地理的中国と歴史的中国の相違	大中国と小中国、外中国と内中国
第2・3回	前期中華帝国 古代帝国の成立と展開 秦から後漢まで	皇帝制度と官僚制、郡県制、儒教の正統教学化、豪族と名士
第4・5回	前期中華帝国 中世の分裂と再統一 三国時代から隋唐帝国まで	貴族制、五胡、拓跋国家群、科挙制、律令制とその崩壊
第6・7回	後期中華帝国 近世的社会の成立 五代・北宋・南宋	藩鎮、皇帝権力の強化、科挙制度の整備、戸等制、都市の発展
第8回目	征服王朝 北方民族の中国征服 遼・金・元	北方民族社会・文化と漢民族社会・文化の並存、二元的支配体制
第9・10回	後期中華帝国 近世社会の成熟と満洲族の中国征服 明・清	明の「固い」体制、皇帝権の極大化、清と大中国の成立
第11・12回	清末・中華民国 アヘン戦争・辛亥革命から中華民国まで	改革(洋務・变法)と革命、北洋軍閥、国民党と共産党
第13・14回	中華人民共和国 毛沢東から鄧小平まで	社会主義建設と文革、改革と開放

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

高校等で世界史の科目を履修していない(本来あり得ないはず)か、していても知識が不十分との自覚のある学生は、内容理解にハンデを負うことになりかねないので、授業に先立ってあらかじめ、もしくは授業と平行して、概説書(第1回目に紹介する)を読むなり等、自助努力をしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業内容に直結するに特定ないし任意のテーマに関して期末レポートを課す。
日常点・その他	40 %	受講者数にもよるが、ほぼ毎回、コメントの提出を求める。これは出席を兼ねる。また、3分の2以上の出席をもって成績評価の対象とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

第1回目の授業で講義内容に関する説明を行うので、なるべく出席すること。

教科書 / Textbooks

教科書は原則として使用しない。それに代えて、レジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

参考書は第1回目に配布するレジュメに掲載しておく。また、それらに関する簡単な説明も行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

日本の近現代と立命館 GA § 特殊講義(日本の近現代と立命館) GA § ヴィジョン形成特殊講義(日本の近現代と立命館) 12587

担当者名 / Instructor 松岡 正美、芦田 文夫、坂本 和一、岡尾 恵市、川口 清史、柳ヶ瀬 孝三、吉田 美喜夫、山 崎 有恒、小関 素明 単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

近代化のひずみや教育の危機などの日本の近現代史のなかで立命館の歩みを学び、大学の歩みを客観的に捉えることができるとともに、自らの学びの位置を知る。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序論－日本の近現代と立命館の100年－	
2	立命館の黎明と発展1(明治期)	
3	立命館の黎明と発展2(大正・昭和期)	
4	戦争の影と教育・思想の危機	
5	戦時体制下の立命館 日本型軍国主義の進行・転落とわが学園の曲折	
6	敗戦後の混乱と学園の再建	
7	「立命館民主主義」の創生	
8	高度成長と大学の大量化 マス・プロに抗する「小集団教育」	
9	「大学紛争」と立命館 「大学改革」か「大学解体」かをめぐる激動	
10	転換期の高等教育政策 学園の新しい経験	
11	学園創造の新展開 学びのシステムの歩み	
12	大学スポーツの歩みと立命館	
12	立命館100周年とAPU(仮題)	
14	総長講演	
15	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
日常点・その他	20 %	出席点を勘案する場合もありうる

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本年度からは従来にもまして厳しい姿勢で授業をとり行う。すべてに出席しないと内容の理解はおぼつかない。また試験でヤマを張るようなことは通用しない。その点を念頭に置いて覚悟して選択するように。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
立命館百年史 通史1・2	立命館百年史編纂委員会 / / 学園史の基礎的文献である。
西園寺公望	岩井忠熊 / 岩波新書 / / ハンディーで読みやすい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

その他 / Others

出席しないと単位の取得は困難である。

東アジアと朝鮮半島 S

12845

担当者名 / Instructor 嚴 敬俊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

朝鮮半島を中心に、東アジアの近未来を展望します。過去・現在・未来の歴史軸を縦軸に、そして、安全保障・経済協力・文化交流などのキーワードを横軸にして、東アジアの国際関係を多面的に捉えます。東アジアは、現在どう動いているのか、どこへ向かっているのかを、共に考えるような授業を展開します。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 朝鮮半島の今日を形作った歴史について、儒教文化・近代化・国際関係の観点から理解する。
2. 特に、朝鮮半島と周辺国(今回は日本とアメリカ)との関係を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。高校レベルの世界史の知識、新聞の国際面に関心をもって読んでいるという態度があれば望ましいと思います。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	講義内容の紹介。なぜ今東アジアか(1)。	アジアの勃興、東アジア共同体
第2回目	なぜ東アジアか(続き):東アジアに緊張をもたらすもの	米朝対立、歴史問題、拉致問題、日韓協調の必要性
第3回目	朝鮮の儒教文化	朝鮮人の認識枠組みについて
第4回目	日本・朝鮮の帝国主義への対応	尊王攘夷、交戦、体制の違い、時間との競争
第5回目	近代との出会い	キリスト教、マルクス主義の受容を中心に
第6回目	中国・台湾・朝鮮半島の反日感情の異同	各国の日本との関係、各国内部の政治体制の違い
第7回目	朝鮮戦争とベトナム戦争	分断国家の統一問題と国際関係
第8回目	韓国・(北)朝鮮という国の形	朴正熙と金日成を生んだもの
第9回目	冷戦後の朝鮮半島	韓国の民主化と(北)朝鮮の孤立、人権問題
第10回目	朝鮮半島とアメリカ	朝鮮戦争と韓米同盟、韓米同盟の再定義
第11回目	スポットライト1:核問題とは何か	核危機の構図、(北)朝鮮問題、アメリカ問題
第12回目	朝鮮半島と日本	日韓・日朝国交正常化と歴史認識
第13回目	スポットライト2:拉致問題をどう見るか	日朝国交交渉に見る日本の文化状況
第14回目	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	各回で取り上げた基本問題について十分に理解しているか、自分の言葉で論じることができるかがポイントです。
日常点・その他	40 %	毎回、講義感想をコミュニケーションペーパーに書いていただきます。講義内容を的確に理解し、賛否の根拠を出してコメントすることが求められます。

日常点(40%)は、出席(14%)とコミュニケーションペーパーの内容(26%)によって判断します。
出席は基本的にコミュニケーションペーパーの提出によって確認しますので、途中退席をしてペーパーの提出がなければ欠席扱いになる恐れがあります。注意してください。なお、公欠や病欠、就活による欠席などについては証明書が必要です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書はありません。毎回、プリントを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
歴史認識を乗り越える:日中韓の対話を阻むものは何か	小倉紀蔵 / 講談社現代新書 / / 歴史問題への骨太な入門書
韓国現代史	文京洙 / 岩波新書 / / 韓国の苦難に満ちた歴史を分かりやすく説明しています。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ヨーロッパの歴史 S

12954

担当者名 / Instructor 佐藤 専次

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

今年1月ブルガリア・ルーマニアがEUに加盟し、ヨーロッパはますます統合へと向かっている。二回の世界大戦ののち、フランス・ドイツ・イギリスといった国家がせめぎ合う時代は終わり、ヨーロッパは国家を越えて、より広域な経済・政治体制のもとに統合されつつある。このようなヨーロッパという文化的政治的なまとまりがどのように形成されたのかを概観する。

到達目標 / Attainment Objectives

ヨーロッパ世界の形成を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	(1) 古代世界の終焉と地中海世界	コンスタンティヌス, 西ローマの滅亡, キリスト教の発展
	(2) ゲルマン人の宗教・社会と部族王国	ヴォーダン, 供犠祭, 東ゴート
	(3) イスラームと地中海世界の分裂	ピレヌ=テーゼ, 地中海貿易
	(4) ビザンツ帝国の動向	ユスティニアヌス, テマ制, マケドニア朝
	(5) カール大帝とフランク王国	カロリング朝, ザクセン族, カールの戴冠, カロリング=ルネサンス
	(6) ノルマン人とイングランド王国の成立	ノルマンディー公領, デーン人, アルフレッド大王, ノルマン=コンクエスト
	(7) ローマ=カトリック教会とグレゴリウス改革	聖遺物崇拜, クリュニー修道院, レオ9世, 叙任権闘争
	(8) ラテン=キリスト教世界の確立	神聖ローマ帝国, インノケンティウス3世

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	
日常点・その他	10 %	ほぼ月に1回程度講義に関する感想を書いてもらう

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『教養のための西洋史入門』	中井義明ほか / ミネルヴァ書房 / /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

歴史観の形成 S

15180

担当者名 / Instructor 桂島 宣弘

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

東アジアの中の日本史像について、自他認識・オリエンタリズム・近代ナショナリズムをキーワードに講述する。

到達目標 / Attainment Objectives

日本史がどのように叙述されてきたのか、そのありよう自体に歴史性を捉えることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ひとは何故歴史をふり返るのか	自分史・郷土史・国民史・世界史...
2	ひとは何故歴史をふり返るのか	前近代と近代の歴史叙述の特性
3	徳川時代の自他認識	華夷思想のなかの日本像
4	徳川時代の自他認識	東アジアの動乱と日本型華夷思想
5	徳川時代の自他認識	本居宣長と国語ナショナリズム
6	想像の共同体	アンダーソンの議論から
7	想像の共同体	アンダーソンの議論から
8	オリエンタリズム	東洋はどのように捉えられてきたのか、ホヴズボームの議論から
9	オリエンタリズム	日本型オリエンタリズムについて
10	近代ナショナリズム論	国民国家論の議論から
11	近代国史学の成立	重野安繹・久米邦武
12	一国思想史学の臨界点	日本はどのように記述されるのか
13	一国思想史学の臨界点	日本はどのように記述されるのか
14	まとめと試験予告	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	授業内容に関わる論述、及び用語説明等からなる試験問題。
日常点・その他	20 %	小テストとコミュニケーションペーパーに基づく。

出席は特にとらないが、授業によっては、小テスト、コミュニケーションペーパーの提出を求める場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

歴史観に関わる参考文献に馴染んでおくことが望ましい。

教科書 / Textbooks

特に用いない。

参考書 / Reference Books

詳しくは教室で指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

宇宙科学 S

15297

担当者名 / Instructor 伊藤 裕

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

宇宙を階層的に構成する諸天体および宇宙全体について、それらの姿と時間発展を概観する。

到達目標 / Attainment Objectives

宇宙の構造と歴史について、その概略を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに & 地球	
第2回	月	
第3回	太陽系	
第4回	太陽面現象	
第5回	太陽のエネルギー源	
第6回	いろいろな恒星	
第7回	星間物質と星形成	
第8回	恒星の進化	
第9回	恒星の終末	
第10回	銀河系	
第11回	いろいろな銀河とその集団	
第12回	宇宙の大規模構造 & 謎の暗黒物質	
第13回	膨張する宇宙	
第14回	宇宙の過去と未来	
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基本的なことがらに対する理解度をみる
定期試験以外に、適当な方法でボーナス点を出すかもしれない。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

なし

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
宇宙のデータブック	比田井昌英ら / 東海大学出版会 / / 図表中心
新版・100億年を翔ける宇宙	加藤万里子 / 恒星社厚生閣 / / 教科書スタイルの本
ハッブル望遠鏡の宇宙遺産	野本陽代 / 岩波書店:新書 / / 写真が多い読み物

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

今日科学はよりマクロな宇宙へ、よりミクロなクォークへ、そして生命の神秘へと発展を続けている。また技術に応用され、今日のわれわれの暮らしをますます豊かで便利なものになっている。しかしその一方で、化学物質過敏症やBSE問題、人間の卵子売買など科学や技術に関わる社会問題も頻発している。では、われわれにとって、現代社会にとって科学とは何か、技術とは何か？ 本科目は、それを主として科学や技術に関わる社会問題をとおして考究する。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)今日の科学や技術に関わる社会問題に関心と問題意識を持つこと
- (2)授業で取り上げる科学や技術に関わる社会問題の代表的な例について、自然科学・技術的、および社会的理解を深めること
- (3)それを通して、科学・技術と社会の関わりについて、科学論・技術論、あるいは科学社会的に理論的に考えることができるにすること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	科学・技術と社会 世紀をこえて	20世紀とは、人口化学物質の時代、科学技術文明とわれわれ
2	人口化学物質と人体 21世紀病	シックハウス、化学物質過敏症、アレルギー
3	環境ホルモン問題の登場	内分泌攪乱物質、動物に現れた予兆、ヒトの精子数の激減?
4	環境ホルモン問題を考える	T.コルボーン、「奪われし未来」
5	環境の世紀へ	R.カーソン、「沈黙の春」
6	環境ホルモン問題の今 不確実のカード	「思い過ごし」か、失速するSPEED98
7	脳とプリオン 動物からヒトへ、ヒトからヒトへ	狂牛病(BSE)、クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)、その他のプリオン病
8	BSE問題と対策をめぐって	食の安全、「リスク管理」について考える
9	ヒトゲノム解読 生命の世紀へ	ヒトゲノム、DNA
10	生命の世紀はどこへ、生殖工学の行方	ドリー、クローン人間、ES細胞、そして卵子売買
11	医学と医学者、医の倫理	ヒポクラテスの誓い、インフォームド・コンセント、医療事故、病院改革
12	チェルノブイリでは何が起きたか	チェルノブイリ原発事故、人々と暮らしへの影響、原発事故と産業社会
13	原発事故はなぜくりかえすか	関電美浜事故、あいつくトラブル隠し、原発被爆(東海村臨界事故)
14	マンハッタン計画(その1)	20世紀物理学、原爆構想、原爆工学、原爆開発
15	マンハッタン計画(その2)	原爆開発、製造と投下、科学者の社会的責任をめぐって

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

配付資料をよく読み、その回に取り上げた科学・技術に関わる社会問題について、まとめ、考察を加えておくこと。小テスト、コミュニケーションペーパーなどで、随時チェックする予定。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
日常点・その他	30 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この科目では、今日の人類の課題を自らみつけ、問題意識を深め、自分の頭で考えるという姿勢が、とくに大事だと思います。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
奪われし未来	T.コルボーンら / 翔泳社 / 88135-985-1 /
沈黙の春	R.カーソン / 新潮社 / 10-207401-5 c0161 /

狂牛病 人類への警告

中村靖彦 / 岩波書店 / 00-430759-7 /

優生学と人間社会

米本昇平 / 講談社 / 06-149511-9 c0245 /

原発事故はなぜくりかえすか

高木仁三郎 / 岩波書店 / 00-430703-1 /

必要最低限(授業中取り上げる部分)は、講義資料としてプリントし配付する

参考書 / Reference Books

適宜授業中に指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜指示する

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

今日科学はよりマクロな宇宙へ、よりミクロなクォークへ、そして生命の神秘へと発展を続けている。また技術に応用され、今日のわれわれの暮らしをますます豊かで便利なものになっている。しかしその一方で、化学物質過敏症やBSE問題、人間の卵子売買など科学や技術に関わる社会問題も頻発している。では、われわれにとって、現代社会にとって科学とは何か、技術とは何か？ 本科目は、それを主として科学や技術に関わる社会問題をとおして考究する。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)今日の科学や技術に関わる社会問題に関心と問題意識を持つこと
- (2)授業で取り上げる科学や技術に関わる社会問題の代表的な例について、自然科学・技術的、および社会的理解を深めること
- (3)それを通して、科学・技術と社会の関わりについて、科学論・技術論、あるいは科学社会的に理論的に考えることができるにすること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	科学・技術と社会 世紀をこえて	20世紀とは、人口化学物質の時代、科学技術文明とわれわれ
2	人口化学物質と人体 21世紀病	シックハウス、化学物質過敏症、アレルギー
3	環境ホルモン問題の登場	内分泌攪乱物質、動物に現れた予兆、ヒトの精子数の激減？
4	環境ホルモン問題を考える	T.コルボーン、「奪われし未来」
5	環境の世紀へ	R.カーソン、「沈黙の春」
6	環境ホルモン問題の今 不確実のカード	「思い過ごし」か、失速するSPEED98
7	脳とプリオン 動物からヒトへ、ヒトからヒトへ	狂牛病(BSE)、クロイツフェルト・ヤコブ病(CJD)、その他のプリオン病
8	BSE問題と対策をめぐって	食の安全、「リスク管理」について考える
9	ヒトゲノム解読 生命の世紀へ	ヒトゲノム、DNA
10	生命の世紀はどこへ、生殖工学の行方	ドリー、クローン人間、ES細胞、そして卵子売買
11	医学と医学者、医の倫理	ヒポクラテスの誓い、インフォームド・コンセント、医療事故、病院改革
12	チェルノブイリでは何が起きたか	チェルノブイリ原発事故、人々と暮らしへの影響、原発事故と産業社会
13	原発事故はなぜくりかえすか	関電美浜事故、あいつくトラブル隠し、原発被爆(東海村臨界事故)
14	マンハッタン計画(その1)	20世紀物理学、原爆構想、原爆工学、原爆開発
15	マンハッタン計画(その2)	原爆開発、製造と投下、科学者の社会的責任をめぐって

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

配付資料をよく読み、その回に取り上げた科学・技術に関わる社会問題について、まとめ、考察を加えておくこと。小テスト、コミュニケーションペーパーなどで、随時チェックする予定。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
日常点・その他	30 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この科目では、今日の人類の課題を自らみつけ、問題意識を深め、自分の頭で考えるという姿勢が、とくに大事だと思います。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
奪われし未来	T.コルボーンら / 翔泳社 / 88135-985-1 /
沈黙の春	R.カーソン / 新潮社 / 10-207401-5 c0161 /

狂牛病 人類への警告

中村靖彦 / 岩波書店 / 00-430759-7 /

優生学と人間社会

米本昇平 / 講談社 / 06-149511-9 c0245 /

原発事故はなぜくりかえすか

高木仁三郎 / 岩波書店 / 00-430703-1 /

必要最低限(授業中取り上げる部分)は、講義資料としてプリントし配付する

参考書 / Reference Books

適宜授業中に指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜指示する

その他 / Others

科学的な見方・考え方 S

12846

担当者名 / Instructor 木野 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

人間の歴史の中で、産業革命以後の科学技術の発達は著しく、当初は「科学技術の発達は人間や社会を豊かにする」と信じられていた。しかし、20世紀後半から、この科学技術の急激な発達をもたらす負の側面がさまざまなところで顕在化し、科学技術と人間や社会のあり方を見直す必要が高まっている。この授業では、科学技術の発達と現代の環境問題を通して、科学的な見方・考え方および科学技術のあり方を考える。

この授業では、教科書の各章を参考にして4-5人ずつのグループで課題研究を行い、その発表とディスカッションで授業を進める。課題は、公害、薬害、労災職業病、原子力、エネルギー、環境問題と行政、環境問題と差別、環境問題と専門家の中から選び、教科書とは違う事例をテーマに図書館やインターネットを利用して調査研究を進める。

1回の授業で2つのグループ発表とし、それぞれ発表15分、ディスカッション15分とする。その後10分位で発表に対する評価と総括を書いてもらう。

授業の詳しい進め方については第1回目の授業で説明する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・科学技術の発達と環境問題の関係について理解する。
- ・自分で問題を調べ、考える力をつける。
- ・グループ研究の仕方を身につける。
- ・ディスカッションできるようになる
- ・授業を受け身ではなく、自ら学んだという実感を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	この授業の進め方	【キーワード】科学、技術、進歩、人間、環境、社会、グループ研究
第2回目	課題研究のグループ分けとグループ研究の進め方	【キーワード】グループ研究、課題
第3～4回目	グループ研究のためのチーム・ミーティング	【キーワード】グループ研究、チーム・ミーティング
第5～14回目	グループ研究発表	【キーワード】グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第15回目	この授業のまとめ	【キーワード】環境問題、科学技術、人間

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

グループ研究のためには、図書館やインターネットで資料を検索し、各自で調べてくるのが必須である。

また、チーム内では携帯メール等で連絡を取りながら進めるチームワークが必要である。

教室でのチーム・ミーティングでは、毎回、私が各グループを回って相談や助言に当たるが、授業外でも助言や相談を必要とするときは適宜メールで連絡すること。

発表グループは事前に発表用レジュメを提出すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	0 %	定期試験は行わない。
レポート試験	30 %	グループ発表に対する小レポート
日常点・その他	70 %	ディスカッションへの参加度、グループ発表の出来具合、グループ内の貢献度

* グループ発表に対する小レポートは、発表当日、教室ですべての発表について書いて提出する。

* グループ発表の出来具合にはレジュメの評価も含む。

* グループ内の貢献度には、発表後に提出する各自の準備レポートの評価も含む。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

私は大学の授業は教員の一方的な講義で終わってはならないと考えており、どんな授業でも「双方向型の授業」を基本にしている。双方向型の授業とは、教員と学生の間はもちろん、さらに同じ授業を受けている受講生同士のコミュニケーションを大切にすることを指す。それはまた同時に、お互いに学びあう関係を作ることであり、自ら主体的に授業に参加することでもある。この授業ではグループ研究を通してその目標を達成したいと思う。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版 環境と人間 公害に学ぶ	木野茂編 / 東京教学社 / 8082-5013-6 / 第4刷(2006.3刊)を使用する。

参考書 / Reference Books

教科書の各章に参考文献を記している。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業で紹介する。

その他 / Others

科学的な見方・考え方 Z

16419

担当者名 / Instructor 安齋 育郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、超能力・予言・占い・心霊現象といった「科学と非科学の狭間」にあるような問題をあえて取り上げて、その本質について考える。科目担当者の安齋は、昨年、NHK人間講座「だます心 だまされる心」(全8回)や、日本テレビの「世界一受けたい授業」「ザ!世界仰天ニュース」などに登場し、こっくりさん占い、サイババの「物質化現象」、スプーン曲げ、UFO、ナスカの地上絵、ミステリーサークル、心霊手術など、数多くの不思議現象の本質を解明した。この講義の中でも不思議な現象を実演しつつ、その本質に迫る過程を通じて、「科学的な見方・考え方」を考える。

この授業はインターネットを通じたオンデマンド形式で実施される。学生は受講可能期間中(各講通常1週間)の好きな時間に、自宅や大学のコンピュータ教室から授業を受けることができるが、各自のスケジュールに合わせて計画的に学習を進めること。また、受講にあたっては、ADSL以上のインターネット接続ができるPC環境が必要である。

なお、この授業では電子掲示板(BBS)への主体的な意見の書込みが求められる。他の学生の意見にも積極的に反応することにより、相互に見識が高められることを期待する。

オンデマンド授業については、下記のページを参照のこと。なお、授業コードは、「16419」である。

<http://www.ritsumeai.ac.jp/ondemand/2007/pre-guide-kagaku.html>

到達目標 / Attainment Objectives

- ・どんな不思議な現象にも理由があることを理解する。
- ・「なぜ」と問う心を豊かに育む。
- ・健全な懐疑心を培う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション(授業要綱解説、教員紹介 他)	
第2回	人生には「科学で扱える命題」と「科学で扱えない」命題とがある	
第3回	「科学者として優れている」とは、どういう意味なのか?	
第4回	近代心霊術の幕開け - 職業的霊媒の元祖・フォックス姉妹の数奇な運命	
第5回	たかが「こっくりさん」、されど「こっくりさん」	
第6回	「ナスカの地上絵」 - 古代ペルー人は空を飛んだのか?	
第7回	「スプーン曲げ」騒動で曲がった科学への信念?	
第8回	A B O式の血液型で性格判断はできるのか?	
第9回	U F O (未確認飛行物体)は宇宙人の乗り物か?	
第10回	愉快犯の仕業 - ミステリー・サークル&虹による地震予知	
第11回	錯誤の世界への2つの入り口 - 「思い込み」と「欲得」	
第12回	なぜ「科学」の時代に「非科学」に走るのか?	
第13回	今期の授業を終えて	
第14回	レポート作成	
第15回	レポート提出	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	
日常点・その他	70 %	日常点(30%)、授業コンテンツの視聴状況(30%)、電子掲示板(BBS)への書込み状況(10%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

成績は、授業コンテンツの視聴状況、電子掲示板(BBS)への書込み状況、小テスト、レポートによって総合的に評価する。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考文献は必要に応じて授業の中で提示する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

科学と技術の歴史 SA

15248

担当者名 / Instructor 宮下 晋吉

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

人類は、周囲の環境をつくりかえながら、しだいに人口と生産力をまし、技術やそして科学をも発達させ、豊かだが地球規模の環境問題も激化させるに至ってきた。それではこのような人類の歴史において、生産力の発展に大きな役割を果たした技術や科学(自然科学)とは、いったい何か、それを歴史的に、科学史、技術史にもとづいて考察することが、この科目の主な目的である。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)人類史において科学と技術が果たした役割について、問題意識を持つこと。
- (2)石器の発達、機械の誕生、産業革命など技術史の大きな転換点(イノベーション)について理解を深めること。
- (3)科学の誕生や近代科学の成立など科学史の基本的な流れについて、理解すること。
- (4)地球規模の環境問題を引き起こした要因につながる今日的な生産力の拡大と科学と技術の現代的なありようの問題点について考察すること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「科学・技術と社会」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	いま歴史から学ぶこと、人類と環境、科学と技術	イースター島の教訓、「緑の世界史」
2	石器づくりの歴史的進歩 古人類学にみる人間と技術	ミッシングリンク、古人類学の進歩、R.リーキー、石器発達史
3	ギルガメッシュ叙事詩	メソポタミア文明、環境破壊と古代文明の崩壊、
4	科学の誕生	ギリシャ科学、アリストテレス、自然学、運動理論と四元素説
5	道具と機械	すきから5つの単一機械まで、道具、機械、機械の誕生
6	「デ・レ・メタリカ」の世界	アグリコラ、マニファクチュア、機械、ヨアヒムシュタールの鉱山、鉱山学
7	もののけ姫の世界	映画「もののけ姫」を読み解く、近代と非近代、タタラ製鉄
8	近代科学の誕生	ガリレオ、ベネチアの造兵廠、斜面の実験、S.ドレイク
9	近代科学の成立	ニュートン、プリンキピア、デカルト、機械論的自然観
10	産業革命とイノベーション	紡錘、紡錘車、ジェニー紡績機、紡績機の三大発明、道具論と機械論
11	イノベーションとファクトリー	アークライト、クロンフォード工場、機械体系、近代的工場制度
12	科学の社会史	D.S.L.カードウェル、経験的発明と科学に基礎づけられた発明、「科学の組織化」、応用科学、イギリス科学の衰退の原因
13	科学と技術の社会史	ドイツ産業革命と技術移転、P.C.W.ボイト、産業助成協会、科学技術助成の起源
14	専門化した社会	カードウェル、専門化、専門主義を超えて
15	「科学革命の現代史」をめぐる	いくつかの論点の批判的検討

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

毎回の授業後、レジュメや配付資料を読み直し、内容と自分の問題意識をよくまとめておくこと

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
日常点・その他	30 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
緑の世界史	クライブ・ボンディング / 朝日新聞社 / 02-259603-1 /
技術と労働	大沼正則 / 岩波書店 / 4-00-003662-9 /

科学史を考える	大沼正則 / 大月書店 / 272-40122 C-0340 /
科学の社会史	D.S.L.カードウェル / 昭和堂 / 3040-058916-3474 /
科学技術の現代史	中山茂、吉岡斉 / 学陽社 / 4-313-49018-3 C1040 /

必要最低限(授業中に取り上げる部分)は、講義資料としてプリントし配布する

参考書 / Reference Books

適宜授業中に指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜指示する

その他 / Others

科学と技術の歴史 SB

15299

担当者名 / Instructor 宮下 晋吉

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

人類は、周囲の環境をつくりかえながら、しだいに人口と生産力をまし、技術やそして科学をも発達させ、豊かだが地球規模の環境問題も激化させるに至ってきた。それではこのような人類の歴史において、生産力の発展に大きな役割を果たした技術や科学(自然科学)とは、いったい何か、それを歴史的に、科学史、技術史にもとづいて考察することが、この科目の主な目的である。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1)人類史において科学と技術が果たした役割について、問題意識を持つこと。
- (2)石器の発達、機械の誕生、産業革命など技術史の大きな転換点(イノベーション)について理解を深めること。
- (3)科学の誕生や近代科学の成立など科学史の基本的な流れについて、理解すること。
- (4)地球規模の環境問題を引き起こした要因につながる今日的な生産力の拡大と科学と技術の現代的なありようの問題点について考察すること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「科学・技術と社会」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	いま歴史から学ぶこと、人類と環境、科学と技術	イースター島の教訓、「緑の世界史」
2	石器づくりの歴史的進歩 古人類学にみる人間と技術	ミッシングリンク、古人類学の進歩、R.リーキー、石器発達史
3	ギルガメッシュ叙事詩	メソポタミア文明、環境破壊と古代文明の崩壊、
4	科学の誕生	ギリシャ科学、アリストテレス、自然学、運動理論と四元素説
5	道具と機械	すきから5つの単一機械まで、道具、機械、機械の誕生
6	「デ・レ・メタリカ」の世界	アグリコラ、マニファクチュア、機械、ヨアヒムシュタールの鉱山、鉱山学
7	もののけ姫の世界	映画「もののけ姫」を読み解く、近代と非近代、タタラ製鉄
8	近代科学の誕生	ガリレオ、ベネチアの造兵廠、斜面の実験、S.ドレイク
9	近代科学の成立	ニュートン、プリンキピア、デカルト、機械論的自然観
10	産業革命とイノベーション	紡錘、紡錘車、ジェニー紡績機、紡績機の三大発明、道具論と機械論
11	イノベーションとファクトリー	アークライト、クロンフォード工場、機械体系、近代的工場制度
12	科学の社会史	D.S.L.カードウェル、経験的発明と科学に基礎づけられた発明、「科学の組織化」、応用科学、イギリス科学の衰退の原因
13	科学と技術の社会史	ドイツ産業革命と技術移転、P.C.W.ボイト、産業助成協会、科学技術助成の起源
14	専門化した社会	カードウェル、専門化、専門主義を超えて
15	「科学革命の現代史」をめぐる	いくつかの論点の批判的検討

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

毎回の授業後、レジュメや配付資料を読み直し、内容と自分の問題意識をよくまとめておくこと

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
日常点・その他	30 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
緑の世界史	クライブ・ボンディング / 朝日新聞社 / 02-259603-1 /
技術と労働	大沼正則 / 岩波書店 / 4-00-003662-9 /

科学史を考える	大沼正則 / 大月書店 / 272-40122 C-0340 /
科学の社会史	D.S.L.カードウェル / 昭和堂 / 3040-058916-3474 /
科学技術の現代史	中山茂、吉岡斉 / 学陽社 / 4-313-49018-3 C1040 /

必要最低限(授業中に取り上げる部分)は、講義資料としてプリントし配布する

参考書 / Reference Books

適宜授業中に指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜指示する

その他 / Others

現代環境論 SA

12864

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

産業革命以降の科学・技術の急速な発達による社会の生産力の発展と人間の経済活動の拡大は、地域的な産業公害から地球規模に至るまでの深刻な環境汚染を引き起こし、人類の生存さえも脅かしつつある。公害・環境問題の解決は、21世紀の現代社会が抱える緊急かつ最重要の課題の1つであり、とりわけ地球温暖化の危機はもはや一刻の猶予も許されず、環境保全型社会への転換が強く求められている。

本講義では、地球環境問題を中心とした環境問題全般についての汚染と被害の実態を概説し、その原因・発生メカニズム・影響などを、自然科学と社会科学の両側面から考察する。具体的には、オゾン層破壊、地球温暖化、大気汚染、化学物質汚染、産業公害、廃棄物問題、自然破壊、放射能汚染などの問題について、現代社会や人間活動と関係づけながら論じたい。これらを通して、今日の地球環境問題の克服への課題について検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・地球環境問題を中心とした環境問題全般についての汚染と被害の実態、その原因・発生メカニズム・影響などを幅広く理解できる。
- ・現代の公害・環境問題の課題について自分の見解を論理的に述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	はじめに - 20世紀の公害・環境問題	
第2回目	地球と生命の歴史	
第3回目	オゾン層破壊とフロンガス	
第4回目	地球温暖化問題(1)	
第5回目	地球温暖化問題(2)	
第6回目	大気汚染と酸性雨	
第7回目	化学物質汚染と環境ホルモン	
第8回目	公害問題(1)	
第9回目	公害問題(2)	
第10回目	廃棄物問題とリサイクル	
第11回目	アスベスト問題とストック公害	
第12回目	生態系破壊と生物多様性	
第13回目	放射能汚染と原子力	
第14回目	まとめ - 21世紀の持続可能な社会への展望	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

日頃から環境問題に関する本、新聞、雑誌、テレビ・ビデオ、インターネット、映画、文学、フィールドワークなどを通して、現実の環境問題についてのイメージをつかむように意識してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義の理解度70%、論旨の明瞭度20%、議論の現実性10%
日常点・その他	20 %	講義中に随時実施する小レポート(感想、意見、質問等)を評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

予備知識は特に必要としないが、高校の教科書程度の自然科学(物理・化学・生物・地学)の知識があれば、より理解しやすい。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。必要に応じて講義レジュメや資料等を配布する。また時にはビデオ教材も利用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
地球白書(各年版)	クリストファー・フレーヴィン / ワールドウォッチジャパン / /
アジア環境白書(各年版)	日本環境会議 / 東洋経済新報社 / /
環境展望(Vol.1~4)	日本科学者会議公害環境問題研究委員会 / 実教出版 / /
新・地球環境論	和田 武 / 創元社 / 4422400177 /

その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業中の私語や携帯電話の使用等は厳禁とし、もし従わない行為が出れば必要な処置をとります。

現代環境論 SB

12884

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

産業革命以降の科学・技術の急速な発達による社会の生産力の発展と人間の経済活動の拡大は、地域的な産業公害から地球規模に至るまでの深刻な環境汚染を引き起こし、人類の生存さえも脅かしつつある。公害・環境問題の解決は、21世紀の現代社会が抱える緊急かつ最重要の課題の1つであり、とりわけ地球温暖化の危機はもはや一刻の猶予も許されず、環境保全型社会への転換が強く求められている。

本講義では、地球環境問題を中心とした環境問題全般についての汚染と被害の実態を概説し、その原因・発生メカニズム・影響などを、自然科学と社会科学の両側面から考察する。具体的には、オゾン層破壊、地球温暖化、大気汚染、化学物質汚染、産業公害、廃棄物問題、自然破壊、放射能汚染などの問題について、現代社会や人間活動と関係づけながら論じたい。これらを通して、今日の地球環境問題の克服への課題について検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・地球環境問題を中心とした環境問題全般についての汚染と被害の実態、その原因・発生メカニズム・影響などを幅広く理解できる。
- ・現代の公害・環境問題の課題について自分の見解を論理的に述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	はじめに - 20世紀の公害・環境問題	
第2回目	地球と生命の歴史	
第3回目	オゾン層破壊とフロンガス	
第4回目	地球温暖化問題(1)	
第5回目	地球温暖化問題(2)	
第6回目	大気汚染と酸性雨	
第7回目	化学物質汚染と環境ホルモン	
第8回目	公害問題(1)	
第9回目	公害問題(2)	
第10回目	廃棄物問題とリサイクル	
第11回目	アスベスト問題とストック公害	
第12回目	生態系破壊と生物多様性	
第13回目	放射能汚染と原子力	
第14回目	まとめ - 21世紀の持続可能な社会への展望	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

日頃から環境問題に関する本、新聞、雑誌、テレビ・ビデオ、インターネット、映画、文学、フィールドワークなどを通して、現実の環境問題についてのイメージをつかむように意識してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義の理解度70%、論旨の明瞭度20%、議論の現実性10%
日常点・その他	20 %	講義中に随時実施する小レポート(感想、意見、質問等)を評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

予備知識は特に必要としないが、高校の教科書程度の自然科学(物理・化学・生物・地学)の知識があれば、より理解しやすい。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。必要に応じて講義レジュメや資料等を配布する。また時にはビデオ教材も利用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
地球白書(各年版)	クリストファー・フレイヴィン / ワールドウォッチジャパン / /
アジア環境白書(各年版)	日本環境会議 / 東洋経済新報社 / /
環境展望(Vol.1~4)	日本科学者会議公害環境問題研究委員会 / 実教出版 / /
新・地球環境論	和田 武 / 創元社 / 4422400177 /

その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業中の私語や携帯電話の使用等は厳禁とし、もし従わない行為が出れば必要な処置をとります。

授業の概要 / Course Outline

2005年にアスベスト・パニックともいべき社会問題が突然起こった。2006年は水俣病発見から50年目の年であったが、いまだに水俣病問題は終わっていない。有害物質による環境汚染の問題はかつて「公害」として世に知られたが、今や地球環境問題にまで広がっている。

この授業では具体的な事例として、アスベスト、水俣病、薬害エイズ、原子力問題などを取り上げ、それらのトピックスを通して環境問題の中に潜む本質とは何かを考える。

さらに私たちが今後環境問題にどう対応すればよいのかを考えるため、環境問題と日々取り組んでおられる被害者や専門家の当事者の方々にゲストに招き、直接話をさせていただく機会を設ける。

この授業では環境問題の知識を得るだけでなく、環境問題を通して自分で考える能力を磨くことが目的である。講義はそのためのヒントであり、あなた方への問いかけであり、問題提起である。講義を聞いて終わりではなく、始まりであると捉えてほしい。BBS(電子掲示板)でのディスカッションや、レポートもそのつもりで取り組んでほしい。

「受講にかかわる注意」

この授業はインターネットを通じたオンデマンド形式で実施される。学生は受講可能期間中(各講通常1週間)の好きな時間に、自宅や大学のコンピュータ教室から授業を受けることができるが、各自のスケジュールに合わせて計画的に学習を進めること。

受講にあたっては、ADSL以上のインターネット接続ができるPC環境が必要である。

オンデマンド授業については、下記のページを参照のこと。ガイダンス動画も視聴可能。なお、授業コードは、「16420」である。

<http://www.ritsumeai.ac.jp/ondemand/2007/pre-guide-gendai.html>

到達目標 / Attainment Objectives

- ・ 環境問題とは何かを理解する。
- ・ 自分で問題を見つけ、自分で調べる力をつける。
- ・ 調べたことの受け売りではなく、自分で考える力をつける。
- ・ レポートをまとめる力をつける。
- ・ 授業を受け身ではなく、自ら学んだという実感を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。大学生なら、わからないことはちょっと自分で調べれば大体は理解できるはずである。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス、水俣病事件から学ぶ (公害認定までの長い道のり)	水俣病、公害、有機水銀中毒、認定
第2回	水俣病事件から学ぶ (被害者の救済と公害の責任)	見舞金契約、認定基準、不作為、被害者の救済、行政の責任
第3回	公害と労災職業病 (ある町工場のマンガン中毒事件から)	労災職業病、マンガン中毒、監督行政
第4回	公害と労災職業病 (アスベスト・パニックから)	アスベスト、粉じん、潜伏期間
第5回	薬害から学ぶ (薬害エイズは今……被害者の花井十伍さんに聞く)	薬害エイズ、血液製剤、血友病、HIV訴訟
第6回	薬害から学ぶ (薬害を未然に防いだ製薬労働者:北野静雄さんに聞く)	新薬、ダニロン、発がん性試験、労働組合、マイルーラ
第7回	原子力とエネルギー (原子力の光と影 - 原子力は夢のエネルギーだったか)	原子力、原水爆、原子力発電、放射能
第8回	原子力とエネルギー (プルトニウムと私たち:アイリーン・スミスさんに聞く)	プルトニウム、高速増殖炉、もんじゅ、プルサーマル
第9回	原子力とエネルギー (エネルギーと人間:京大原子炉の小出裕章さんに聞く)	エネルギー、化石燃料、原子力、浪費、不平等社会
第10回	公害環境問題と差別(公害や環境問題でも差別の問題は避けて通れない)	患者差別、胎児障害、出生前診断、優生思想
第11回	公害環境問題と行政(自治体の現場から:高槻市議員の二木洋子さんに聞く)	公害行政、環境アセスメント、バイオ産業、情報公開、環境自治体
第12回	公害環境問題と専門家(三池炭じん爆発から:熊本学園大の原田正純さんに聞く)	三池炭じん爆発、水俣病、科学者の責任
第13回	公害環境問題と私たち(さまざまな専門家の役割を問う。では私たちは?)	原因究明、被害者救済、専門家、市民
第14回	今期の授業を終えて	

第15回 レポート作成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

- ・第1～第2回目:教科書のはしがき、あとがき、第1章を読んでくる。
- ・第3回目:教科書の第2章を読んでくる。
- ・第4回目:アスベストに関する記事やWebを読んでくる。
- ・第5回目:教科書の第5章を読んでくる。
- ・第6回目:教科書の第6章を読んでくる。
- ・第7回目:教科書の第7章を読んでくる。
- ・第8回目:教科書の第8章を読んでくる。
- ・第9回目:教科書の第9章を読んでくる。
- ・第10回目:教科書の第10章を読んでくる。
- ・第11回目:教科書の第4章を読んでくる。
- ・第12回目:教科書の第3章を読んでくる。
- ・第13回目:教科書の第11章を読んでくる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	0 %	定期試験は行わない。
レポート試験	60 %	小レポートは指定課題について2回。各500字程度。各5%。最終レポート(50%)は「環境と人間」の範疇に入るものであれば、テーマは自由。調べたことをまとめるだけでなく、自分で何かをつかんだと認められるものを高く評価する。すなわち、評価の半分は、テーマの選び方、調べ方、まとめ方、書き方(章・節分け、段落、引用・参考文献など)であるが、もう半分はどこまで自分で考えたかという考察力で評価する。分量は2000字以上。ただし、多ければよいというものではなく、内容がともなっていることが必要である。最終レポートの評価は、50点(優秀)を最高に、40点(良)、30点(普通)、20点(可)、10点(劣)の5段階評価で行う。
最終講義日試験	0 %	最終講義日試験は行わない。
日常点・その他	40 %	授業コンテンツの視聴確認テスト(5%)、理解度確認小テスト(15%)、電子掲示板(BBS)への書き込み状況(20%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業外学習で記したように、該当する章を講義の前に読んでくること。教科書を読んでいることを前提にして講義を行う。
この授業ではBBSを使って受講生の授業への積極的な参加を求める。同じ講義を聞いても人によって受け止め方がいかに違うかを知ることが自分で考えるための第一歩である。各回のBBSへの書き込みに対しては教育コーチ(山中由紀氏)がコメントをつけて編集し、Web版の授業週刊誌「コミュニケーション・スペース」を発行する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

教科書の各章に参考文献を記している。
必要に応じて授業でも紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業で紹介する。

その他 / Others

現代人とヘルスケア SA

12867

担当者名 / Instructor 伊藤 大一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現在、メタボリックや禁煙運動などヘルスケアに関する議論が盛んにされている。本講義は政府による健康増進運動がどのような背景で実施されているのかを、近代国家の出発点における健康政策・公衆衛生政策から説き起こす。さらに近年注目が集まっているのは、身体的なヘルスケアばかりではなく、心的側面いわゆるメンタル・ヘルスである。成果主義導入などにより大きく変化する職場とメンタル・ヘルスの現状についても講義したい。なお本講義は、メンタル・ヘルスを扱うが心理学的な、臨床心理的なアプローチを取らないので、了承のうえ受講すること。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・国家による健康政策・公衆衛生政策がどのような文脈で導出されているか理解すること。
- ・メンタル・ヘルスの概要について理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	
第2回	国家による健康政策	近代国家の誕生と公衆衛生政策
第3回	国家による健康政策	二度の世界大戦と健康政策
第4回	国家による健康政策	二度の世界大戦と健康政策
第5回	国家による健康政策	医療費抑制政策としての健康政策
第6回	国家による健康政策	医療費抑制策としての健康政策
第7回	企業社会とメンタル・ヘルス	最近のメンタル・ヘルスの悪化状況
第8回	企業社会とメンタル・ヘルス	長時間労働の蔓延とメンタル・ヘルス
第9回	企業社会とメンタル・ヘルス	職場がどのように変化したか - 年功賃金から成果主義へ
第10回	企業社会とメンタル・ヘルス	職場がどのように変化したか - 年功賃金から成果主義へ
第11回	企業社会とメンタル・ヘルス	女性労働とメンタル・ヘルス
第12回	企業社会とメンタル・ヘルス	感情労働とメンタル・ヘルス - 燃え尽き症候群
第13回	企業社会とメンタル・ヘルス	自分と仲間を守るために
第14回	企業社会とメンタル・ヘルス	自分と仲間を守るために
第15回	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

毎日、新聞等に目を通すことが望ましい

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	講義の内容が理解できているか、論理的な文章が書けているか

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし。

教科書 / Textbooks

毎回レジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

授業中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

その他 / Others

現代人とヘルスケア SB

15136

担当者名 / Instructor 伊藤 大一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現在、メタボリックや禁煙運動などヘルスケアに関する議論が盛んにされている。本講義は政府による健康増進運動がどのような背景で実施されているのかを、近代国家の出発点における健康政策・公衆衛生政策から説き起こす。さらに近年注目が集まっているのは、身体的なヘルスケアばかりではなく、心的側面いわゆるメンタル・ヘルスである。成果主義導入などにより大きく変化する職場とメンタル・ヘルスの現状についても講義したい。なお本講義は、メンタル・ヘルスを扱うが心理学的な、臨床心理的なアプローチを取らないので、了承のうえ受講すること。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・国家による健康政策・公衆衛生政策がどのような文脈で導出されているか理解すること。
- ・メンタル・ヘルスの概要について理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	
第2回	国家による健康政策	近代国家の誕生と公衆衛生政策
第3回	国家による健康政策	二度の世界大戦と健康政策
第4回	国家による健康政策	二度の世界大戦と健康政策
第5回	国家による健康政策	医療費抑制政策としての健康政策
第6回	国家による健康政策	医療費抑制策としての健康政策
第7回	企業社会とメンタル・ヘルス	最近のメンタル・ヘルスの悪化状況
第8回	企業社会とメンタル・ヘルス	長時間労働の蔓延とメンタル・ヘルス
第9回	企業社会とメンタル・ヘルス	職場がどのように変化したか - 年功賃金から成果主義へ
第10回	企業社会とメンタル・ヘルス	職場がどのように変化したか - 年功賃金から成果主義へ
第11回	企業社会とメンタル・ヘルス	女性労働とメンタル・ヘルス
第12回	企業社会とメンタル・ヘルス	感情労働とメンタル・ヘルス - 燃え尽き症候群
第13回	企業社会とメンタル・ヘルス	自分と仲間を守るために
第14回	企業社会とメンタル・ヘルス	自分と仲間を守るために
第15回	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

毎日、新聞等に目を通すことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	講義の内容が理解できているか、論理的な文章が書けているか。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし。

教科書 / Textbooks

毎回レジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

授業中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

我々は日常生活において様々な科学技術の恩恵を受けており、それらの科学技術を応用した製品やシステムはソフトウェアによって制御されているものが多い。しかしながらソフトウェアの不具合によって、社会に様々な悪影響を与える事例が報告されており、近年その発生件数は多くなっている。

本講義ではソフトウェア開発がどのような工程を経て行われるのかを説明し、不具合(欠陥)の無いソフトウェアを開発するために実践されている方法について具体的に説明する。

また、ソフトウェア産業の現状などについても具体的なデータをもとに概観し、問題点やその解決策について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) ソフトウェアがどのような工程を経て開発されているかを理解し、説明できる。
- (2) ソフトウェア開発の上流工程と言われる要求定義工程で利用される各種手法について理解し、与えられた問題に適用できる。
- (3) ソフトウェア開発を取り巻く諸問題の発生原因とその解決方法を説明できる。
- (4) オフショア開発など、ソフトウェア産業における問題点などを説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に無し。

履修にあたっては、ソフトウェア開発に関する知識や経験の有無は問わない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス(講義の進め方、評価方法、WebCTについて)、ソフトウェアの基礎	WebCT、ソフトウェア
第2回	ソフトウェア開発プロジェクトの流れ	要求定義、外部設計、内部設計、ソフトウェア作成、テスト、運用、保守
第3回	上流工程	要求定義、要求仕様
第4回	ソフトウェア作成(プログラミング)の実際	プログラミング言語
第5回	ソフトウェアの要求獲得支援技法(その1)	要求獲得、問題解決法
第6回	ソフトウェアの要求獲得支援技法(その2)	水平思考、ブレインストーミング、KJ法、デルファイ法、会議のファシリテーション
第7回	ソフトウェアの要求分析	構造化分析、DFD(Data Flow Diagram)
第8回	ソフトウェア要求の仕様化	自然言語、形式的な言語、制限言語、UML(統一モデリング言語)、ユースケース図
第9回	中間のまとめ(小テストor演習)	第8回までの内容に関する小テストか演習を実施する
第10回	ソフトウェア開発プロセス(その1)	ウォーターフォール、プロトタイプング、スパイラル
第11回	ソフトウェア開発プロセス(その2)	反復、アジャイル
第12回	オフショア開発	オフショア開発の形態、現状、問題点、テクニック
第13回	組込みソフトウェア	組込みソフトウェアの特徴、産業の現状と問題点、開発現場の実態
第14回	プロダクトライン工学	組込みソフトウェア、コア資産開発、製品開発、管理
第15回	定期試験	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

受講にあたっては予習は不要である。講義を受講した後、内容をよく復習してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義で解説した手法の基本的事項を理解できているか。また、ソフトウェア開発に関わる諸問題やその解決法を説明できるかを問う。
日常点・その他	30 %	各自で問題を設定し、講義で紹介した手法を適用して問題の解決策を導けるかどうかを問うレポート課題[第5回に出題予定](20%)、講義で説明した内容の復習および、講義で説明した手法を適用してソフトウェアの要求を記述する小テストまたは演習[第9回に実施予定](10%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義では、どのようなソフトウェアを開発するかを最初に決める「要求定義工程」に重点を置いて説明する。この工程で利用される手法は、一般的な問題解決や新たなアイデアの発想法などソフトウェア開発以外でも利用できる手法であるのでよく理解してほしい。プログラミング(ソフトウェア

ア作成)の専門的・技術的内容には深く入り込まず、基礎的な内容を説明する。専門用語についてはその都度解説を行う。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。
講義中に適宜プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
要求工学	大西 淳、郷 健太郎 / 共立出版 / 4-320-02782-5 / 要求工学に関する参考書。本書の具体例を講義でも多数取り上げる
よくわかる最新システム開発者のための上流工程の基本と仕組み	谷口 功 / 秀和システム / 4-7980-0820-6 / 上流工程に関する参考書
よくわかる最新要求定義実践のポイント	本園 明史 / 秀和システム / 4-7980-1527-X / 要求定義に関する参考書
要求定義のエクササイズ136	本園 明史 / 翔泳社 / 4-7981-1277-1 / 要求定義に関する参考書
成功する要求仕様 失敗する要求仕様	アラン・M・デービス / 日経BP社 / 4-8222-8291-0 / 要求仕様に関する参考書
初めてのアジャイル開発	クレグ・ラマン / 日経BP社 / 4-8222-8191-4 / アジャイル開発に関する参考書
パターンによるソフトウェア構成管理	ステファン・P・バーチャック / 翔泳社 / 4-7981-1259-3 / ソフトウェア開発プロジェクトの各工程における成果物の構成管理に関する参考書
Software Product Lines: Research Issues in Engineering and Management	Timo Kakola, Juan Carlos Duenas / Springer-Verlag / 3-5403-3252-9 / プロダクトライン工学に関する参考書
要求開発と要求管理 顧客の声を引き出すには	カール・E. ウィーガーズ / 日経BPソフトプレス / 4-89100-529-7 / ソフトウェア要求に関する参考書
ソフトウェア工学の基礎	ITトップガン育成プロジェクト / 日経BP社 / 4-8222-8305-6 / ソフトウェア工学全般の参考書

講義では上記参考書の中から適宜、具体例やデータ等を取り上げて説明する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

[ソフトウェアや情報技術に関するニュースサイト]
 IT media ニュース : <http://www.itmedia.co.jp/news/>
 CNET Japan : <http://japan.cnet.com/>
 Japan.internet.com : <http://japan.internet.com/>
 ITmedia +D モバイル : <http://plusd.itmedia.co.jp/mobile/>
 INTERNET Watch : <http://internet.watch.impress.co.jp/>
 NIKKEI NET インターネット IT-PLUS : <http://it.nikkei.co.jp/internet/>

[情報技術の用語辞典サイト]
 IT用語辞典 e-Words : <http://e-words.jp/>
 Yahoo!コンピュータ - 用語辞典 : <http://computers.yahoo.co.jp/dict/>
 ASCII.jp - アスキー デジタル用語辞典 : <http://yougo.ascii24.com/>
 @IT情報マネジメント用語事典インデックス : <http://www.atmarkit.co.jp/im/terminology/>
 誰でもわかる! パソコン用語 : <http://support.microsoft.com/gp/glossary/>

上記サイトの他にも、参考になるWebサイトやWebページ(記事)を講義の中で紹介する。

その他 / Others

自然人類学 S

12848

担当者名 / Instructor 足立 薫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

私たち人間が生物としてどのような特徴をもち、同種や他種の生物との間にどのような関係を保ちつつ生きているのかを考える。人間に近縁な霊長類の行動や生態への理解から、人類進化を解明する方法を紹介し、さまざまな人間らしさの起源を探ることを目標とする。

到達目標 / Attainment Objectives

進化論の基本を知り、進化のしくみを理解する。人間の行動や社会の特徴を、他の動物(とくにほかの霊長類)と比較して、人類進化の観点から論じることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	人類学 動物 環境 「人間とは何か」
2	霊長類とは何か	生物の分類 分布 社会構造
3	サルと類人猿	近縁種 分岐分類 動物の権利
4,5	進化論とは何か	自然選択 ダーウィン 総合説
6,7	人類の起源と進化(1)	直立二足歩行 アウストラロピテクス 脳の進化
8,9	人類の起源と進化(2)	ホモ・エレクトス アウト・オブ・アフリカ 更新世
10	動物行動学から行動生態学へ	四つの質問 血縁度 包括適応度
11	繁殖と性	性淘汰 配偶者選択 性差 家族の起源
12	道具使用と文化	行動の社会的伝達 道具使用 伝統
13	言語の起源	霊長類の音声 類人猿の言語研究
14	人間の社会	狩猟採集民 文化 宗教

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

特になし。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	論述形式
日常点・その他	20 %	小テスト、レスポンスペーパーなど

定期試験に日常点を加味して、総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

生物学の予備知識は特に必要としないが、講義で示されるトピックをもとに、「人間とは何か」について、論理的に深く考えることが求められる。講義に関する諸注意の伝達にWebCTを使用するので、各自でアクセスできるようにしておくこと。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。講義中に資料プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

講義中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都大学理学部人類進化論研究室 <http://jinrui.zool.kyoto-u.ac.jp/>
 京都大学霊長類研究所 <http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/index-j.html>

その他 / Others

講義の進展状況によって授業内容・スケジュールは変更の可能性があるため、WebCTなどのお知らせをチェックすること。

自然と進化 S

15125

担当者名 / Instructor 高見 泰興

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

植物、菌類、昆虫、ヒト…地球上には、なぜこれほどまでに多様な生物がいるのだろうか？ 現代科学がもたらした唯一の説明は、進化である。生物進化の理論は生物多様性の理解だけではなく、薬剤耐性細菌の出現や、ガン、成人病など、人間の疾患に関わる現象の理解に重要な示唆を与え、システムデザインやコンピュータプログラミングの分野にも、進化(遺伝)アルゴリズムとして利用されている。よって、進化の仕組みを理解することは、現代社会に生きる我々にとって、少なからず有益であるといえる。

本講義の目標は、生物進化のメカニズムを学び、生物進化がきわめて機械的なプロセスによって起こることを理解することである。はじめに、生物進化が起こるうえで必要な3つのしくみ(変異、遺伝、淘汰)について解説する。次に、様々な生物進化現象の実例に触れながら、3つのしくみがどのように働くのかを様々な角度から概観する。最後に、進化生物学の研究史を振り返り、人類の生物観、進化観の変遷についても論じる。

到達目標 / Attainment Objectives

生物進化の基本的なしくみを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

生物学の基礎的な知識を有することが望ましいが、必須ではない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	生物の多様性と進化	種多様性、生物のデザイン
第2回	生物進化のしくみ1: 変異と遺伝	遺伝子、突然変異
第3回	生物進化のしくみ2: 自然淘汰	競争、生き残り、適応
第4回	生物進化の実例1: ダーウィンフィンチ	気候変動、採餌効率、くちばしの形
第5回	生物進化の実例2: シクリッド	適応放散、種分化、絶滅
第6回	集団と遺伝	遺伝子頻度、遺伝子プール、遺伝的浮動
第7回	系統進化と種分化	系統樹、種、生殖隔離
第8回	生物進化の実例3: オサムシ	分子系統、交尾器、種分化
第9回	個体間の相互作用1: 性淘汰	雄間競争、雌による選択、雌雄の対立
第10回	生物進化の実例4: 交尾器形態の進化	交尾後性淘汰、精子競争、交尾戦略
第11回	個体間の相互作用2: 社会性	利地行動、血縁、利己的遺伝子
第12回	種間の相互作用	進化的軍拡競争、共進化、擬態
第13回	古生物と大進化	化石、絶滅、地質年代
第14回	進化学説の変遷	ダーウィン、木村資生、インテリジェントデザイン

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	生物進化のしくみを理解し、それに基づく理論思考ができるかどうかを記述式試験により評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義内容を覚えるのではなく、理解することを心がけて下さい。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
進化とはなんだろうか	長谷川 眞理子 / 長谷川 眞理子 / ISBN4-00-500323-0 /

若者向けに分かりやすく書いてあり、万人に勧められる。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

はじめての進化論: <http://meme.biology.tohoku.ac.jp/INTROEVOL/index.html>
 当該書籍のweb版、参考書よりはやや高度であるが、進化のしくみを分かりやすく解説している。

その他 / Others

スポーツのサイエンス S

12847

担当者名 / Instructor 上 英俊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

身体活動発生・維持の仕組みについて、筋・呼吸循環系システムを中心に説明する。

到達目標 / Attainment Objectives

動きのメカニズムに関する基礎知識を理解し、「効率のよい運動の実践」へと発展させる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	体力とは	
	神経 筋の構造と機能	
	筋線維組成	
	筋肉とエネルギー	
	筋疲労のメカニズム	
	疲労回復法	
	筋カトレーニング	
	持久カトレーニング	
	栄養(1)	
	栄養(2)	
	体重とパフォーマンス	
	ウエイトコントロール	
	運動と健康	
	疲労回復	
	試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
レポート試験	10 %	
最終講義日試験	5 %	
日常点・その他	5 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

生物の多様性 S

13005

担当者名 / Instructor 佐藤 路子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

地球上には海洋、森林、高山、砂漠など様々な環境が存在し、それぞれに適応した様々な生物が生息している。そして、同じ環境に生息している生物であっても、生活を営む方法は種それぞれで違っている。本講義では様々な生物やその営みを紹介し、なぜたくさんの種類の生物がいるのか、どうやって様々な生活の営みが作り上げられてきたのか、その多様性はどのように維持されているのかについて、進化的な側面を交えながら解説する。また近年の生物多様性の危機や環境保全についても解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・動物や植物の生態や進化のメカニズムが学べる
- ・環境保全についての基礎が学べる
- ・生物に関連する社会問題の情報が得られる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

理解を深めるために「自然と進化」を合わせて受講されることをおすすめします。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業内容の紹介・受講のルール・評価方法について	
第2回	生物多様性の概念と階層性	個体、個体群、群集、形質、変異、多型
第3回	種多様性と種の形成 その1	種概念、分類、種の表記法
第4回	種多様性と種の形成 その2	進化、自然淘汰
第5回	種多様性と種の形成 その3	進化、性淘汰
第6回	種多様性と種の形成 その4	種分化のしくみ、生殖隔離機構、適応放散
第7回	環境と生物の関係・生物間関係 その1	生態系のしくみ、無機的環境と生物の関係
第8回	環境と生物の関係・生物間関係 その2	生物間相互作用、食う・食われるの関係、軍拡競争
第9回	環境と生物の関係・生物間 その3	相利共生、寄生、共進化、競争
第10回	生物多様性の重要性和現状	絶滅のパターン、生物多様性の価値、生態系サービス
第11回	生物多様性の保全 その1	生息地の破壊、分断化
第12回	生物多様性の保全 その2	環境汚染、環境ホルモン、地球温暖化
第13回	生物多様性の保全 その3	移入種、外来種、交雑
第14回	生物多様性の保全 その4	乱獲、病気、遺伝的変異の減少
第15回	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基礎的な語句や概念を理解しているか、現象の原理が説明できるかを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・普段から新聞の科学欄を読んだり、自然科学系のテレビ番組(NHK「ダーウィンが来た」等)を見たりして、生き物に対する意識を高めておくといでしょう。
- ・レジュメはWebCTでダウンロードできます。
- ・授業中の私語には厳しく対処します。

教科書 / Textbooks

購入する教科書は特にありません。毎回プリントやビデオなどで解説します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生態学入門	日本生態学会 / 東京化学同人 / 4807905988 / 第129回に関連
生き物の進化ゲーム	酒井聡樹・高田壯則・近雅博 / 共立出版 / 4320055225 / 第425回に関連
保全生物学のすすめ	リチャードB.プリマック・小堀洋美 / 文一総合出版 / 4829921161 / 第10?14回に関連

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で適宜紹介します。

生命科学と倫理 S

15148

担当者名 / Instructor 大谷 いづみ

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

生命科学と先端医療の急激な発達により、「生・老・病・死」の諸相は大きく変容しようとしている。本講座では、生命倫理の問題群の倫理的・法的・社会的な問題を考えるが、とくに先端医療の発達と「生命のはじまり」をめぐる生命倫理問題に焦点を当て、そこから考察を発展させる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・生命科学と倫理をめぐる現代的課題を検討し、初歩的な調査ができる。
- ・一市民としてどのように問題を理解し対処すべきか、判断するための基盤を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	オリエンテーション	
2.	近未来における生と死～映画『ガタカ』から	
3.	遺伝子決定時代の到来?～ポスト・ゲノム時代の「生・老・病・死」	
4.	人工生殖技術の現在(1) 生殖技術の歴史	
5.	人工生殖技術の現在(2) 生殖技術の現状	
6.	代理出産契約の是非 / 親権・養育権	
7.	代理母契約の背景	
8.	人工生殖技術の発達が問いかけるもの	
9.	リアクション・ペーパーと討議	
10.	出生前診断の波紋	
11.	優生学と新優生学	
12.	再生医療と人体の資源化	
13.	遺伝子診断と遺伝子治療	
14.	まとめ	
15.	閉講	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

生命科学と生命倫理に関連する問題は、ドキュメンタリーや新聞などで日常的に話題になる。また、医療問題をとりあげた映画やTVドラマも多い。複眼的な視点で活用し、自らの問題意識を深める機会にしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	授業で取り上げた内容を理解、発展的思考ができる。記述式。
日常点・その他	20 %	授業終了後に、数回、リアクション・ペーパーの提出を求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生命倫理とは何か	市野川容孝編 / 平凡社 / /

他に、参考となる文献や情報については、授業中に適宜プリントほかで配布、紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

地球変動学

地球表層で生起しているさまざまな変動についてプレートテクトニクスを基礎として理解することを目指す。

はじめに地球についての全体像を解説するほか、現在の地球表層の自然環境がどのように変化して出来上がってきたかを概観する。その後、プレート同士の相互運動により、プレート境界周辺で集中的にさまざまな変動が起きることを学ぶ。

とくに日本列島とその周辺は、世界的に見てもプレート境界で起こる諸現象、すなわち変動がとくに集中しているところである。そこで日本列島の形成と現在生起している変動の特徴についても学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

地球の全体像を理解すると共に、地球の各部分が相互に関連して全体が成り立っていることを理解する。

地球科学の特殊性を理解すると共に、物理や化学といった面から地球を理解する。

地球科学全般にわたる基本的な知識、考え方を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに - 地球システムについて	岩石圏、地殻、マントル、核、プレート、水圏、大気圏、磁気圏、生物圏
2	地球と太陽系の誕生と進化	原始太陽系星雲、微惑星、衝突クレーター、潮汐力、成層構造
3	地球表層環境の進化	海、生命の起源、生物進化、酸化的大気、光合成、太陽定数、熱平衡、温室効果、気候変動
4	地球のかたちと重力場	回転楕円体、水平、ジオイド、重力
5	地震波でわかってきた地球の内部構造	地震波、P波、S波、地震波の反射と屈折、走時曲線、地殻、マントル、中心核
6	地球の構成物質 - 元素・鉱物・岩石	元素、鉱物、岩石
7	地震と火山の発生するところ	地震活動、火山活動、大地形、海底地形
8	プレートの概念と球面を動くプレートの運動	大陸移動、海底拡大、海底更新、球面プレート、プレート境界、プレュームテクトニクス
9	地球の磁場 - 現在と過去	地磁気、偏角、伏角、地心磁気双極子、古地磁気、岩石磁気、地磁気の逆転
10	プレート運動の推定 - 岩石・地層に記された昔の地球磁場の記録	古地磁気、地磁気の逆転、見かけの古地磁気極の移動
11	岩石・地層の年代測定	相対年代、古生物の進化、生層序による年代区分、放射性元素、放射崩壊、放射年代決定
12	プレート境界に働く力 - 地震の発生メカニズム	応力分布、プレート運動、地震波初動、地震発生のメカニズム、断層の型
13	プレート境界で起こる変動 - とくに沈み込み帯にある日本列島を例にして	収束境界、沈み込み、島弧、付加体、圧縮場、活断層、火山、マグマの発生
14	日本列島のテクトニクス	地震活動、海溝型巨大地震、内陸直下型地震、火山活動
15	試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

参考書等による復習が必要。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基本的な事項の理解とその応用を問う。原則として論述問題を主に課す。
授業では時間の都合で扱いきれなかったトピック的なテーマについてショートレポートを課すことがある。原則として定期試験だけで成績評価をするが、もしレポートを課した場合は、20%を目安としてレポート点とし、定期試験との合計で100%とする。		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

高校地学の知識は要しない。数学・物理・化学等の知識があったほうが多少は有利であるが、必須ではない。

授業の理解には毎回の積み上げが大事である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
使用しない。	/ / /
次の2つ(部分)は便利な参考書である。	
ニューステージ新訂地学図表 浜島書店編集部編著 浜島書店 4-8343-4007-4 役に立つ図表集。	
理科年表 平成19年版 国立天文台編 丸善 4-621-07763-5 データブック。一部が参考になる。	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
図説地球科学	杉村新・他編 / 岩波書店 / 4-00-005669-7 / 講義内容全般に関連する基本事項を調べるのに便利な参考書
地球科学入門 - プレートテクトニクス	河野長 / 岩波書店 / 4-00-005667-0 / 講義内容全般に関連する教科書風の参考書
グローバルテクトニクス	杉村新 / 東京大学出版会 / 4-13-062116-5 / 講義内容全般に関連するやや高度な教科書風の参考書
地球学入門 惑星地球と大気・海洋のシステム	酒井治孝 / 東海大学出版会 / 4-486-01615-7 / 講義内容全般に関連する教科書風の参考書
惑星科学入門	松井孝典 / 講談社学術文庫 / 4-06-159222-X / 講義内容の一部に関連する参考書
その他、講義内容の一部に関連する参考書	
安藤雅孝・吉井敏尅「地震 - 理科年表読本」(丸善, 1993)4-621-03831-1	
藤田和夫「変動する日本列島」(岩波新書, 1985)4-00-420306-6	
松田時彦「活断層」(岩波新書, 1995)4-00-430423-7	
平朝彦「日本列島の誕生」(岩波新書, 1990)4-00-430148-3	
Kenneth J. Hsu 高柳洋吉訳「地球科学に革命を起こした船 - グローマーチャレンジャー号」(東海大学出版会, 1999)4-486-01460-X	
土木学会関西支部編「地盤の科学 地面の下をのぞいてみると・・・」(講談社ブルーバックス, 1995)4-06-257088-2	
池田安隆・他「活断層とは何か」(東京大学出版会, 1996)4-13-063309-0	
寒川旭「地震考古学 遺跡が語る地震の歴史」(中公新書, 1992)4-12-101096-5	
上田誠也「プレートテクトニクス」(岩波書店, 1989)4-00-005929-7	
瀬野徹三「プレートテクトニクスの基礎」(朝倉書店, 1995)4-254-16029-1	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国土地理院、気象庁、産業技術総合研究所地質調査総合センター、防災科学技術研究所などのホームページ

その他 / Others

シミュレーション S

15292

担当者名 / Instructor 小池 行弘

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

統計学や線形代数学は社会科学においてもよく利用される数理的な手段となっている。大量のデータを取り扱うために計算機は欠かせないが、この授業においてはEXCELを利用した数理的な手法を習得するのがねらいである。受講に当たってはEXCELの基本的な操作(数値や数式の入力、統計量の計算等)に習熟していることが望ましい。また筆記試験では線形計画問題を出題する予定である。数学的な内容としては主に線形代数・統計学を用いる。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・EXCELソルバー機能を用いて種々の問題解決に役立てること。
- ・線形計画問題をSimplex法で解くこと。
- ・回帰分析における回帰係数を求めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	EXCELによる金利計算	72の法則
第2～4回目	生存時間解析と年金シミュレーション	平均寿命、負担と給付、ソルバー
第5～7回目	回帰分析	回帰直線、回帰係数、配列関数、逆行列
第8～10回目	線形計画法	図解法、Simplex法、連立1次方程式
第11～13回目	確率分布	二項分布、正規分布、検定
第14回目	問題演習	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	線形計画法・回帰分析について
日常点・その他	50 %	授業時に作成したEXCELシート等

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教材フォルダに用意したEXCELシートに記入しながら授業を進める予定

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

車のCMを見ていて、車のホイールが、進行方向とは逆に回転しているのを見たことはないだろうか。これは、アナログからデジタルに変換する過程で起こる、情報の欠落によるのであるが、おわかりだろうか。

また、人間の未来は、多くの可能性を秘めており、不確定であるが故に、可能性を過大に評価していないだろうか。我々人類が得ることのできる知識の限界や、量をはかり、提示することはできるのであるか。

コンピュータを利用した技術は、日進月歩の進展を見せており、人工知能や人工生命あるいはロボットなど、情報に関わる技術は、映画「2001年宇宙の旅」や「マトリクス」のように、人類を脅かすものとなっていくのだろうか。コンピュータの能力は人間の能力に匹敵するものなのだろうか。このような答えの一端をこの授業で明らかにしていく。

到達目標 / Attainment Objectives

情報化とはどのようなことか。また、情報化の進んでいく方向を見極める目を養うことを目的とし、情報処理のメカニズムについて理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	情報科学で扱うこと	情報 表現 処理 アナログとデジタル 連続と離散
2回目	情報概念出現の歴史的背景と科学的背景報	物質 エネルギー 情報 汎用化
3回目	情報とネット社会の現状	世界的盗聴システム エシロン 情報の表現と人類の限界 情報公開とプライバシー保護
4回目	情報の表現をどのようにするか	符号化と復号化 暗号 個人認証
5回目	最適な情報の表現について考える	コンパクト符号 ハフマンの符号化法 情報の圧縮
6回目	情報の価値を科学的に量るために	情報量 エントロピー 生起確率
7回目	情報量を求めてみる	TV 光の三原色 DVD CD サイコロ
8回目	機械的自動処理のメカニズム	人工生命 複雑系 オートマン セルオートマン
9回目	オートマトンによる情報処理の表現	状態図 オートマトンによる認識 形式言語
10回目	生物の情報処理のメカニズムを真似て	脳 マカロックとピッツ 神経回路網 人工知能 生物知能 自動機械
11回目	コンピュータの原理を考える	チューリングマシン コンピュータ
12回目	人間と計算機の情報処理能力の比較	生物知能と人工知能 チューリングテスト ゲーデル
13回目	人間とコンピュータの情報処理能力を比較する2	人間の能力 計算機の能力
14回目	全体のまとめ	
15回目	テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	授業全般にわたっての理解を確認する
最終講義日試験	0 %	
日常点・その他	20 %	授業の進行に従って、問題を出題し、正解が出れば加点する。出席も重視

教科書に沿って授業を行う。積み上げ式なので、授業を遅れたり休んだりすると理解しにくい。また、問題には積極的にチャレンジして欲しい。授業を毎回まじめに聞くことが重要。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
情報学概論・Prologプログラミング	吉田要 / 八千代出版(生協書籍部にて販売) / 4-8429-0874-2 / 生協書籍部にて

授業は教科書に沿って行う

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

情報技術と社会 S

12953

担当者名 / Instructor 杉本 英昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

近年の情報技術の発展により、我々の社会は急速に高度情報化社会へ移行している。本講義では我々の社会において、どのような情報技術が、どのように活用されているかを説明し、情報技術が社会に与える影響について考える。

講義では日常生活で利用されている情報技術の具体的な例を取り上げて説明するとともに、情報技術そのものに関する最新のニュースや情報技術が関係したニュースを取り上げ、社会に与えた影響について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 講義で説明する情報技術やそれらを用いた製品・サービスについてその仕組みを理解し、説明できる。
- (2) 情報技術を用いた製品・サービスが社会に与える影響(長所、短所、問題点など)について説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に無し。

レポートの提出に利用する予定であるWebCT等の詳細な使い方は講義の中で説明する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス(講義の進め方、評価方法、WebCTについて)、情報技術とは	WebCT、IT、ICT
第2回	ハードウェアの基礎	コンピュータの歴史、コンピュータの5大装置
第3回	ソフトウェアの基礎	ソフトウェアの分類、ユーザビリティ
第4回	プログラミングの基礎	機械語、高級言語、Java言語
第5回	ネットワークの基礎	インターネット、電子メール、World Wide Web
第6回	メディアとしてのブログ	ブログ、RSS、Wiki、SNS
第7回	Web 2.0	Web 2.0、ロングテール、CGM
第8回	ビジネスにおける情報技術の活用	インターネット広告、SEM、SEO
第9回	ICタグ	RFID、ICタグ、ICカード
第10回	地域社会における情報技術の活用	電子政府、電子自治体、電子投票
第11回	医療分野における情報技術の活用	X線CT、MRI、病院情報システム、電子カルテ
第12回	情報技術と著作権	著作権、特許、ビジネスモデル特許
第13回	情報技術とセキュリティ	個人情報の保護、コンピュータウイルス
第14回	まとめ	最新の話、EPIC2014
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

講義を受講する前に閲覧・利用が望まれるWebサイト等がある場合は、事前に指示する。

講義の内容を復習するとともに、講義で紹介したWebサイトやサービスを、マルチメディアルーム等で可能な限り実際に利用して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	(1) 講義で説明した情報技術やそれらを用いた製品・サービスの基本的な知識を問う。(2) 講義で説明した情報技術を用いた製品・サービスが社会に与える影響(長所、短所、問題点など)について説明できるかを問う。
日常点・その他	20 %	与えたテーマ(課題)について実際のWebサービス等を利用し、その長所・短所や問題点の指摘および改善のための提言ができていないかを問うレポートを課す。(課題内容は第7回頃に授業中に説明する。WebCTを使って提出を受け付ける予定である)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「参考になるWWWページ」で紹介している情報技術に関するニュースサイトを閲覧するなどして、日頃から情報技術に関するニュースに関心を持って欲しい。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

講義中に適宜プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

情報はなぜビットなのか	矢沢 久雄 / 日経BP社 / 4-8222-8270-8 / コンピュータと情報処理の基礎知識全般に関する参考書。情報技術関連の歴史にも触れている
図解入門 よくわかる最新PCアーキテクチャの基 本と仕組み	伊勢 雅英 / 秀和システム / 4-7980-0365-4 / ハードウェアに関する参考書
これならわかる TCP/IP 入門の入門	福永 勇二 / 翔泳社 / 4-7981-1220-8 / ネットワークに関する参考書
ウェブ進化論 本当の大変化はこれから始まる	梅田 望夫 / 筑摩書房 / 4-480-06285-8 / Web2.0についての参考書。2006年の新書売上第2位(amazon調べ)
「みんなの意見」は案外正しい	ジェームズ・スロウィッキー / 角川書店 / 4-04-791506-8 / WikipediaなどのCGMに関する参考書
ウェブログの心理学	山下 清美 / NTT出版 / 4-7571-0149-X / ブログに関する参考書。人はなぜウェブログを書くのか、書き続ける動機は何か、というテーマで心理学的アプローチを行っている
ブログがジャーナリズムを変える	湯川 鶴章 / NTT出版 / 4-7571-0194-5 / ブログとジャーナリズムの関係に関する参考書
グーグル・アマゾン化する社会	森 健 / 光文社 / 4-334-03369-5 / Web2.0に関する参考書
アンビエント・ファインダビリティ：ウェブ、検索、 そしてコミュニケーションをめぐる旅	Peter Morville / オライリージャパン / 4-87311-283-4 / 情報の見つけやすさに焦点をあてた参考書
Web 2.0 時代のインターネット広告	佐藤 光紀 / 日本経済新聞社 / 4-532-31304-X / インターネット広告に関する参考書
標準 HTML, CSS & JavaScript辞典	プロジェクトA / インプレス / 4-8443-1701-6 / Webサイト作成に関する参考書
ビジネスの新常識 ネット広告のすべて	紅瀬 雄太, 足代 訓史 / ディー・アート / 4-88648-752-1 / ネット広告に関する参考書。「Web2.0」「ユビキタス」「放送と通信の融合」にも言及している
SNSマーケティング入門	山崎 秀夫, 村井 亮 / インプレスR&D / 4-8443-2300-8 / SNSに関する参考書
CGM-消費者発信型メディア Web2.0時代のマー ケティング戦略	伊藤史 / 毎日コミュニケーションズ / 4-8399-2309-4 / CGMに関する参考書

講義で取り扱う各テーマについて、さらに詳しく知りたい人はぜひ読んでほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日経BP記事検索サービス : <http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/mr/lib/sogo/nikkeibp.htm>
(日経BP社発行雑誌のバックナンバーの全文記事検索サービス。講義内容に関連した記事を紹介するので利用して欲しい)

[情報技術に関するニュースサイト]

Japan.internet.com デイリーリサーチ : <http://japan.internet.com/research/>
IT media ニュース : <http://www.itmedia.co.jp/news/>
CNET Japan : <http://japan.cnet.com/>
ITpro : <http://itpro.nikkeibp.co.jp/>
Japan.internet.com : <http://japan.internet.com/>
INTERNET Watch : <http://internet.watch.impress.co.jp/>
デジタルARENA : <http://arena.nikkeibp.co.jp/>
ASCII.jp : <http://ascii.jp/>
MYCOMジャーナル : <http://journal.mycom.co.jp/>
ITmedia +D モバイル : <http://plusd.itmedia.co.jp/mobile/>
NIKKEI NET インターネット IT-PLUS : <http://it.nikkei.co.jp/internet/>
Enterprise Platform 2007 : <http://itpro.nikkeibp.co.jp/a/it/>

[情報技術の用語辞典サイト]

IT用語辞典 e-Words : <http://e-words.jp/>
Yahoo!コンピュータ - 用語辞典 : <http://computers.yahoo.co.jp/dict/>
ASCII.jp - アスキー デジタル用語辞典 : <http://yougo.ascii24.com/>
@IT情報マネジメント用語事典インデックス : <http://www.atmarkit.co.jp/im/terminology/>
誰でもわかる! パソコン用語 : <http://support.microsoft.com/gp/glossary/>

上記サイトの他にも、参考になるWebサイトやWebページ(記事)を講義の中で紹介する。

その他 / Others

情報の数理 GA

15196

担当者名 / Instructor 原 啓介

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

情報理論について入門的講義を行なう。情報理論とは、「情報」の概念を数学的に研究するものである。
(無関係ではないが、コンピュータについての数学、という意味ではない。)

到達目標 / Attainment Objectives

情報理論の基本的概念と枠組みについて理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

文系の国立大学入試程度の高校までの数学が理解されていることが望ましい。
もしそうでない場合には、講義の理解のために自習を要する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
2	情報理論とは	情報源、通信経路、コードとコーディング
2	一意復号化コード	
2	即時コード	
2	Kraft の不等式と McMillan の不等式	
3	最適コード	
3	エントロピーの概念と性質	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	中間と期末の二回のレポート。

中間と期末の二回のレポート提出のみで採点評価する。配点は各 50 点の合計 100 点
(よって、単位取得のためには両方のレポート提出が必須)。

課題は講義の中で与える。最終レポートの課題と要件については、他のレポート科目と同様に掲示板で一斉掲示もする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義は通常の数学の講義のスタイル、つまり大量の板書で行なう。

レジュメ等の配布は一切ない。

講義の進行程度に応じて進度は柔軟に変更するので、上記の授業スケジュールはあくまで目安である。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しないが、参考となるものがあれば講義内で挙げることもある。
レジュメ等の配布物はない。

参考書 / Reference Books

同上

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

数理の世界 GA

15038

担当者名 / Instructor 原 啓介

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「数学」とは何か、について、解説することを目標とする。
 具体的な例として、「数」、「図形」、「確率」などの概念などを通して、
 数学とはどんなことを考え、研究する学問なのかを学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

「数」、「幾何」、「確率」の概念などを実例にして、数学とは何かを理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

文系の国立大学入試程度の高校までの数学が理解されていることが望ましい。
 もしそうでない場合には、講義の理解のために自習を要する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	数学とは、数学者とは？	
6	「数」の定義と性質。自然数、整数、有理数、実数、複素数、四元数など。	
4	初等幾何学(ユークリッド幾何学)と非ユークリッド幾何学	
4	確率とは何か	

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	中間、最終の二回。

中間レポートと最終レポートの二回で評価する。配点は各 50 点の合計 100 点
 (よって、単位取得のためには、両方のレポートを提出することが必須)。
 課題は講義の中で与える。最終レポートは、他のレポート評価科目と同様に、
 掲示板において一斉掲示もする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義の性質上、全15回の各回にどのような項目を学ぶかを現時点で確定しておく
 ことはできないが、おおよそ、上記のような進捗を進めることを予定している。
 基本的に数学の講義のスタイル(つまり、主に大量の板書)で行い、レジュメ等の
 配布はない。

教科書 / Textbooks

教科書はない。参考書は講義の中で随時、挙げることもある。
 レジュメの類はない。

参考書 / Reference Books

同上。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報リテラシー」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
2	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
3	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
4	学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACISISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
5	学術情報 【課題】 総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】 データ検索(メール添付)	
6	文書作成(Word) 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
7	文書作成(Word) ワードアート・クリップアートを利用した文書	
8	文書作成(Word) 【課題】 総復習【課題】 案内文書の作成	
9	表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
10	表計算(Excel) 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
11	表計算(Excel) 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
12	表計算(Excel) 総復習【課題】 表計算とグラフの作成	
13	PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	
14	PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷	

15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

中級クラス

- 1 Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
- 2 コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)
- 3 Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
- 4 学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
- 5 学術情報 【課題】総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】データ検索(メール添付)
- 6 文書作成(Word) 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
- 7 文書作成(Word) ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
- 8 文書作成(Word) 【課題】総復習【課題】案内文書の作成
- 9 表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
- 10 表計算(Excel) オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
- 11 表計算(Excel) 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
- 12 表計算(Excel) 総復習【課題】表計算とグラフの作成
- 13 PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
- 14 PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
- 15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。
日常点・その他	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報リテラシー」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
2	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
3	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
4	学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACISISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
5	学術情報 【課題】総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】データ検索(メール添付)	
6	文書作成(Word) 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
7	文書作成(Word) ワードアート・クリップアートを利用した文書	
8	文書作成(Word) 【課題】総復習【課題】案内文書の作成	
9	表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
10	表計算(Excel) 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
11	表計算(Excel) 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
12	表計算(Excel) 総復習【課題】表計算とグラフの作成	
13	PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	
14	PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷	

15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

中級クラス

- 1 Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
- 2 コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)
- 3 Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
- 4 学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
- 5 学術情報 【課題】総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】データ検索(メール添付)
- 6 文書作成(Word) 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
- 7 文書作成(Word) ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
- 8 文書作成(Word) 【課題】総復習【課題】案内文書の作成
- 9 表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
- 10 表計算(Excel) オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
- 11 表計算(Excel) 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
- 12 表計算(Excel) 総復習【課題】表計算とグラフの作成
- 13 PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
- 14 PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
- 15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。
日常点・その他	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報リテラシー」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
2	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
3	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
4	学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACISISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
5	学術情報 【課題】総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】データ検索(メール添付)	
6	文書作成(Word) 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
7	文書作成(Word) ワードアート・クリップアートを利用した文書	
8	文書作成(Word) 【課題】総復習【課題】案内文書の作成	
9	表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
10	表計算(Excel) 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
11	表計算(Excel) 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
12	表計算(Excel) 総復習【課題】表計算とグラフの作成	
13	PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	
14	PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷	

15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

 中級クラス

- 1 Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
- 2 コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)
- 3 Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
- 4 学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
- 5 学術情報 【課題】 総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】 データ検索(メール添付)
- 6 文書作成 (Word) 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
- 7 文書作成 (Word) ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
- 8 文書作成 (Word) 【課題】 総復習【課題】 案内文書の作成
- 9 表計算 (Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
- 10 表計算 (Excel) オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
- 11 表計算 (Excel) 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
- 12 表計算 (Excel) 総復習【課題】 表計算とグラフの作成
- 13 PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
- 14 PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
- 15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。
日常点・その他	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報リテラシー」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
2	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
3	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
4	学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACISISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
5	学術情報 【課題】 総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】 データ検索(メール添付)	
6	文書作成(Word) 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
7	文書作成(Word) ワードアート・クリップアートを利用した文書	
8	文書作成(Word) 【課題】 総復習【課題】 案内文書の作成	
9	表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
10	表計算(Excel) 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
11	表計算(Excel) 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
12	表計算(Excel) 総復習【課題】 表計算とグラフの作成	
13	PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	
14	PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷	

15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

中級クラス

- 1 Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
- 2 コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)
- 3 Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
- 4 学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
- 5 学術情報 【課題】総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】データ検索(メール添付)
- 6 文書作成(Word) 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
- 7 文書作成(Word) ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
- 8 文書作成(Word) 【課題】総復習【課題】案内文書の作成
- 9 表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
- 10 表計算(Excel) オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
- 11 表計算(Excel) 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
- 12 表計算(Excel) 総復習【課題】表計算とグラフの作成
- 13 PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
- 14 PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
- 15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。
日常点・その他	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報リテラシー」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
2	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
3	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
4	学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACISISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
5	学術情報 【課題】総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】データ検索(メール添付)	
6	文書作成(Word) 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
7	文書作成(Word) ワードアート・クリップアートを利用した文書	
8	文書作成(Word) 【課題】総復習【課題】案内文書の作成	
9	表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
10	表計算(Excel) 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
11	表計算(Excel) 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
12	表計算(Excel) 総復習【課題】表計算とグラフの作成	
13	PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	
14	PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷	

15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

中級クラス

- 1 Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
- 2 コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)
- 3 Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
- 4 学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
- 5 学術情報 【課題】総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】データ検索(メール添付)
- 6 文書作成(Word) 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
- 7 文書作成(Word) ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
- 8 文書作成(Word) 【課題】総復習【課題】案内文書の作成
- 9 表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
- 10 表計算(Excel) オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
- 11 表計算(Excel) 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
- 12 表計算(Excel) 総復習【課題】表計算とグラフの作成
- 13 PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
- 14 PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
- 15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。
日常点・その他	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報リテラシー」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
2	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
3	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
4	学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACISISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
5	学術情報 【課題】 総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】 データ検索(メール添付)	
6	文書作成(Word) 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
7	文書作成(Word) ワードアート・クリップアートを利用した文書	
8	文書作成(Word) 【課題】 総復習【課題】 案内文書の作成	
9	表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
10	表計算(Excel) 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
11	表計算(Excel) 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
12	表計算(Excel) 総復習【課題】 表計算とグラフの作成	
13	PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	
14	PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷	

15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

 中級クラス

- 1 Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
- 2 コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)
- 3 Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
- 4 学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
- 5 学術情報 【課題】 総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】 データ検索(メール添付)
- 6 文書作成 (Word) 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
- 7 文書作成 (Word) ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
- 8 文書作成 (Word) 【課題】 総復習【課題】 案内文書の作成
- 9 表計算 (Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
- 10 表計算 (Excel) オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
- 11 表計算 (Excel) 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDUP、ROUNDDOWN)
- 12 表計算 (Excel) 総復習【課題】 表計算とグラフの作成
- 13 PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
- 14 PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
- 15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。
日常点・その他	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報リテラシー」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
2	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
3	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
4	学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACISISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
5	学術情報 【課題】総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】データ検索(メール添付)	
6	文書作成(Word) 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
7	文書作成(Word) ワードアート・クリップアートを利用した文書	
8	文書作成(Word) 【課題】総復習【課題】案内文書の作成	
9	表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
10	表計算(Excel) 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
11	表計算(Excel) 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
12	表計算(Excel) 総復習【課題】表計算とグラフの作成	
13	PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	
14	PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷	

15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

中級クラス

- 1 Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
- 2 コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)
- 3 Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
- 4 学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
- 5 学術情報 【課題】総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】データ検索(メール添付)
- 6 文書作成(Word) 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
- 7 文書作成(Word) ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
- 8 文書作成(Word) 【課題】総復習【課題】案内文書の作成
- 9 表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
- 10 表計算(Excel) オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
- 11 表計算(Excel) 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
- 12 表計算(Excel) 総復習【課題】表計算とグラフの作成
- 13 PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
- 14 PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
- 15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。
日常点・その他	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報リテラシー」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
2	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
3	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
4	学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACISISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
5	学術情報 【課題】総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】データ検索(メール添付)	
6	文書作成(Word) 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
7	文書作成(Word) ワードアート・クリップアートを利用した文書	
8	文書作成(Word) 【課題】総復習【課題】案内文書の作成	
9	表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
10	表計算(Excel) 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
11	表計算(Excel) 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
12	表計算(Excel) 総復習【課題】表計算とグラフの作成	
13	PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	
14	PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷	

15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

中級クラス

- 1 Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
- 2 コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)
- 3 Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
- 4 学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
- 5 学術情報 【課題】総復習(ここまでの内容のまとめ)【課題】データ検索(メール添付)
- 6 文書作成(Word) 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
- 7 文書作成(Word) ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
- 8 文書作成(Word) 【課題】総復習【課題】案内文書の作成
- 9 表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
- 10 表計算(Excel) オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
- 11 表計算(Excel) 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
- 12 表計算(Excel) 総復習【課題】表計算とグラフの作成
- 13 PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
- 14 PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
- 15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。
日常点・その他	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報リテラシー」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
2	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
3	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
4	学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACISISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
5	学術情報 【課題】総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】データ検索(メール添付)	
6	文書作成(Word) 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
7	文書作成(Word) ワードアート・クリップアートを利用した文書	
8	文書作成(Word) 【課題】総復習【課題】案内文書の作成	
9	表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
10	表計算(Excel) 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
11	表計算(Excel) 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
12	表計算(Excel) 総復習【課題】表計算とグラフの作成	
13	PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	
14	PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷	

15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

中級クラス

- 1 Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
- 2 コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)
- 3 Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
- 4 学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
- 5 学術情報 【課題】総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】データ検索(メール添付)
- 6 文書作成(Word) 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
- 7 文書作成(Word) ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
- 8 文書作成(Word) 【課題】総復習【課題】案内文書の作成
- 9 表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
- 10 表計算(Excel) オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
- 11 表計算(Excel) 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
- 12 表計算(Excel) 総復習【課題】表計算とグラフの作成
- 13 PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
- 14 PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
- 15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。
日常点・その他	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報リテラシー」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
2	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
3	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
4	学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACISISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
5	学術情報 【課題】 総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】 データ検索(メール添付)	
6	文書作成(Word) 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
7	文書作成(Word) ワードアート・クリップアートを利用した文書	
8	文書作成(Word) 【課題】 総復習【課題】 案内文書の作成	
9	表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
10	表計算(Excel) 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
11	表計算(Excel) 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
12	表計算(Excel) 総復習【課題】 表計算とグラフの作成	
13	PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	
14	PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷	

15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

 中級クラス

- 1 Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
- 2 コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)
- 3 Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
- 4 学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
- 5 学術情報 【課題】 総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】 データ検索(メール添付)
- 6 文書作成 (Word) 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
- 7 文書作成 (Word) ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
- 8 文書作成 (Word) 【課題】 総復習【課題】 案内文書の作成
- 9 表計算 (Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
- 10 表計算 (Excel) オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
- 11 表計算 (Excel) 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
- 12 表計算 (Excel) 総復習【課題】 表計算とグラフの作成
- 13 PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
- 14 PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
- 15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。
日常点・その他	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報リテラシー」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
2	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
3	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
4	学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACISISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
5	学術情報 【課題】 総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】 データ検索(メール添付)	
6	文書作成(Word) 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
7	文書作成(Word) ワードアート・クリップアートを利用した文書	
8	文書作成(Word) 【課題】 総復習【課題】 案内文書の作成	
9	表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
10	表計算(Excel) 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
11	表計算(Excel) 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
12	表計算(Excel) 総復習【課題】 表計算とグラフの作成	
13	PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	
14	PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷	

15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

 中級クラス

- 1 Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
- 2 コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)
- 3 Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
- 4 学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
- 5 学術情報 【課題】総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】データ検索(メール添付)
- 6 文書作成(Word) 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
- 7 文書作成(Word) ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
- 8 文書作成(Word) 【課題】総復習【課題】案内文書の作成
- 9 表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
- 10 表計算(Excel) オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
- 11 表計算(Excel) 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
- 12 表計算(Excel) 総復習【課題】表計算とグラフの作成
- 13 PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
- 14 PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
- 15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。
日常点・その他	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報リテラシー」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
2	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
3	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
4	学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACISISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
5	学術情報 【課題】総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】データ検索(メール添付)	
6	文書作成(Word) 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
7	文書作成(Word) ワードアート・クリップアートを利用した文書	
8	文書作成(Word) 【課題】総復習【課題】案内文書の作成	
9	表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
10	表計算(Excel) 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
11	表計算(Excel) 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
12	表計算(Excel) 総復習【課題】表計算とグラフの作成	
13	PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	
14	PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷	

15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

 中級クラス

- 1 Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
- 2 コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)
- 3 Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
- 4 学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
- 5 学術情報 【課題】 総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】 データ検索(メール添付)
- 6 文書作成 (Word) 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
- 7 文書作成 (Word) ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
- 8 文書作成 (Word) 【課題】 総復習【課題】 案内文書の作成
- 9 表計算 (Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
- 10 表計算 (Excel) オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
- 11 表計算 (Excel) 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
- 12 表計算 (Excel) 総復習【課題】 表計算とグラフの作成
- 13 PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
- 14 PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
- 15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。
日常点・その他	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報リテラシー」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
2	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
3	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
4	学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
5	学術情報 【課題】総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】データ検索(メール添付)	
6	文書作成(Word) 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
7	文書作成(Word) ワードアート・クリップアートを利用した文書	
8	文書作成(Word) 【課題】総復習【課題】案内文書の作成	
9	表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
10	表計算(Excel) 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
11	表計算(Excel) 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
12	表計算(Excel) 総復習【課題】表計算とグラフの作成	
13	PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	
14	PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷	

15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

 中級クラス

- 1 Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
- 2 コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)
- 3 Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
- 4 学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
- 5 学術情報 【課題】 総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】 データ検索(メール添付)
- 6 文書作成 (Word) 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
- 7 文書作成 (Word) ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
- 8 文書作成 (Word) 【課題】 総復習【課題】 案内文書の作成
- 9 表計算 (Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
- 10 表計算 (Excel) オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
- 11 表計算 (Excel) 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
- 12 表計算 (Excel) 総復習【課題】 表計算とグラフの作成
- 13 PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
- 14 PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
- 15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。
日常点・その他	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報リテラシー」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
2	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
3	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
4	学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
5	学術情報 【課題】総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】データ検索(メール添付)	
6	文書作成(Word) 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
7	文書作成(Word) ワードアート・クリップアートを利用した文書	
8	文書作成(Word) 【課題】総復習【課題】案内文書の作成	
9	表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
10	表計算(Excel) 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
11	表計算(Excel) 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
12	表計算(Excel) 総復習【課題】表計算とグラフの作成	
13	PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	
14	PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷	

15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

 中級クラス

- 1 Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
- 2 コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)
- 3 Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
- 4 学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
- 5 学術情報 【課題】 総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】 データ検索(メール添付)
- 6 文書作成 (Word) 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
- 7 文書作成 (Word) ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
- 8 文書作成 (Word) 【課題】 総復習【課題】 案内文書の作成
- 9 表計算 (Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
- 10 表計算 (Excel) オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
- 11 表計算 (Excel) 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
- 12 表計算 (Excel) 総復習【課題】 表計算とグラフの作成
- 13 PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
- 14 PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
- 15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。
日常点・その他	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーSO

11873

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報リテラシー」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
2	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
3	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
4	学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACISISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
5	学術情報 【課題】総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】データ検索(メール添付)	
6	文書作成(Word) 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
7	文書作成(Word) ワードアート・クリップアートを利用した文書	
8	文書作成(Word) 【課題】総復習【課題】案内文書の作成	
9	表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
10	表計算(Excel) 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
11	表計算(Excel) 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
12	表計算(Excel) 総復習【課題】表計算とグラフの作成	
13	PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	
14	PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷	

15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

 中級クラス

- 1 Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
- 2 コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)
- 3 Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
- 4 学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
- 5 学術情報 【課題】 総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】 データ検索(メール添付)
- 6 文書作成 (Word) 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
- 7 文書作成 (Word) ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
- 8 文書作成 (Word) 【課題】 総復習【課題】 案内文書の作成
- 9 表計算 (Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
- 10 表計算 (Excel) オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
- 11 表計算 (Excel) 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
- 12 表計算 (Excel) 総復習【課題】 表計算とグラフの作成
- 13 PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
- 14 PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
- 15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。
日常点・その他	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報リテラシー」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)	
2	コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)	
3	Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー	
4	学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACISISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)	
5	学術情報 【課題】 総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】 データ検索(メール添付)	
6	文書作成(Word) 案内文書の作成(箇条書き・文字装飾)、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷	
7	文書作成(Word) ワードアート・クリップアートを利用した文書	
8	文書作成(Word) 【課題】 総復習【課題】 案内文書の作成	
9	表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)	
10	表計算(Excel) 関数復習、オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)	
11	表計算(Excel) 関数と絶対参照(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(値の比較)作成	
12	表計算(Excel) 総復習【課題】 表計算とグラフの作成	
13	PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入	
14	PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷	

15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

 中級クラス

- 1 Windows基礎 ID・パスワードの管理方法、学内システム利用について、メディアの取り扱い(USBフラッシュメモリ)、ファイル・フォルダの管理(教材フォルダの利用)
- 2 コースツール・インターネット コースツールの使い方、インターネットの仕組みと情報検索、情報倫理(ネチケット、SNS利用の注意点)
- 3 Webメール Webメールの使い方(送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理、添付メール)、データの圧縮・解凍メールのマナー
- 4 学術情報 情報の種類と特徴の理解、情報の探し方(RUNNERS・NACSISWebcat、各種データベース)、情報の活用と著作権(引用の方法)
- 5 学術情報 【課題】総復習(ここまでの内容のまとめ) 【課題】データ検索(メール添付)
- 6 文書作成(Word) 案内文書の作成(インデント・スタイル設定)タイトル・本文・箇条書き、表、文書の印刷
- 7 文書作成(Word) ワードアート・クリップアート・画像を利用した文書、図ツールバーを使った画像処理
- 8 文書作成(Word) 【課題】総復習【課題】案内文書の作成
- 9 表計算(Excel) Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
- 10 表計算(Excel) オートフィル機能、関数と絶対参照、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、グラフの使い分け
- 11 表計算(Excel) 基本的なグラフ(値の比較・比率)の作成、関数応用(RANK、ROUNDDOWN、ROUNDUP)
- 12 表計算(Excel) 総復習【課題】表計算とグラフの作成
- 13 PowerPoint PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙・目次・箇条書き・表)、配色の変更、クリップアートの挿入
- 14 PowerPoint スライドへの設定(画面切り替え効果・アニメーションの設定)、スライドショーの実行、配布資料の印刷
- 15 最終講義日試験 マークシートによる前期総合多肢選択式(75問)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。
日常点・その他	0 %	0

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーII SA

11803

担当者名 / Instructor 長澤 克重

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的をふまえた応用的スキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	プレゼンテーション(PowerPoint) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
4	プレゼンテーション(PowerPoint) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
5	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】 代表発表、データ回収	
6	表計算応用(Excel) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
7	表計算応用(Excel) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
8	表計算応用(Excel) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
9	表計算応用 Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
10	表計算応用 【課題】 総復習 【課題】 応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級:複数シート間の連携利用)	
11	文書作成応用 レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)
12	文書作成応用 レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
13	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
14	文書作成応用 【課題】 レポート作成	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	
	中級クラス	

1	プレゼンテーション(PowerPoint) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、	視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
4	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】 代表発表データ提出	
5	表計算応用 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
6	表計算応用 グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
7	表計算応用 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
8	表計算応用 【課題】 総復習 【課題】 応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級・複数シート間の連携利用)	
9	文書作成応用 レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
10	文書作成応用 Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定	
11	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
12	文書作成応用 【課題】 レポート作成	
13	HTMLでのWeb作成 Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))	
14	HTMLでのWeb作成 カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業の概要 / Course Outline

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的をふまえた応用的スキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	プレゼンテーション(PowerPoint) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
4	プレゼンテーション(PowerPoint) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
5	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】 代表発表、データ回収	
6	表計算応用(Excel) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
7	表計算応用(Excel) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
8	表計算応用(Excel) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
9	表計算応用 Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
10	表計算応用 【課題】 総復習 【課題】 応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級:複数シート間の連携利用)	
11	文書作成応用 レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)
12	文書作成応用 レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
13	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
14	文書作成応用 【課題】 レポート作成	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	
	中級クラス	

1	プレゼンテーション(PowerPoint) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、	視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
4	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】 代表発表データ提出	
5	表計算応用 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
6	表計算応用 グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
7	表計算応用 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
8	表計算応用 【課題】 総復習 【課題】 応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級・複数シート間の連携利用)	
9	文書作成応用 レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
10	文書作成応用 Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定	
11	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
12	文書作成応用 【課題】 レポート作成	
13	HTMLでのWeb作成 Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))	
14	HTMLでのWeb作成 カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーII SC

11805

担当者名 / Instructor 長澤 克重

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的をふまえた応用的スキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	プレゼンテーション(PowerPoint) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
4	プレゼンテーション(PowerPoint) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
5	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】 代表発表、データ回収	
6	表計算応用(Excel) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
7	表計算応用(Excel) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
8	表計算応用(Excel) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
9	表計算応用 Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
10	表計算応用 【課題】 総復習 【課題】 応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級:複数シート間の連携利用)	
11	文書作成応用 レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)
12	文書作成応用 レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
13	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
14	文書作成応用 【課題】 レポート作成	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	
	中級クラス	

1	プレゼンテーション(PowerPoint) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、	視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
4	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】 代表発表データ提出	
5	表計算応用 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
6	表計算応用 グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
7	表計算応用 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
8	表計算応用 【課題】 総復習 【課題】 応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級・複数シート間の連携利用)	
9	文書作成応用 レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
10	文書作成応用 Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定	
11	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
12	文書作成応用 【課題】 レポート作成	
13	HTMLでのWeb作成 Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))	
14	HTMLでのWeb作成 カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーII SD

11806

担当者名 / Instructor 長澤 克重

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的をふまえた応用的スキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	プレゼンテーション(PowerPoint) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
4	プレゼンテーション(PowerPoint) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
5	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】 代表発表、データ回収	
6	表計算応用(Excel) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
7	表計算応用(Excel) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
8	表計算応用(Excel) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
9	表計算応用 Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
10	表計算応用 【課題】 総復習 【課題】 応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級:複数シート間の連携利用)	
11	文書作成応用 レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)
12	文書作成応用 レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
13	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
14	文書作成応用 【課題】 レポート作成	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	
	中級クラス	

1	プレゼンテーション(PowerPoint) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、	視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
4	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】代表発表データ提出	
5	表計算応用 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
6	表計算応用 グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
7	表計算応用 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
8	表計算応用 【課題】総復習【課題】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級・複数シート間の連携利用)	
9	文書作成応用 レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
10	文書作成応用 Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定	
11	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
12	文書作成応用 【課題】レポート作成	
13	HTMLでのWeb作成 Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))	
14	HTMLでのWeb作成 カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーII SE

11807

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的をふまえた応用的スキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	プレゼンテーション(PowerPoint) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
4	プレゼンテーション(PowerPoint) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
5	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】代表発表、データ回収	
6	表計算応用(Excel) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
7	表計算応用(Excel) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
8	表計算応用(Excel) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
9	表計算応用 Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
10	表計算応用【課題】総復習【課題】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級:複数シート間の連携利用)	
11	文書作成応用 レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点)	ヘッダー・フッター機能)
12	文書作成応用 レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
13	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
14	文書作成応用【課題】レポート作成	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	
	中級クラス	

1	プレゼンテーション(PowerPoint) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、	視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
4	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】 代表発表データ提出	
5	表計算応用 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
6	表計算応用 グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
7	表計算応用 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
8	表計算応用 【課題】 総復習 【課題】 応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級・複数シート間の連携利用)	
9	文書作成応用 レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
10	文書作成応用 Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定	
11	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
12	文書作成応用 【課題】 レポート作成	
13	HTMLでのWeb作成 Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))	
14	HTMLでのWeb作成 カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーII SF

11808

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的をふまえた応用的スキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	プレゼンテーション(PowerPoint) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
4	プレゼンテーション(PowerPoint) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
5	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】代表発表、データ回収	
6	表計算応用(Excel) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
7	表計算応用(Excel) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
8	表計算応用(Excel) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
9	表計算応用 Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
10	表計算応用【課題】総復習【課題】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級:複数シート間の連携利用)	
11	文書作成応用 レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)
12	文書作成応用 レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
13	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
14	文書作成応用【課題】レポート作成	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	
	中級クラス	

1	プレゼンテーション(PowerPoint) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、	視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
4	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】代表発表データ提出	
5	表計算応用 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
6	表計算応用 グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
7	表計算応用 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
8	表計算応用 【課題】総復習【課題】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級・複数シート間の連携利用)	
9	文書作成応用 レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
10	文書作成応用 Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定	
11	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
12	文書作成応用 【課題】レポート作成	
13	HTMLでのWeb作成 Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))	
14	HTMLでのWeb作成 カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーII SG

11809

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的をふまえた応用的スキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	プレゼンテーション(PowerPoint) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
4	プレゼンテーション(PowerPoint) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
5	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】代表発表、データ回収	
6	表計算応用(Excel) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
7	表計算応用(Excel) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
8	表計算応用(Excel) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
9	表計算応用 Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
10	表計算応用【課題】総復習【課題】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級:複数シート間の連携利用)	
11	文書作成応用 レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点)	ヘッダー・フッター機能)
12	文書作成応用 レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
13	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
14	文書作成応用【課題】レポート作成	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	
	中級クラス	

1	プレゼンテーション(PowerPoint) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、	視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
4	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】代表発表データ提出	
5	表計算応用 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
6	表計算応用 グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
7	表計算応用 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
8	表計算応用 【課題】総復習【課題】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級・複数シート間の連携利用)	
9	文書作成応用 レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
10	文書作成応用 Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定	
11	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
12	文書作成応用 【課題】レポート作成	
13	HTMLでのWeb作成 Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))	
14	HTMLでのWeb作成 カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーII SH

11810

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的をふまえた応用的スキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	プレゼンテーション(PowerPoint) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
4	プレゼンテーション(PowerPoint) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
5	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】代表発表、データ回収	
6	表計算応用(Excel) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
7	表計算応用(Excel) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
8	表計算応用(Excel) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
9	表計算応用 Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
10	表計算応用【課題】総復習【課題】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級:複数シート間の連携利用)	
11	文書作成応用 レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)
12	文書作成応用 レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
13	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
14	文書作成応用【課題】レポート作成	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	
	中級クラス	

1	プレゼンテーション(PowerPoint) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、	視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
4	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】代表発表データ提出	
5	表計算応用 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
6	表計算応用 グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
7	表計算応用 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
8	表計算応用 【課題】総復習【課題】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級・複数シート間の連携利用)	
9	文書作成応用 レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
10	文書作成応用 Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定	
11	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
12	文書作成応用 【課題】レポート作成	
13	HTMLでのWeb作成 Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))	
14	HTMLでのWeb作成 カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーII SI

11911

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的をふまえた応用的スキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	プレゼンテーション(PowerPoint) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
4	プレゼンテーション(PowerPoint) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
5	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】 代表発表、データ回収	
6	表計算応用(Excel) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
7	表計算応用(Excel) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
8	表計算応用(Excel) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
9	表計算応用 Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
10	表計算応用 【課題】 総復習 【課題】 応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級:複数シート間の連携利用)	
11	文書作成応用 レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)
12	文書作成応用 レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
13	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
14	文書作成応用 【課題】 レポート作成	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	
	中級クラス	

1	プレゼンテーション(PowerPoint) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、	視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
4	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】 代表発表データ提出	
5	表計算応用 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
6	表計算応用 グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
7	表計算応用 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
8	表計算応用 【課題】 総復習 【課題】 応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級・複数シート間の連携利用)	
9	文書作成応用 レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
10	文書作成応用 Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定	
11	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
12	文書作成応用 【課題】 レポート作成	
13	HTMLでのWeb作成 Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))	
14	HTMLでのWeb作成 カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーII SJ

11912

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的をふまえた応用的スキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	プレゼンテーション(PowerPoint) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
4	プレゼンテーション(PowerPoint) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
5	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】 代表発表、データ回収	
6	表計算応用(Excel) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
7	表計算応用(Excel) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
8	表計算応用(Excel) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
9	表計算応用 Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
10	表計算応用 【課題】 総復習 【課題】 応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級:複数シート間の連携利用)	
11	文書作成応用 レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)
12	文書作成応用 レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
13	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
14	文書作成応用 【課題】 レポート作成	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	
	中級クラス	

1	プレゼンテーション(PowerPoint) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、	視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
4	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】代表発表データ提出	
5	表計算応用 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
6	表計算応用 グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
7	表計算応用 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
8	表計算応用 【課題】総復習【課題】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級・複数シート間の連携利用)	
9	文書作成応用 レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
10	文書作成応用 Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定	
11	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
12	文書作成応用 【課題】レポート作成	
13	HTMLでのWeb作成 Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))	
14	HTMLでのWeb作成 カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーII SK

11913

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的をふまえた応用的スキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	プレゼンテーション(PowerPoint) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
4	プレゼンテーション(PowerPoint) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
5	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】 代表発表、データ回収	
6	表計算応用(Excel) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
7	表計算応用(Excel) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
8	表計算応用(Excel) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
9	表計算応用 Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
10	表計算応用 【課題】 総復習 【課題】 応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級:複数シート間の連携利用)	
11	文書作成応用 レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)
12	文書作成応用 レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
13	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
14	文書作成応用 【課題】 レポート作成	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	
	中級クラス	

1	プレゼンテーション(PowerPoint) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、	視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
4	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】代表発表データ提出	
5	表計算応用 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
6	表計算応用 グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
7	表計算応用 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
8	表計算応用 【課題】総復習【課題】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級・複数シート間の連携利用)	
9	文書作成応用 レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
10	文書作成応用 Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定	
11	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
12	文書作成応用 【課題】レポート作成	
13	HTMLでのWeb作成 Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))	
14	HTMLでのWeb作成 カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーII SL

11914

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的をふまえた応用的スキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	プレゼンテーション(PowerPoint) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
4	プレゼンテーション(PowerPoint) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
5	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】代表発表、データ回収	
6	表計算応用(Excel) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
7	表計算応用(Excel) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
8	表計算応用(Excel) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
9	表計算応用 Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
10	表計算応用 【課題】総復習 【課題】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級:複数シート間の連携利用)	
11	文書作成応用 レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)
12	文書作成応用 レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
13	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
14	文書作成応用 【課題】レポート作成	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	
	中級クラス	

1	プレゼンテーション(PowerPoint) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、	視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
4	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】 代表発表データ提出	
5	表計算応用 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
6	表計算応用 グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
7	表計算応用 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
8	表計算応用 【課題】 総復習 【課題】 応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級・複数シート間の連携利用)	
9	文書作成応用 レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
10	文書作成応用 Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定	
11	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
12	文書作成応用 【課題】 レポート作成	
13	HTMLでのWeb作成 Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))	
14	HTMLでのWeb作成 カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーII SM

11915

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的をふまえた応用的スキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	プレゼンテーション(PowerPoint) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
4	プレゼンテーション(PowerPoint) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
5	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】 代表発表、データ回収	
6	表計算応用(Excel) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
7	表計算応用(Excel) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
8	表計算応用(Excel) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
9	表計算応用 Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
10	表計算応用 【課題】 総復習 【課題】 応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級:複数シート間の連携利用)	
11	文書作成応用 レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)
12	文書作成応用 レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
13	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
14	文書作成応用 【課題】 レポート作成	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	
	中級クラス	

1	プレゼンテーション(PowerPoint) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、	視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
4	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】代表発表データ提出	
5	表計算応用 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
6	表計算応用 グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
7	表計算応用 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
8	表計算応用 【課題】総復習【課題】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級・複数シート間の連携利用)	
9	文書作成応用 レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
10	文書作成応用 Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定	
11	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
12	文書作成応用 【課題】レポート作成	
13	HTMLでのWeb作成 Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))	
14	HTMLでのWeb作成 カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーII SN

11916

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的をふまえた応用的スキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	プレゼンテーション(PowerPoint) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
4	プレゼンテーション(PowerPoint) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
5	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】 代表発表、データ回収	
6	表計算応用(Excel) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
7	表計算応用(Excel) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
8	表計算応用(Excel) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
9	表計算応用 Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
10	表計算応用 【課題】 総復習 【課題】 応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級:複数シート間の連携利用)	
11	文書作成応用 レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)
12	文書作成応用 レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
13	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
14	文書作成応用 【課題】 レポート作成	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	
	中級クラス	

1	プレゼンテーション(PowerPoint) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、	視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
4	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】代表発表データ提出	
5	表計算応用 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
6	表計算応用 グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
7	表計算応用 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
8	表計算応用 【課題】総復習【課題】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級・複数シート間の連携利用)	
9	文書作成応用 レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
10	文書作成応用 Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定	
11	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
12	文書作成応用 【課題】レポート作成	
13	HTMLでのWeb作成 Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))	
14	HTMLでのWeb作成 カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーII SO

11917

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的をふまえた応用的スキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	プレゼンテーション(PowerPoint) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
4	プレゼンテーション(PowerPoint) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
5	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】 代表発表、データ回収	
6	表計算応用(Excel) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
7	表計算応用(Excel) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
8	表計算応用(Excel) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
9	表計算応用 Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
10	表計算応用 【課題】 総復習 【課題】 応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級:複数シート間の連携利用)	
11	文書作成応用 レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)
12	文書作成応用 レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
13	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
14	文書作成応用 【課題】 レポート作成	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	
	中級クラス	

1	プレゼンテーション(PowerPoint) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、	視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
4	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】 代表発表データ提出	
5	表計算応用 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
6	表計算応用 グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
7	表計算応用 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
8	表計算応用 【課題】 総復習 【課題】 応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級・複数シート間の連携利用)	
9	文書作成応用 レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
10	文書作成応用 Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定	
11	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
12	文書作成応用 【課題】 レポート作成	
13	HTMLでのWeb作成 Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))	
14	HTMLでのWeb作成 カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーII SP

11918

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピューターの基礎的をふまえた応用的スキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	プレゼンテーション(PowerPoint) スライド作成(復習)、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方)	
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図形技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画、レイアウトの調整・グループ化機能)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
4	プレゼンテーション(PowerPoint) マスターの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
5	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】 代表発表、データ回収	
6	表計算応用(Excel) 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
7	表計算応用(Excel) グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
8	表計算応用(Excel) 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
9	表計算応用 Excelデータの活用(Word・PowerPointへの貼り付け)、埋め込みオブジェクト、リンクオブジェクト	
10	表計算応用 【課題】 総復習 【課題】 応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級:複数シート間の連携利用)	
11	文書作成応用 レポート作成上の注意(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)、レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定、脚注、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)
12	文書作成応用 レイアウトを考える(段組の利用)、Excelからのデータ利用方法(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、キャプションの設定	
13	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
14	文書作成応用 【課題】 レポート作成	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	
	中級クラス	

1	プレゼンテーション(PowerPoint) 表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、	視線の流れを理解する)、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現方法)
2	プレゼンテーション(PowerPoint) 図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画方法、レイアウトの調整・グループ化機能)、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)	
3	プレゼンテーション(PowerPoint) カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)マスタの設定、高度なアニメーションの設定、発表技法	
4	プレゼンテーション(PowerPoint)【課題】代表発表データ提出	
5	表計算応用 応用的な関数の利用(IF、COUNT、COUNTIF、SUMIF、IFのネスト)	
6	表計算応用 グラフ表現(簡単なグラフの復習と複合グラフ)	
7	表計算応用 複数シート間の計算(3D集計)、シート間のセル参照(リンク)	
8	表計算応用 【課題】総復習【課題】応用的な関数を用いた計算と複合グラフの作成(中級・複数シート間の連携利用)	
9	文書作成応用 レポート作成上の注意点(表紙やタイトルの記入、引用方法、参考文献の記入方法)レポート作成に必要な機能(ページ設定、スタイルを使ったタイトル設定(復習)、ページ番号の挿入、傍点、	ヘッダー・フッター機能)、レイアウトを考える(段組の利用)
10	文書作成応用 Excelからのデータ利用(リンクオブジェクト・埋め込みオブジェクト)、Excel表をWordに作る(Excelワークシートの挿入)、キャプションの設定	
11	文書作成応用 長文作成機能(見出しの設定・アウトライン番号の設定、段落の入れ替え、目次の作成)	
12	文書作成応用 【課題】レポート作成	
13	HTMLでのWeb作成 Webの構造、Web作成での注意事項(ブログとWebページの違い、著作権、肖像権、accessibility・usability)、基本的なWebページ作成(TITLE、見出し、画像、リンク(別ページ・メール))	
14	HTMLでのWeb作成 カラーコードとは、フリー素材集の利用、復習(オリジナルページを完成させる)	
15	最終講義日試験 マークシートによる後期総合多肢選択式(75問)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

スポーツ方法論Ⅰ

12840

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを用
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論Ⅱ

12841

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 3

12842

担当者名 / Instructor 川口 晋一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを用
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 4

12843

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 5

12849

担当者名 / Instructor 上 英俊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 6

12850

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論Ⅶ

12851

担当者名 / Instructor 長谷川 豪志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 8

12852

担当者名 / Instructor 梶田 佳津子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 9

12853

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 10

12854

担当者名 / Instructor 長谷川 豪志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 11

12858

担当者名 / Instructor 梶田 佳津子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 12

12859

担当者名 / Instructor 藤田 太郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを用
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 13

12860

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 14

12861

担当者名 / Instructor 中原 英博

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 15

12862

担当者名 / Instructor 藤田 太朗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 16

12863

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 17

12869

担当者名 / Instructor 中原 英博

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを用
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 18

12870

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを用
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 19

12873

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 20

12874

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 21

12877

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method
成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 23

12878

担当者名 / Instructor 平野 嘉彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 22

12879

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 24

12880

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method
成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 25

12881

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ いた動作の記述、記録、観察、評価	VTRなどを用
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method
成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 26

12882

担当者名 / Instructor 平野 嘉彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
2~4	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5~10	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
11~15	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method
成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 1

15099

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 2

15100

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 3

15105

担当者名 / Instructor 山下 高行

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 4

15106

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 5

15112

担当者名 / Instructor 川口 晋一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 6

15113

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 7

15114

担当者名 / Instructor 長谷川 豪志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 8

15115

担当者名 / Instructor 砂連尾 理

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 9

15116

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 10

15117

担当者名 / Instructor 長谷川 豪志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 11

15128

担当者名 / Instructor 砂連尾 理

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 12

15129

担当者名 / Instructor 藤田 太朗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 13

15130

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 14

15132

担当者名 / Instructor 中原 英博

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 15

15133

担当者名 / Instructor 藤田 太朗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 16

15134

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 17

15139

担当者名 / Instructor 中原 英博

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 18

15140

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 19

15142

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 20

15143

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 21

15149

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 22

15150

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 23

15151

担当者名 / Instructor 平野 嘉彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 24

15153

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 25

15154

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 26

15155

担当者名 / Instructor 平野 嘉彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～4	導入: グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
5～10	展開: ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画－実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
11～15	まとめ: ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定するものはないが、必要に応じてその都度プリント等配布する。

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。
また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

イタリアの言語とコミュニケーション応用I LA § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用I) LA § 1.1456
講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用I) GA

担当者名 / Instructor UGO DESSI

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	名詞(単数)	presentarsi
	動詞・直接法現在(規則・不規則)不定冠詞・定冠詞(単数)	nazionalità/mestieri
	丁寧語・普通語	formale/informale
	「esserci」(～がある・いる)	proposta (fare e accettare)
	名詞(複数)・定冠詞(複数)	ordinare I
	好み	mi piace/mi piacciono
	肯定・否定・疑問	affermazione/negazione/domanda
	数字	contare
	時間	orario
	「da-a」(から～まで)	fare una prenotazione
	「fare+N」(名詞+する)	chiedere informazioni
	日付	data
	まとめ	sommario
	筆記試験	test
	疑問詞・副詞・定冠前置詞	come raggiungere un luogo
	人称代名詞(目的語)・補助動詞・不定代名詞・不定形容詞	fare una richiesta
	過去分詞・近過去(自動詞・他動詞)	raccontare
	最上級	fare un invito
	非人称動詞	dare una notizia
	代名詞	consigliare
	所有形	farsi consigliare
	「ne」(代名詞)	ordinare II
	再帰動詞・比較級	come passi la giornata
	比較級	confrontare
	「gerundio」	azioni in corso di svolgimento
	半過去	descrivere
	半過去	durata
	まとめ	sommario
	筆記試験	test

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
伊和辞典が必要		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

プリントを配布する

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

イタリアの言語とコミュニケーション応用I LB § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用I) LB § 1.4458
講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用I) GB

担当者名 / Instructor CORONA FRANCO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

The purpose of this course, mainly based on conversation, is to supply the linguistic instruments to discover some aspects of Italian culture and way of life. During the course various subjects will be discussed with the support of newspaper articles, extracts from Italian authors and material supplied by teacher depending on the students' proficiency in Italian and for the purpose of developing it.

到達目標 / Attainment Objectives

正しいイタリア語の発音と多数の新しい言葉を覚えるために、イタリア人講師の会話を聞く、そしてそれを真似することが重要であるので、出来るだけ出席することが求められます。さらに、授業を復習することが評価されるので、注意してください。

* イタリア語を今までまったく学習したことがない学生向けの授業ではありませんので注意してください。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

Attendance and participation will be considered very important.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

Photocopies will be supplied by teacher.

参考書 / Reference Books

Italian-Japanese and Japanese-Italian dictionary is required.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

イタリアの言語とコミュニケーション応用II LA § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用II) LA § .12616
講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用II) GA

担当者名 / Instructor CORONA FRANCO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

The purpose of this course, mainly based on conversation, is to supply the linguistic instruments to discover some aspects of Italian culture and way of life. During the course various subjects will be discussed with the support of newspaper articles, extracts from Italian authors and material supplied by teacher depending on the students' proficiency in Italian and for the purpose of developing it.

到達目標 / Attainment Objectives

正しいイタリア語の発音と多数の新しい言葉を覚えるために、イタリア人講師の会話を聞く、そしてそれを真似することが重要であるので、出来るだけ出席することが求められます。さらに、授業を復習することが評価されるので、注意してください。

* イタリア語を今までまったく学習したことがない学生向けの授業ではありませんので注意してください。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

日常点・その他 100 %

Attendance and participation will be considered very important.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

Photocopies will be supplied by teacher.

参考書 / Reference Books

Italian-Japanese and Japanese-Italian dictionary is required.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

イタリアの言語とコミュニケーション・基礎 LA § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・基礎) LA § 1.4383
講義(イタリアの言語とコミュニケーション・基礎) GA

担当者名 / Instructor MAJERU ANTONIO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

イタリア語の日常会話の基礎を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

日常会話の練習を通して、イタリア語の文法やイタリア文化などの基礎を習得します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

文学部の学生で初修外国語のイタリア語(基礎、展開、表現、応用)を受講している学生は、この授業を受講しないようにして下さい。出来るだけ出席することが求められる。さらに、授業を復習することが評価されるので、注意してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	自己紹介・挨拶	
	紹介する・自分に関して話す・ご馳走する	
	情報を聞く・感謝する	
	許可を求める	
	好みに関して話す	
	提案する・注文する	
	意見を聞く・リクエストする	
	道を尋ねる・案内する	
	お願いする・疑いを表現する	
	買い物をする	
	物を比較する	
	旅行を語る	
	招待する	
	招待を受け入れる	
	説得する	
	時間を言う	
	アドバイスする	
	自分の習慣に関して話す	
	意見や希望などを表現する	
	ホテルを予約する	
	旅行を計画する	
	物の値段を訪ねる	
	約束をする・待ち合わせを決める	
	義務を表現する	
	電車の切符を買う	
	スケジュールを教える	
	自分の一日を語る	
	復習	
	復習	
	口答試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
出席率、授業への参加度、期末テストの結果による評価		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

教室で指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

イタリアの言語とコミュニケーション・基礎 LB § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・基礎) LB § 1.14492
講義(イタリアの言語とコミュニケーション・基礎) GB

担当者名 / Instructor MAJERU ANTONIO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

イタリア語の日常会話の基礎を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

日常会話の練習を通して、イタリア語の文法やイタリア文化などの基礎を習得します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

文学部の学生で初修外国語のイタリア語(基礎、展開、表現、応用)を受講している学生は、この授業を受講しないようにして下さい。
正しいイタリア語の発音と多数の新しい言葉を覚えるために、イタリア人講師の会話を聞く、そしてそれを真似することが重要であるので、出来るだけ出席することが求められる。さらに、授業を復習することが評価されるので、注意して下さい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	自己紹介・挨拶	
	紹介する・自分に関して話す・ご馳走する	
	情報を聞く・感謝する	
	許可を求める	
	好みに関して話す	
	提案する・注文する	
	意見を聞く・リクエストする	
	道を尋ねる・案内する	
	お願いする・疑いを表現する	
	買い物をする	
	物を比較する	
	旅行を語る	
	招待する	
	招待を受け入れる	
	説得する	
	時間を言う	
	アドバイスする	
	自分の習慣に関して話す	
	意見や希望などを表現する	
	ホテルを予約する	
	旅行を計画する	
	物の値段を訪ねる	
	約束をする・待ち合わせを決める	
	義務を表現する	
	電車の切符を買う	
	スケジュールを教える	
	自分の一日を語る	
	復習	
	復習	
	口答試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

出席率、授業への参加度、期末テストの結果による評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

イタリアの言語と文化・基礎 LA § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語と文化・基礎) LA § 特殊講義(イタリアの言語と文化・基礎) GA

担当者名 / Instructor 遠藤 礼子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

- イタリア語の基礎を学ぶクラスです。授業はグループでのゲームや口頭演習を通して、語彙・語形・文型を身に付けて行きます。
- ・イタリア語を全く・ほとんど学習したことのない人向けのクラスです。
 - ・文学部のイタリア語・基礎を履修したことのある人、している人は対象外です。
 - ・忘れることや間違えることを恐れず、積極的に参加できる人の参加を希望します。
 - ・やれば出来ることしかないので、やる前から「出来な～い」「分からな～い」等と言わないで、やってみてください。

到達目標 / Attainment Objectives

簡単なイタリア語を聞き読み話し書けるようになることを目標とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	出席、参加態度、日常の提出物を総合的に評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
イタリア語ひとさら (改訂版)	遠藤礼子, 三宅剛 / 白水社 / 4-560-01762-X /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典	/ 小学館 / 40-9506-121-9 /
伊和中辞典	/ 小学館 / 40-9515-402-0 /
和伊中辞典	/ 小学館 / 40-9515-451-9 /

辞書は、持ち歩くには、ポケットプログレッシブ、しっかり調べるには『伊和中辞典』。お金のない人は、ポケットプログレッシブだけ買って、あとは図書館で調べるという手もある。和伊中は、作文をがしがしやりたい人には必須だが、普通の人は、必要なときに図書館で利用すれば充分だろう。

電子辞書はカシオとセイコーから色々出ているが、動詞変化表が入っていないものは避けた方がよい。
このクラスだけをとれば、辞書はなくても参加できるが、ポケットプログレッシブくらいは買っておきたいところ。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

イタリアの言語と文化・基礎 LB § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語と文化・基礎) LB § 特殊講義(イタリアの言語と文化・基礎) GB

担当者名 / Instructor MAJERU ANTONIO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

イタリア語の文法基礎を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

授業で習うイタリア語文法基礎を日常会話に応用しながら、イタリア文化と日本文化の相違に関して、議論する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

文学部の学生で初修外国語のイタリア語(基礎、展開、表現、応用)を受講している学生は、この授業を受講しないようにして下さい。出来るだけ出席することが求められる。さらに、授業を復習することが評価されるので、注意してください。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

授業中に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
出席率、授業への参加度、期末テストの結果による評価		

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に指示する。

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

授業中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

イタリアの言語と文化・入門 LA § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語と文化・入門) LA § 特殊講義(イタリアの言語と文化・入門) GA

担当者名 / Instructor RUGGERI ANNA

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

イタリアの文化を理解するためには、キリスト教を知る必要がある。なぜなら、国の宗教として国民の考え方、習慣と伝統の中に生きており、そして町の建築や美術の作品の中にも多く見られるからである。この授業の目的はキリスト教の根源からこの宗教の発展と変化、そしてそのイタリア文化との関連を分析・紹介することである。

イタリアの歴史におけるローマカトリック教会の役割は非常に重要であったので、それについて考察して、イタリアの文学におけるその影響を紹介する。そのなかでダンテの『神曲』を中心として説明し、アッシジの聖フランチェスコや聖ベネディクトのようなイタリアの宗教者とそれらの思想および著作についても論じる。

さらに、この授業では様々なイタリアの芸術の作品を分析しながら、キリスト教の根本概念やイエス・キリストの生涯、旧約と新約聖書の主要なエピソードを紹介する。そして、多くの作品に含まれているイコノグラフィを明らかにし、その意味を説明する。レオナルド・ダ・ヴィンチやミケランジェロのような有名なイタリアの芸術家も紹介する。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義は、イタリア文化におけるキリスト教を中心に、全体的にイタリアの文化を見せることだけでなく、キリスト教にかかわるイタリアの美術と文学、様々な習慣と祭りを紹介することもこの授業の目標である。とくに、旧約と新約聖書に基づいている教会のフレスコや絵などを理解することが望まれているので、授業中多くの資料を見せながら、詳細な説明と解釈を行う。さらに、ほぼ毎回視聴覚教材を利用することになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

イタリアの文化と比較文化学に対して興味を持つ学生が望ましい。しかし、この授業は「イタリアの言語と文化・基礎」「イタリアの言語とコミュニケーション・基礎」を受講している学生のための入門講義である。従って、受講者は上記の科目を受講していることが好ましい。この授業は将来イタリアの文化を研究する者に役立つような情報、知識を与えることを目的としている。

観光情動的なものを期待している人にはやや難しいかもしれないので、注意して下さい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	授業の紹介
第2回	イタリアの文化とキリスト教の関係について	カトリックの秘跡、イタリアの祭り
第3回	イタリアの芸術におけるキリスト教1:旧約聖書	旧約聖書、創世記
第4回	イタリアの芸術家1:ミケランジェロ	ミケランジェロ、システーナ礼拝堂
第5回	イタリアの芸術におけるキリスト教2:新約聖書(聖母マリア)	新約聖書、聖母マリア
第6回	イタリアの芸術におけるキリスト教3:新約聖書(イエスの生涯1)	新約聖書、イエス・キリスト
第7回	イタリアの芸術におけるキリスト教4:新約聖書(イエスの生涯2)	新約聖書、イエス・キリスト
第8回	イタリアの芸術家2:レオナルド・ダ・ヴィンチ	レオナルド・ダ・ヴィンチ、最後の晩餐
第9回	イタリアの芸術におけるキリスト教5:聖人	聖人、カレンダー、殉教者
第10回	イタリアの芸術におけるキリスト教6:天使と悪魔	大天使、天使、悪魔
第11回	イタリアの文学におけるキリスト教1:ダンテの『神曲』	ダンテ、『神曲』
第12回	イタリアの文学におけるキリスト教2:アッシジの聖フランチェスコの『被造物の讃歌』	アッシジの聖フランチェスコ、『被造物の讃歌』
第13回	イタリアの芸術家3:ジョット	ジョット、アッシジの聖堂壁画
第14回	フィールド・ワーク:教会のミサに参加する	ミサ
第15回	レポートの提出とその発表	レポート、発表

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

毎回配布された資料を学習することが必要

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	最後の授業においてレポートの発表も行う
最終講義日試験	10 %	場合によって、様々な感想文を書くことになる
日常点・その他	30 %	できるだけ出席することが望ましい

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

授業内において配布するプリント等。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『イメージを読む』	若桑 みどり / 筑摩書房 / 4-480-08907-1 /
『レオナルド・ダ・ヴィンチ』	田中英道 / 講談社 / 4-06-159013-8 /
『アッジのフランチェスコ』	キアラ・フルゴーニ / 白水社 / 4-560-02602-5 /

教室でそのつど参考書を指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

第1回授業の前に、総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

イタリアの言語と文化・入門 LB § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語と文化・入門) LB § 特殊講義(イタリアの言語と文化・入門) GB

担当者名 / Instructor 松田 博

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

ルネサンス以降の文化史的背景、自治都市の形成と都市文化、近現代の文化芸術の特徴と日本への影響、生活文化の意義などを各論的テーマとしてとりあげ、イタリア文化への理解と関心を深め、各自の問題意識を養成する。

到達目標 / Attainment Objectives

イタリア文化の歴史的特質およびその現代的意義の基礎について考え、さらに日本への影響についての基本的理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

イタリア文化史、社会史などの歴史系の基礎的科目。イタリア語初級程度の基礎知識のある受講生が望ましい。イタリア語の講座ではないが、イタリア語のレジュメ資料も使用する予定。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス シラバス説明 参考文献紹介 評価方法など についての質疑	Introduzione
第2～5回	ルネサンス文化、都市文化、景観と自治、生活様式、近代文化の母胎	Cultura, Rinascimento, Citta', Paesaggio, Modernismo
第6～8回	映像文化(ネオリアリズムの文化的・思想的背景と特質)	Cultura del Neorealismo
第9回	中間まとめ 小論文課題、質疑と討論	
第10～12回	映像のなかのイタリア文化・社会	Cultura e Societa' d'Italia nella Cinama italiana
第13～14回	現代イタリア文化論(A.Gramsci, U.Eco ecc)	Cultura d'Italia contemporanea
第15回	まとめ 質疑応答 期末レポート注意事項	Conclusione

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

紹介する参考文献の自主的学習、イタリア映画の鑑賞、イタリア関係の美術展、フェアなどの実際の研修を薦めたい。また休暇中にスタディツアーなどへの参加も学生時代にしかできない生きた学習・研究の機会となるので薦めたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	文章表現能力、問題意識などを評価
日常点・その他	30 %	小論文等を評価

小論文などの文章表現能力の向上への自覚的努力を期待したい。授業外学習で述べた各種イベントに関してはイタリア文化会館や京都イタリア会館、日伊協会のHP参照。須賀敦子の作品(とくに「トリエステの坂道」「ミラノ 霧の風景」新潮文庫)や塩野七生、若桑みどりの著作を薦めます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業外学習で述べたことを重視して欲しい。実地体験(フィールドワーク)の面白さを味わって欲しい。イタリアの有名な諺に「枇杷の実が熟するには、時間と薫が必要」というのがあります。関心あるテーマを見つけること、そのテーマをじっくり掘り下げること、それを文章に表現すること、つまり問題意識の形成、探究心、文章表現能力の向上を自覚的に追究することを期待します。「未来というワケのわからぬ存在を 私の形に切り抜いていく」(現代学生百人一首)。「ばさばさに乾いてゆく心を ひとのせいにはするな みずから水やりを怠っておいて……自分の感受性くらい自分で守れ」(茨木のり子詩集)。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。必要に応じて資料レジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
イタリアを知るための55章	共著 / 明石書店 / イタリアの歴史、文化の入門書
世界の君主制	共著 / 大月書店 / イタリア君主制の終焉と共和制など
イタリア入門	共著 / 三省堂 / レジスタンス史の概要など
アソシエーション革命へ	共編著 / 社会評論社 / イタリア・アソシエーションの歴史など

テーマに応じて参考文献を適時紹介する。イタリア史概説書、入門書の近現代の章は通読しておくこと。イタリア映画の名作鑑賞を薦めます。「Life is beautiful」「山猫」「道」「ニューシネマパラダイス」等

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

イタリアの都市や美術館、歴史博物館のサイト(英文もある)にアクセスして欲しい。

その他 / Others

講義内容に対する質問,意見を歓迎します。

担当者名 / Instructor 遠藤 礼子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

さまざまなイタリア語の文章を読んで、訳や作文を行います。

・「イタリア語・基礎」や「イタリアの言語と文化・基礎」と同等の知識のある人向けのクラスです。

・イタリア語の文法を全く知らない人は対象外です。

・具体的には「イタリア語・基礎」等の単位のあるなしにかかわらず、下記程度のイタリア語の意味が、辞書を引かなくても分かる人は参加資格があります。

Dove vai? - Vado a scuola.

Ho mangiato una pizza ieri.

Posso prendere questo? - Sì.

Che cosa facevi adesso? - Guardavo la tv.

・忘れることや間違えることを恐れず、積極的に参加できる人の参加を希望します。

・やれば出来ることしかしないので、やる前から「出来な～い」「分からな～い」等と言わないで、やってみてください。

到達目標 / Attainment Objectives

簡単なイタリア語の読解力と、その応用を身につけることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	出席, 参加態度, 日常の提出物を総合的に評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典	/ 小学館 / 40-9506-121-9 /
伊和中辞典	/ 小学館 / 40-9515-402-0 /
和伊中辞典	/ 小学館 / 40-9515-451-9 /
電子辞書 XD-H7400, XD-L7450	/ カシオ / /

辞書は、持ち歩くには、ポケットプログレッシブ、しっかり調べるには『伊和中辞典』。お金のない人は、ポケットプログレッシブだけ買って、あとは図書館で調べるという手もある。和伊中は、作文をがしがしやりたい人には必須だが、普通の人は、必要なときに図書館で利用すれば充分だろう。

電子辞書はカシオとセイコーから色々出ているが、動詞変化表が入っていないものは避けた方がよい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 遠藤 礼子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Outline

映画「輝ける青春」に沿って、フィレンツェの洪水、学生運動、「赤い旅団」といった、イタリアの20世紀後半の事件や、生活についての文献を読む。具体的に何を読むかは参加者で協議して決めます。

・予習は不可欠です。

・「イタリア語・基礎」や「イタリアの言語と文化・基礎」と同等の知識のある人向けのクラスです。

・イタリア語の文法を全く知らない人は対象外です。

・具体的には「イタリア語・基礎」等の単位のあるなしにかかわらず、下記程度のイタリア語の意味が、辞書を引かなくても分かる人は参加資格があります。

Dove vai? - Vado a scuola.

Ho mangiato una pizza ieri.

Posso prendere questo? - Sì.

Che cosa facevi adesso? - Guardavo la tv.

・忘れることや間違えることを恐れず、積極的に参加できる人の参加を希望します。

到達目標 / Attainment Objectives

イタリア語の長文読解のスキルを身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	出席, 参加態度, 日常の提出物を総合的に評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典	/ 小学館 / 40-9506-121-9 /
伊和中辞典	/ 小学館 / 40-9515-402-0 /
和伊中辞典	/ 小学館 / 40-9515-451-9 /
電子辞書 XD-H7400, XD-L7450	/ カシオ / /

辞書は、持ち歩くには、ポケットプログレッシブ、しっかり調べるには『伊和中辞典』。お金のない人は、ポケットプログレッシブだけ買って、あとは図書館で調べるという手もある。和伊中は、作文をがしがしやりたい人には必須だが、普通の人には、必要なときに図書館で利用すれば充分だろう。

電子辞書はカシオとセイコーから色々出ているが、動詞変化表が入っていないものは避けた方がよい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.kagayakeru.net/index.html>

「輝ける青春」公式Webサイト

その他 / Others

人文科学総合講座特殊講義ⅠLD § 特殊講義(基礎)ⅠTA § 特殊講義(総合)GA § 特殊講義(基礎)ⅠC § ヴィジョン形成...16409
 特殊講義(日本文化の源流を求めて・京都学の創成)GA

担当者名 / Instructor 秋田 典昭、永井 芳和、杉橋 隆夫、佐古 愛己

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、読売新聞社の協力を得て、過去2年間実施してきたリレー講義「現代社会と宗教」を継承・展開する試みである。すなわち同講義は、2005年度「日本編」、2006年度「世界編」として、それぞれ著名な宗教者を中心とする講師陣を配し、「宗教」への理解を深め、その現代的役割の考究を通じて、みずからの心を省察した。本年度は、この成果と潮流をいったん京都を核として収斂・深化させると同時に、寺社をめぐる文化的諸要素に視野を拡大することによって、逆に宗教に対する評価を客観化し、その多面的機能を再発掘しようとする。そしてこれらを含む概念は「京都学」である。当然のことながら、この場合の「京都学」とは、たんなる地域学ではない。今日の日本文化の源流を探り、広く世界に接するための学問なのである。

到達目標 / Attainment Objectives

宗教が持つ多機能性と文化的営みを理解し、宗教に対する客観的認識を深める。また、「京都学」が目指すところとその意義を精確に認識する。できれば、「京都学」の創成にみずから参加する意欲と具体的手段を見出したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

激動の現今、幅広く宗教への関心を持つことは極めて重要な意味を持つ。他の宗教関係科目の履修は有意義だし、京都学関係では、京都歴史回廊協議会の活動に関心を向け、文学部の関連授業、たとえば現代GP(京都歴史回廊プログラム)科目の並行履修も大いに推奨したい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講師: 杉橋 隆夫	導入講義-前期講義の狙いと京都学-
2	講師: 有馬 頼底	金閣、銀閣と禅の思想
3	講師: 千 玄室	茶道ともてなしの文化
4	講師: 小林 隆彰	日本宗教の源流
5	講師: 桜井 徳太郎	民間信仰と日本人の生活
6	講師: 池坊 由紀	日本の花鳥風月
7	講師: 梅原 猛	世阿弥について
8	講師: 神坂 次郎	熊野信仰と日本人の旅の心
9	講師: 茂山 千五郎	日本人の間とユーモア
10	講師: 広瀬 浩二郎	大本教からエスペラントまでの道
11	講師: 竹本 住大夫	文楽の心を語る
12	講師: 高良 倉吉	沖縄における宗教の役割
13	講師: 田中 安比呂	神道と日本の伝統行事
14	講師: 佐古 愛己	平安貴族の社会-COEの研究の一端-
15	講師: 秋田 典昭	前期のまとめと最終講義日試験

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

宗教、京都の歴史と文化への関心を常に暖めながら、見聞を深めたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	50 %	
日常点・その他	50 %	出席・質問用紙の提出状況等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定のものは使用しない。資料等は必要に応じて配付する。

参考書 / Reference Books

各講師の著作等を事前に一読しておきたい。また、『いま、宗教を問う!、現代社会と宗教』『宗教者に聞く! 日本編上・下 現代社会と宗教』(いずれも法蔵館)は、前述、本講座の前身企画の記録・成果であって、参考に資すべきところが多い。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

前後期ともに受講するのが望ましい。

人文科学総合講座特殊講義I LE § 特殊講義(基礎)II TA § 特殊講義(総合) GB § 特殊講義(基礎)2 C § ヴィジョン形¹⁶⁴¹⁴
 殊講義(日本文化の源流を求めて・京都学の創成) GB

担当者名 / Instructor 秋田 典昭, 永井 芳和, 杉橋 隆夫, 佐古 愛己

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、読売新聞社の協力を得て、過去2年間実施してきたリレー講義「現代社会と宗教」を継承・展開する試みである。すなわち同講義は、2005年度「日本編」、2006年度「世界編」として、それぞれ著名な宗教者を中心とする講師陣を配し、「宗教」への理解を深め、その現代的役割の考究を通じて、みずからの心を省察した。本年度は、この成果と潮流をいったん京都を核として収斂・深化させると同時に、寺社をめぐる文化的諸要素に視野を拡大することによって、逆に宗教に対する評価を客観化し、その多面的機能を再発掘しようと企図する。そしてこれらを含む概念は「京都学」である。当然のことながら、この場合の「京都学」とは、たんなる地域学ではない。今日の日本文化の源流を探り、広く世界に接するための学問なのである。

到達目標 / Attainment Objectives

宗教が持つ多機能性と文化的営みを理解し、宗教に対する客観的認識を深める。また、「京都学」が目指すところとその意義を精確に認識する。できれば、「京都学」の創成にみずから参加する意欲と具体的手段を見出したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

激動の現今、幅広く宗教への関心を持つことは極めて重要な意味を持つ。他の宗教関係科目の履修は有意義だし、京都学関係では、京都歴史回廊協議会の活動に関心に向け、文学部の関連授業、たとえば現代GP(京都歴史回廊プログラム)科目の並行履修も大いに推奨したい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講師: 杉橋 隆夫	導入講義-後期講義の狙いと京都学-
2	講師: 大平 光代	私にとって宗教とは
3	講師: 米田 雄介	シルクロードと日本文化の国際化
4	講師: 高村 薫	文学は宗教をどう描いたか
5	講師: 上田 正昭	日本の森と神道
6	講師: 金春 康之	動と静の文化の成立
7	講師: 熊倉 功夫	日本の食文化と精進料理
8	講師: 川村 邦光	地獄めぐりの心
9	講師: 立川 武蔵	マンガラの世界から広がるもの
10	講師: 玄侑 宗久	般若心経の心と日本人の宇宙観
11	講師: 冷泉 貴実子	日本の心、歌の心
12	講師: 中牧 弘允	企業社会と宗教
13	講師: 川勝 平太	日本文化の成り立ちとその特徴
14	講師: 佐古 愛己	平安貴族の祭祀-COE研究の一端-
15	講師: 秋田 典昭	後期のまとめと最終講義日試験

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

宗教、京都の歴史と文化への関心を常に暖めながら、見聞を深めたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	50 %	
日常点・その他	50 %	出席・質問用紙の提出状況等を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定のものは使用しない。資料等は必要に応じて配付する。

参考書 / Reference Books

各講師の著作等を事前に一読しておきたい。また、『いま、宗教を問う!、現代社会と宗教』『宗教者に聞く! 日本編上・下 現代社会と宗教』(いずれも法蔵館)は、前述、本講座の前身企画の記録・成果であって、参考に資すべきところが多い。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

前後期ともに受講するのが望ましい。

数学入門 S

20370

担当者名 / Instructor 小原 豊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本授業は、数学を必ずしも得意としない受講者を対象に、そのリメディアル教育の一環として、数学的な内容・方法を講ずるものである。教職を志す受講者に向けての内容が中心となるが、そうではない受講者の数学的リテラシーの向上も視野に入れている。時間数の制約から、内容知すなわち知識・技能よりも、方法知すなわち数学を探究し構成する手法に焦点を当てた上で、高等学校以前に学んだ数学の幾つかの重要なトピックを振り返る。

到達目標 / Attainment Objectives

数学的リテラシーの基礎を身につけ、高等学校以前に学んだ数学的内容を振り返り、再構成できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前履修が必要な科目はありません。日頃から、物事を数学的に考える習慣をつけていきましょう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	教職を目指す上での数学的教養
第2回	問題解決のストラテジー	作図, 発見法, 特殊化・一般化
第3回	数学的推論と命題操作 1	否定, 合接・離接, 含意, 逆・裏・対偶
第4回	数学的推論と命題操作 2	反証, 帰納・演繹・類比, 仮説推論(abduction)
第5回	様々な証明法	背理法, 数学的帰納法, 鳩ノ巣原理
第6回	"公式"とは何か	定式化, 連立方程式, 行列と行列式
第7回	図形の性質と構成 1	定義・公理・公準・定理, 次元, 敷き詰め
第8回	図形の性質と構成 2	空間, 計量, 正多面体定理
第9回	極限と無限 1	数列の極限, 無限級数, 収束の判定, ϵ - N 論法
第10回	極限と無限 2	関数の極限, 連続性, ϵ - δ 論法
第11回	折紙の数理 1	作図, 平行・対称・回転移動, 正多角形の構成
第12回	折紙の数理 2	可逆性, 二次曲線・正多面体の構成
第13回	統計解析の初歩 1	資料の整理, 統計量の算出, 相関
第14回	統計解析の初歩 2	統計的仮説, 検定と推定
第15回	授業の総括	授業内容の総合的確認

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

本授業では、高等学校までに学んできた数学的知識を必要とする事例が多くあります。授業でも基礎から解説しますが、教科書等を用いて必要に応じて自主的に復習することを勧めます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	授業の理解度をみるために、数回のレポートを課す。
日常点・その他	60 %	出席を重視する。また平常点(学習・発表態度, 質問内容, 討論参加等)も加算する。

特別な事情がない限り、開講回数 $2/3$ 以上を出席することを単位認定の基本条件とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業は、教育実践と切り離された数学的教養を身につけるのではなく、各トピックを通じて適切な教材選択や授業展開を支える基礎としての数学を学び直していきます。数学に王道無し。楽な近道はありませんが、主体的に学ぶことで必ず数学的リテラシーが身につきます。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。必要に応じて授業時に参考資料を適宜配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
教育系のための数学概説	吾妻一興, 武本英夫, 長宗雄, 松本紘司 / 培風館 / 4-563-00223-2 / 教育系の学生が数学に親しめる
いかにして問題をとくか	G. ポリア / 丸善 / 4-621-04593-8 / 未知の問題にアプローチする上での古典的名著
世界は数理でできている	L. A. スティーン / 丸善 / 4-621-04742-6 / 次元, 量, 不確実性, 形, 変化という着想から数学を省みる

その他, 参考となる資料は随時紹介し, 必要に応じて抜粋を配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

数学のリメディアル学習につながるsiteを授業時に随時紹介していきます。

その他 / Others

授業において不明な点、疑問に感じた点を大切に、まずは自らその解消に努めて下さい。またPCを利用した授業を行う場合もあります。

政策科学特殊講義 PA § 法政特殊講義 JI § 人文科学総合講座特殊講義 I LQ § 特殊講義(各部門共通) I RD § 専門特.16557
義 SP

担当者名 / Instructor 佐藤 満

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、読売新聞の援助により各府県知事のタイトな日程を調整して頂いた上でお迎えし、それぞれの政策的課題などを自由に語ってもらうというものである。各府県の置かれた状況も、知事個人が抱える政治的事情もそれぞれまちまちであるので、個別政策や個人の政治戦略のレベルでは統一された話にはならない。ただ、分権改革以降、地方自治体のできる事が少しは増えてきており、とりわけ、知事ができることは多い。それぞれの知事の政策や戦略はそうした全国的な政治動向の影響を受けており、中央地方関係の変動をレンズにして日本政治を見ていくという視点に立てば、この講義の一貫したテーマを発見できるだろう。

講義では、まずコーディネータ側から知事の簡単な紹介をしたのち、それぞれの知事に自由に語って頂く。少し時間を余らせて頂くようお願いしているため、質問の時間を設ける。積極的に鋭い質問をぶつけてほしい。

滑り出しの数は難しいが、あらかじめ学生諸君から各知事にどのような話を伺いたいのかなどがあれば、毎回の小レポートに記載してもらうことを考えている。これを一定集約した上で、各府県の知事部局担当者に伝えることで、単なる連続講演会ではなく、一貫した講義としてのテーマ追求も行っていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

日本の地方自治と政府間関係(中央政府と地方政府の関係)について総合的に理解を深めることが目標である。知事の講演を受動的に聞いて満足することなく、自分で問いを立てて知事と擬似的に対話するぐらいのつもりで授業に望んでほしい。

あるいは、U・J・ターンを考えている学生にとっては、それぞれの地域の政治行政のリーダーを見極めるチャンスでもある。講義は一貫したものとして運営するので、上述のテーマを理解することが第一の目標ではあるが、特に関心のある府県、特に関心のある知事について集中的に受講するという選択があっても良い。ただし、毎回出席しないと単位にはならないので、そのつもりで。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

政治学、行政学、行政法、地方自治、地方財政、地域政策、地域研究、地域経済など、なんらかの関わりのある科目と主体的に関連づけること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
04月10日	熱伝導県政改革	埼玉県 上田 清司 知事
04月17日	住み良き日本一の元気県づくり	山口県 二井 関成 知事
04月24日	分権化の時代	担当者による講義
05月01日	富県宮城の実現と道州制	宮城県 村井 嘉浩 知事
05月08日	休講	
05月15日	節目を迎える2008年 香川の地域資源について	香川県 真鍋 武紀 知事
05月22日		七尾街づくりセンター(株)元気なお仕事塾 塾長 内山 博史 さま
05月29日		慶應義塾大学教授(前鳥取県知事) 片山 善博 さま
06月05日	地域分権 - 文化力の時代	静岡文化芸術大学学長(国際日本文化研究センター 客員教授) 川勝 平太 さま
06月12日		
06月19日		福井県 西川一誠 知事
06月26日		鹿児島県 伊藤 祐一郎 知事
07月03日		和歌山県 仁坂 吉伸 知事
07月10日		長野県 村井 仁 知事
07月17日		愛媛県 加戸 守行 知事

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

各自の関心にそくして、地方自治・地方行財政・地域政策などにかかわる書籍、論文、資料、新聞記事、各都道府県のウェブサイトなどに目を通しておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	記述問題と論述問題
日常点・その他	40 %	毎週の出席と授業後に提出する小レポート

毎週小レポートの提出を義務づける。毎週採点し日常点評価をする。小レポートは翌週月曜日の午後5時までに大学教育開発・支援センター(衣笠中川会館2階)に提出すること。BKCと他大学学生はFAXで送信すること。FAX:075-465-8318。この小レポートについては、その日

の講義の感想とともに、その知事は現代日本の政治・行財政の課題にどのように応えているか、応えようとしているかについての評価を与えるところまで書ければよい。評価をするにはかなりの知識と力量が必要なので、自信がなければ丁寧な論評を目指すところとしてくれればよい。

レポートとは別に、3週先の知事講義についてどのような話を期待するか、何を聞きたいかについて特にあれば知事講義関連のウェブページから用紙をダウンロードして書いてもらいたい。これについては、特にあれば、ということなので、無理に書かねばならないというものではない。この部分は採点の対象とはしないので、本当に聞きたいことがあるときだけ書いてほしい。TAに付く院生たちがこれをまとめて各府県知事にあらかじめ送ることとする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

忙しい公務の時間を割いて来て頂く講師に対する最低限の儀礼として、遅刻・早退はしない。やむを得ざる事情で、そうしたことになった場合は、目立たぬように後部の出入口より静かに入退出すること。また、当然であるが、講義中は脱帽。また、言わずもがなであろうが、私語・飲食厳禁である。

知事の講演は毎回独立したものとして語られるので、受動的に知事の話の聞いているだけではこの講義の獲得目標を達成することは難しい。受講生自身が地方政治、地方行財政をめぐる自分の関心にそくして問いかけながら知事の講演を聞くことが重要である。講義なのだから、時間外学習が求められることは当然で、毎回提出する小レポートにも、単なる感想文を越えて、そうした時間外学習の成果としての分析的コメントが見られることを期待している。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しないが、一般には地方政治、地方行財政をめぐる書籍を読んでおきたい。参考書の中にそうしたものを数点掲げておく。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『地方が変わる、日本を変える 全国知事リレー講座』(全7巻)	読売新聞社編 / ぎょうせい / ISBN4-324-0693* / 第一期知事講義(2002~3年)の成果
テキストブック地方自治	村松岐夫編 / 東洋経済新報社 / ISBN4-492-21159-4 / 地方自治の基本的教科書
知事が日本を変える	浅野史郎・橋本大二郎・北川正恭 / 文春新書 / ISBN4-16-660238-1 / 改革派知事と呼ばれた方々のもの
分権推進と自治の展望	田村悦一・水口憲人・見上崇洋・佐藤満 / 日本評論社 / ISBN4-535-51434-8 / 政策科学研究科分権リサーチプロジェクトの成果

各知事が講義の前に示された参考文献などがあれば、以下に掲げるこの講義のためのウェブページに掲載していくこととする。その他、各府県の公式サイトへのリンクや、あらかじめ諸君の質問をまとめて各知事に送った「学生の聞きたいこと」など、聴講するに当たって参考になる情報もそちらで開示していくことになる。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

この講義のためのウェブページが作られている。
<http://www.ritsumeai.ac.jp/acd/ac/kyomu/cer/chiji/index.htm>

その他 / Others

政策科学特殊講義 PB § 法政特殊講義 JK § 人文科学総合講座特殊講義 LR § 特殊講義(各部門共通) RJ § 専門特義 SQ

担当者名 / Instructor 藤井 禎介

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、読売新聞の援助により各府県知事のタイトな日程を調整して頂いた上でお迎えし、それぞれの政策的課題などを自由に語ってもらうものである。各府県の置かれた状況も、知事個人が抱える政治的事情もそれぞれまちまちであるので、個別政策や個人の政治戦略のレベルでは統一された話にはならない。ただ、分権改革以降、地方自治体のできる事が少しは増えてきており、とりわけ、知事ができることは多い。それぞれの知事の政策や戦略はそうした全国的な政治動向の影響を受けており、中央地方関係の変動をレンズにして日本政治を見ていくという視点に立てば、この講義の一貫したテーマを発見できるだろう。

講義では、まずコーディネータ側から知事の簡単な紹介をしたのち、それぞれの知事に自由に語って頂く。少し時間を余らせて頂くようお願いしている。質問の時間を設ける。積極的に鋭い質問をぶつけてほしい。

滑り出しの数は難しいが、あらかじめ学生諸君から各知事にどのような話を伺いたいかなどがあれば、毎回の小レポートに記載してもらうことを考えている。これを一定集約した上で、各府県の知事部局担当者に伝えることで、単なる連続講演会ではなく、一貫した講義としてのテーマ追求も行っていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

日本の地方自治と政府間関係(中央政府と地方政府の関係)について総合的に理解を深めることが目標である。知事の講演を受動的に聞いて満足することなく、自分で問いを立てて知事と擬似的に対話するぐらいのつもりで授業に望んでほしい。

あるいは、U・J・ターンを考えている学生にとっては、それぞれの地域の政治行政のリーダーを見極めるチャンスでもある。講義は一貫したものとして運営するので、上述のテーマを理解することが第一の目標ではあるが、特に関心のある府県、特に関心のある知事について集中的に受講するという選択があっても良い。ただし、毎回出席しないと単位にはなりにくいので、そのつもりで。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

政治学、行政学、行政法、地方自治、地方財政、地域政策、地域研究、地域経済など、なんらかの関わりのある科目と主体的に関連づけること。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
10月02日		宮崎県 東国原 英夫 知事
10月09日		熊本県 潮谷 義子 知事
10月16日		滋賀県 嘉田 由紀子 知事
10月23日		青森県 三村 申吾 知事
10月30日		奈良県 荒井 正吾 知事
11月06日		山梨県 横内 正明 知事
11月13日		大分県 広瀬 勝貞 知事
11月20日		石川県 谷本 正憲 知事
11月27日		福島県 佐藤 雄平 知事
12月04日		栃木県 福田 富一 知事
12月11日		未定
12月18日		島根県 溝口 善兵衛 知事
12月25日		富山県 石井 隆一 知事
01月08日		岐阜県 古田 肇 知事
01月15日		未定

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

各自の関心にそくして、地方自治・地方行政・地域政策などにかかわる書籍、論文、資料、新聞記事、各都道府県のウェブサイトなどに目を通しておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	
日常点・その他	40 %	毎週の出席と授業後に提出する小レポート

毎週小レポートの提出を義務づける。毎週採点し日常点評価をする。小レポートは翌週月曜日の午後5時までに大学教育開発・支援センター(衣笠中川会館2階)に提出すること。BKCと他大学学生はFAXで送信すること。FAX:075-465-8318。

この小レポートについては、その日の講義の感想とともに(これは必須)、3週先の知事講義について、どのような話を期待するか、何を聞きたいかについてに特にあれば書いてもらうこととする。これについては、特にあれば、ということなので、無理に書かねばならないというものではない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

忙しい公務の時間を割いて来て頂く講師に対する最低限の儀礼として、遅刻・早退はしない。やむを得ざる事情で、そうしたことになった場合は、目立たぬように後部の出入口より静かに入退出すること。また、当然であるが、講義中は脱帽。また、言わずもがなであろうが、私語・飲食厳禁である。

知事の講演は毎回独立したものとして語られるので、受動的に知事の話の聞いているだけではこの講義の獲得目標を達成することは難しい。受講生自身が地方政治、地方行財政をめぐる自分の関心にそくして問いかけながら知事の講演を聞くことが重要である。講義なのだから、時間学習が求められることは当然で、毎回提出する小レポートにも、単なる感想文を越えて、そうした時間外学習の成果としての分析的コメントが見られることを期待している。

教科書 / Textbooks

教科書は特にないが、一般には地方政治、地方行財政をめぐる書籍を読んでおきたい。参考書の中にそうしたものを数点掲げておく。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『地方が変わる、日本を変える 全国知事リレー講座』(全7巻)	読売新聞社編 / ぎょうせい / ISBN4-324-0693* / 第一期知事講義(2002~3年)の成果
テキストブック地方自治	村松岐夫編 / 東洋経済新報社 / ISBN4-492-21159-4 / 地方自治の基本的教科書
知事が日本を変える	浅野史郎・橋本大二郎・北川正恭 / 文春新書 / ISBN4-16-660238-1 / 改革派知事と呼ばれた方々のもの
分権推進と自治の展望	田村悦一・水口憲人・見上崇洋・佐藤満 / 日本評論社 / ISBN4-535-51434-8 / 政策科学研究科分権リサーチプロジェクトの成果

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(映像学) GB § ヴィジョン形成特殊講義(映像学) GB § 特殊講義(基礎)I(映像学) GB § 特殊講義(基礎)1 (B.16510学) GB § 特殊講義(映像学) GB

担当者名 / Instructor 宿南 達志郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

急激に進化する情報機器や伝送技術により、情報産業の市場が大きく拡大するとともに、情報産業相互間の融合や他の産業分野における情報技術の活用が進んでいる。このような現状を定量的に把握するとともに、技術のトレンドやニーズの変化を分析することによって、情報産業の将来を見通すための議論を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

情報産業の全体像を理解する。
更に、それぞれの分野別の産業構造や今後の融合の可能性についても理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	
第2回	コンピュータ産業1	コンピュータ発展の歴史
第3回	コンピュータ産業2	パソコンからウェアラブル・コンピュータ、電子タグ、電子ペーパーへの発展
第4回	通信産業1	通信産業の構造と主要企業
第5回	通信産業2	電話サービスの発展と限界
第6回	通信産業3	携帯電話サービスの歴史と将来
第7回	通信産業4	ブロードバンドサービスの歴史と将来
第8回	放送産業1	放送産業の構造と主要企業
第9回	放送産業2	公共放送の歴史と課題
第10回	放送産業3	民間放送の歴史と課題
第11回	放送産業4	放送の多様化とデジタル化
第12回	コンテンツ産業1	コンテンツ産業の構造と主要企業
第13回	コンテンツ産業2	コンテンツ産業の将来
第14回	まとめ	
第15回	(レポート提出で授業に代える)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

テレビ、新聞、雑誌等で情報産業の動向を常に把握すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
日常点・その他	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に定めない。
参考書籍、論文、記事等を授業時に提示する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア産業論	宿南 達志郎 他 / 有斐閣 / 9784641173117 / 2006年05月発行
「新」メディア進化論 インターネットに押されるテレビ	西 正 / 日経BP社 / 9784822208990 / 2006年12月発行
ネット時代10年後、新聞とテレビはこうなる	藤原 治 / 朝日新聞社 / 9784022502322 / 2007年02月発行
知財革命	荒井 寿光 / 角川書店 / 9784047100560 / 2006年09月発行

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(映像学) GC § 特殊講義(基礎)II(映像学) GC § 特殊講義(基礎)2(映像学) GC § 特殊講義(映像学) GC	16511
--	-------

担当者名 / Instructor 宿南 達志郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代は情報化社会と呼ばれているが、そのような社会の中で生活、経済、経営、政治、法律、犯罪などが大きく変化してきている。そのような変化について認識を深めるとともに、変化が起きる原因やマイナス面を最小化しプラス面を最大化する可能性を探る。情報化社会の進展に大きな影響を与えている政府の政策についても詳細に分析を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

情報化社会の光と陰について理解し、リスクを回避しながら利便性を最大限享受するための課題等について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「情報産業論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	
第2回	情報化社会とは?	
第3回	情報化社会と生活	
第4回	情報化社会と経済	
第5回	情報化社会と経営	
第6回	情報化社会と法律	
第7回	情報化社会と政治	
第8回	情報化社会と犯罪	
第9回	情報化政策1	
第10回	情報化政策2	
第11回	情報化政策3	
第12回	情報技術の進展	
第13回	海外各国における情報化1	
第14回	海外各国における情報化2	
第15回	(レポートにより授業に代える)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

テレビ、雑誌、新聞等で話題となっている 이슈をフォローすること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
日常点・その他	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks**

特に定めない。
授業中に、最新の書籍、論文、資料、記事等を紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ユビキタスでつくる情報社会基盤	坂村 健 / 東京大学出版会 / 9784130608002 / 2006年09月発行
情報社会の生産性向上要因 ホワイトカラー研究の視点から	古川 靖洋 / 千倉書房 / 9784805108657 / 2006年09月発行
電子自治体 その歩みと未来	御園 慎一郎 他 / 日本法令 / 9784539719912 / 2006年07月発行

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**その他 / Others**

特殊講義(映像学) GA § ヴィジョン形成特殊講義(映像学) GA § 特殊講義(映像学) GA § 特殊講義(基礎)I(映像学) (20526)
§ 特殊講義(基礎)1(映像学) GA

担当者名 / Instructor 島村 漱、品田 隆、林 基継、深沢 伸行

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現代社会において、映画、テレビ放送、コマーシャル、アニメーション、ミュージック・クリップ等、映像作品は、我々の生活に不可欠なものとして定着しており、その必要性はますます増大している。映像体験を通して、受容者は自らのアイデンティティを構成し、自我の認識形成や異文化交流などが育まれていくのであり、映像は、情報を伝達するコミュニケーション・ツール以上に、文化を表現する手段である。

本講座では、映像に関する基本的な制作力・読解力のリテラシーを短期間で身につけるべく、CMなどのショート映像作品を中心にとりあげ、プロのCM監督や撮影監督、録音技師によるショート映像作品の表現方法を、講義と実習を交えた形式で、企画、シナリオ、監督、撮影、録音の各視点から実践的に探求する。

到達目標 / Attainment Objectives

映像作品に関する基本的な制作力・読解力のリテラシー

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映像と表現

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業概論と進行説明、映像制作のスタッフ・ワーク	ショート・ストーリー、スタッフ・ワーク
第2回	ショート・ストーリー映像についての分析と解説	映像読解力
第3回	企画・脚本・演出講義1	ショート・ストーリー映像の企画から脚本まで
第4回	企画・脚本・演出講義2	ショート・ストーリー映像の演出法
第5回	企画・脚本・演出実習1	ショート・ストーリー映像の企画制作
第6回	企画・脚本・演出実習2	ショート・ストーリー映像の脚本制作、演出プラン
第7回	撮影講義1 映像で語る	撮影術、映像表現
第8回	撮影講義2 映像で語る	撮影術、映像表現
第9回	撮影実習1	演出プランに即した撮影プラン
第10回	撮影実習2	演出プランに即した撮影プラン
第11回	録音講義1	音で物語る
第12回	録音講義2	音で物語る
第13回	録音実習3	録音実習3
第14回	録音実習4	録音実習3
第15回	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
日常点・その他	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

映像・映画に対する真摯な姿勢、誠実さ、熱意を求める。日々目にするCM、ミュージックビデオなどのショート・映像も、ぼんやりと感覚的に流し見せず、作品としてしっかり「見る」こと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に指示する。

その他 / Others

特殊講義(映像学)GD § ヴィジョン形成特殊講義(映像学)GD § 特殊講義(基礎)I(映像学)GD § 特殊講義(基礎)1(目録)20527
学)GD § 特殊講義(映像学)GD

担当者名 / Instructor 新 清士

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

コンテンツ産業としてのゲーム産業は世界的に年率10%以上の成長を2000年代に入っても続けている。世界中がゲーム産業に参入しつつあり、またゲームそのものの意味が拡大され、ゲームが日常空間に当たり前のよう存在するような新しい大きな爆発を迎える時期へと突入しつつある。日本と世界の状況を両方俯瞰しながら、ゲーム産業がどのように形成され、発展し、現在の姿にまで到達したのか、そして、今後の未来にどのような莫大な可能性が存在しているのかを解説する。激変期にあるゲーム産業の産業論はそれ自体が叙事詩的なエンターテインメント性を持っている。その楽しさを感じてもらいたい。

到達目標 / Attainment Objectives

ゲーム産業のことを理解するために必要な、基本的な情報を体得し、単なるユーザーとしてゲーム産業を見つめている状態から、主体的にゲーム産業へ関わっていくために必要な情報を取得し、実際に自分たちでもゲームを作ったりすることができるんだという事実を認識できるようにすることが目標。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション～数字で見る世界のゲーム産業の世界的な広がりの進行	
第2回	最新のゲーム機事情(1)～任天堂WiiとDSの成功はどこから来たか	
第3回	最新のゲーム機事情(2)～ソニーとプレイステーション3はどこへ行く	
第4回	最新のゲーム機事情(3)～Xbox360に込めたマイクロソフトの執念	
第5回	ビデオゲームの原理と歴史(1)～それは軍事技術から始まった	
第6回	ビデオゲームの原理と歴史(2)～ゲーム機の登場とゲーム産業の誕生	
第7回	ビデオゲームの原理と歴史(3)～ハード機の性能向上による発展と危機	
第8回	ビデオゲームの原理と歴史(4)～インターネット生んだオンラインゲーム産業の誕生	
第9回	ゲームの開発手法(1)～開発方法の概念理解の基本 - 企画から開発、販売	
第10回	ゲームの開発手法(2)～開発がもたらす技術的なイノベーション	
第11回	開発ケーススタディ米Valveの「Half-Life2」の開発とユーザーコミュニティ	
第12回	ゲームの開発手法の変遷(3)～オンラインゲームが変えたゲームのあり方	
第13回	韓国ゲーム産業の誕生と「ラグナロクオンライン」の日本での成功の理由	
第14回	ユーザー・クリエイト・コンテンツがもたらすゲーム産業の大変化	
第15回	ゲーム産業はこれからどこへ行くのか～「フラット化」するゲーム産業	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

特になし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
日常点・その他	30 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本経済新聞Web IT Plus「連載：新清士のゲームスクランブル」
<http://it.nikkei.co.jp/digital/column/gamescramble.aspx>

その他 / Others

特にないが、ゲーム自体が好きで遊んできた経験を持っていることが望ましい。

参考文献は必要に応じて授業の中で提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(各部門共通)I RA § 日本外交論 J § 国際公共政策特殊講義 PB § 専門特殊講義 SN § 人文科学総合講座 20205
講義I LH § 特殊講義(基礎)1(日本外交論) C

担当者名 / Instructor 西村 智朗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

『日本外交論』

本講義の目指すものは、日本外交の実態を外務省の現役の方々に講義に来ていただき、現在の外交問題を論じてもらうことにより、各地域における外交や、国連外交など国際機関を通じた諸問題や協力の実態に理解を深めることである。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

国際関係学部全コース共通の特殊講義として開講する。コースの固有専門科目である。法学部学生にとっては、日本外交論として開講する。文学部学生は人文科学総合講座特殊講義として開講する。(ただし国際Pの学生は特殊講義)こうした日本外交を担う人々の生の声を聞ける機会はあまり無い。外交問題に興味がある学生はこうした機会を見逃さぬ受講登録することを奨める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	夏季集中講義で行なう。日時・内容は、現在外務省と調整中である。決定次第、発表予定。(昨年度は、9月11日から9月16日に開催された。)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

- * 講義最終日(土曜日)に試験を実施。
- * 日常点評価を試験成績に加味することもあり得る。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特になし。適時講師作成の資料を配布予定。

参考書 / Reference Books

外務省「外交青書」各年版、外務省のホームページから入手可能です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

外務省<<http://www.mofa.go.jp/mofaj/>>

その他 / Others

時間割は、外務省講師の都合により変則になる可能性があるので注意すること。

特殊講義(国際平和交流セミナー) GA § ヴィジョン形成特殊講義(国際平和交流セミナー) GA § 特殊講義(自由選択)I(E_20144
 平和交流セミナー) GA § 特殊講義(基礎)I(国際平和交流セミナー) GA § 特殊講義(基礎)1(国際平和交流セミナー) GA

担当者名 / Instructor 藤岡 惇

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

国際平和交流セミナーは、教員の指導のもとでの旅行と実地体験を通して、平和な世界づくりに貢献する「地球市民」を育てようとする正課の教育学プログラムです。戦後50周年を記念して1995年度より開始し、今年で13回目になります。毎年、夏期休暇の期間を利用し担当教員のガイドのもとで様々な地域を旅し、現場に身をさらし、5感で感じ取ってもらう国際的な体験学習を通して、世界平和の構築、国際理解と協力の道を探ってきました。2007年度は、 広島・長崎(担当者 藤岡 惇)、 中国(担当者 金丸裕一)の2つのプログラムを実施します。

到達目標 / Attainment Objectives

教員の指導と支援のもとで、戦争遺跡やミュージアムを訪ね、外国の若者との交流を通じて、戦争の歴史と平和づくりの課題についての知見を広め、平和な世界づくりに貢献する「国際人」になっていただきたいと願っています。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
日常点・その他	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

募集人数: 広島・長崎15名、中国20名。最小催行人数は5名とし、満たないばあいは実施しないばあいがあります。受講登録制限外科目とします。4月に募集要項を掲示し、募集説明会を開催します。

特殊講義(国際平和交流セミナー) GB § ヴィジョン形成特殊講義(国際平和交流セミナー) GB § 特殊講義(自由選択) (国本文無し
和と交流セミナー) GB § 特殊講義(基礎) (国際平和交流セミナー) GB § 特殊講義(基礎) 1(国際平和交流セミナー) GB

担当者名 / Instructor

単位数 / Credit

授業の概要 / Course Outline

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(国際平和交流セミナー) GC § ヴィジョン形成特殊講義(国際平和交流セミナー) GC § 特殊講義(自由選択)I(20146
 平和交流セミナー) GC § 特殊講義(基礎)I(国際平和交流セミナー) GC § 特殊講義(基礎)1(国際平和交流セミナー) GC

担当者名 / Instructor 金丸 裕一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

現在のギクシヤクとした日中関係を、建設的に再編する意欲と知見を備えた学生を養成するために、中国(含・香港)各地での実地学習を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

各自が見聞・思考した事柄を文章化して、対外的に公表できる報告書を作成する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

語学(中国語か英語)、中国関連の科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	事前学習 1	
	事前学習 2	
	実地学習	
	実地学習	
	実地学習	
	実地学習	
	実地学習	
	実地学習	
	実地学習	
	実地学習	
	実地学習	
	実地学習	
	事後学習 1	
	事後学習 2	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

平素から「中国」をめぐる関心を抱き続けること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

上海・南通・南京・香港において活動する予定である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「見聞した印象をそのまま語るのは誰でも可能な営為である」。

「知的な大学生であるのなら、感性を尊重しつつ、それらを理性的に分析せよ」。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

なし。

その他 / Others

募集人数: 20名 最少催行人数は5名とし、満たない場合は実施しない場合もあります。

受講登録制限外科目とします。

4月に募集要項を掲示し、募集説明会を開催します。

特殊講義(茶道文化史) GA § 特殊講義(基礎)I(茶道文化史) GA § ヴィジョン形成特殊講義(茶道文化史) GA	20215
--	-------

担当者名 / Instructor 筒井 紘一、千 玄室

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

茶道は現在、日本を代表する伝統文化として世界中に知られるようになった。しかし、一般的には未だ、礼儀作法のための稽古事という感覚でとらえる人が多い。それは茶の湯の本質と全く違った見方と言える。茶道に礼儀作法の要素が全くないとは言わないが、その本質は日本を代表する総合的な文化体系であると言える。その総合性とは、哲学的な要素などを含む点にある。

茶が日本に伝来して以来1000年以上も経過しているが、伝来した当初から文化性を備えていたわけではない。本講では、照葉樹文化を代表する嗜好飲料である茶を通して、その文化性の特色を探るとともに、わが国の飲料として伝来した茶が、日本独自の文化性を備えた茶道へと変遷していく過程を明らかにしていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

この科目は事前登録科目です。

授業期間・講義内容詳細については、6月頃に学部掲示板にて連絡します。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
詳細は6月頃掲示で案内します		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	最終講義日に課題提示します。提出されたレポート内容を評価し成績に加味します。
日常点・その他	70 %	講義と実技への参加態度と筆記試験をもとに評価します

* レポート提出は必須とします。

* 筆記試験は最終講義日に実施します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

授業内容の詳細については6月頃に学部掲示板にて案内します。

特殊講義(単位互換科目)06 § 特殊講義(基礎)Ⅰ(単位互換科目)06 § ヴィジョン形成特殊講義(単位互換科目)06 § 特₂₀₄₃₂
講義(自由選択)Ⅰ(単位互換科目)06 § 特殊講義(基礎)Ⅰ(単位互換科目)06

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

特殊講義(地域参加活動入門) G § ヴィジョン形成特殊講義(地域参加活動入門) P

11173

担当者名 / Instructor 宮浦 崇

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

大学生の学びの場はキャンパス内にとどまるものではない。ボランティア活動などの、地域へ参加する活動を通じて、かけがえのない学びを得ることができる。人間的な成長や、専門知識への関心を高めることが出来る。地域参加の活動は、地域に貢献するだけでなく、参加する学生にとっても、得るものが大きいのである。

しかし、地域参加活動の魅力や、そこで得られる学びは、活動を行っていない者にはなかなか理解しがたい。また、社会的な活動であるため、事前に諸々の注意事項を理解しておく必要がある。本講義は、そうした地域参加活動へ誘う動機付けと、参加のための心構えを身につけることを目的に開講する。

本講義では多くのゲストスピーカーが登場する。いずれも日常の学生生活では出会えない人ばかりなので、臆せずに質問等を行ってほしい。

到達目標 / Attainment Objectives

地域参加活動の意義・現状・課題や、地域参加活動の方法を学ぶことで、地域参加活動を行うための準備となることを目指す。本講義を終え、地域に参加する受講者が一人でも多く現れてほしいと望んでいる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	本授業の目的とスケジュール、地域参加活動とは何か
2~3	若者と地域参加	歴史的な文脈における若者と地域参加の有り様と変化。若者の地域参加の現在的な意義。ボランティア活動の可能性。大学生のボランティアの現状。
4~8	地域問題と大学生の地域参加	環境保全の活動、青少年育成の活動、在日外国人支援の活動、情報発信の活動、文化伝統の活動など
9~13	大学生の地域参加の課題	大学ボランティアセンター、地域の青少年社会参加支援団体、サービスマネジメント、海外の大学生ボランティア活動支援、リスクマネジメント
5	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	与えられた設題について十分に論じられているか。文章は論理的か。誤字脱字やインターネット丸写しはないか
最終講義日試験	50 %	中間まとめのときに、レポート課題を課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・本講義では基本的にレクチャーを中心とした授業スタイルとなるが、できるだけ学生の授業参加があるよう、工夫をしていきたい(質問用紙の配布、演習形式の取り入れなど)。それらに対する積極的な姿勢を望みたい。

・当然のマナーであるが、講義中は携帯電話・PHSの電源は切ること。私語も禁止。受講マナーが悪い場合は注意の上、退席を願う場合もある。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 木野 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

環境と生命に関する諸問題は20世紀以来、人々から大きな関心をもたれているテーマである。科学技術の急速な発達、環境問題、増大する地球人口、資源の枯渇、貧富の格差拡大、絶え間ない戦争、生殖医療技術の発達、生命と倫理の諸問題など、そこにはさまざまな問題が含まれている。

一方、現代の私たちは膨大な情報に困まっているが、その中から必要な情報を得ることはきわめて難しい。様々な媒体から与えられる情報をただ受け止めるだけでなく、それを読み解く能力が必要である。

この授業ではテレビ・ドキュメンタリーを題材に、環境と生命に関するこれらの諸問題をみんなで考えることを通して、受け身ではなく自ら考える能力を磨くことを目標にする。そのため、授業は一般的な講義形式を取らず、みんなでドキュメンタリーを観た後、教室でのディスカッションを通じて理解を深め、考えることに集中する。授業では必要な資料を授業プリントとして用意するが、授業の後、自分でインターネットや図書館を利用して調べる習慣を身に付ける。

授業のアウトラインは以下の通りである。

- * 毎回、チャイムとともにテレビ・ドキュメンタリーを鑑賞する。鑑賞後、内容要約(400字程度)を何人かに当てる。(毎回担当を交代する)
- * 鑑賞後、グループ(メンバーは適宜入れ替える)に分かれてディスカッションを行う。報告係(グループで決める)は授業の後、ディスカッションの記録をWebCTに書き込む。
- * 各自、自分の意見(400~600字)を授業の後でWebCTに書き込む。
- * 各自、WebCTに書き込まれた意見の中から最も優れていると思う意見を選び、次回の出席時に投票する。(最多得票者は教室で紹介し、みんなで祝福する)
- * 投票で選ばれた意見だけでなく、私の選んだ最も優れた要約と私がこれとは思っていたいくつかの意見を合わせて、WebCTに授業記録を載せていく。
- * 3~4番組を一区切りとして、それぞれの番組に対する意見(感想ではなく)を1分間スピーチしてもらい、それについて全体でディスカッションを行う。

到達目標 / Attainment Objectives

- ・ドキュメンタリーを観て、何が問題を理解できるようになる。
- ・ドキュメンタリーに関連した情報を自分で調べることができるようになる。
- ・ドキュメンタリー-に対する自分の意見を持つことができるようになる。
- ・自分の意見を所定の字数にまとめ、人に伝えることができるようになる。
- ・他の人とディスカッションをし、人の意見を理解することができるようになる。
- ・所定の時間でスピーチができるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業ガイダンス、第1回目のドキュメンタリー鑑賞	
第2~3回	ドキュメンタリー鑑賞、グループ・ディスカッション	
第4回	第1回1分間スピーチ(1/3に相当する人が第1回から第3回の授業で観たドキュメンタリーについて自分の意見を1分間でスピーチする。その後、全体でディスカッションを行う。)	
第5~8回	ドキュメンタリー鑑賞、グループ・ディスカッション	
第9回	第2回1分間スピーチ(第1回と同じ要領で、別の1/3に相当する人が第5回から第8回の授業で観たドキュメンタリーについて1分間スピーチを行い、その後、全体でディスカッションを行う。)	
第10~13回	ドキュメンタリー鑑賞、グループ・ディスカッション	
第14回	第3回1分間スピーチ(残りの1/3に相当する人が第10回から第13回の授業で観たドキュメンタリーについて1分間スピーチを行い、その後、全体でディスカッションを行う。)	
第15回	今回の授業の総評、授業アンケート、レポート提出	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

- ・授業の後、ドキュメンタリーに関連する情報をインターネットや図書館を利用して調べる。
- ・レポート課題は以下の通りである。

授業期間中にTVで放送されるドキュメンタリーの中から環境と生命に関する1本を選び、その要旨(400字程度)と自分の意見(400~600字)をまとめる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	課題レポートについて、要旨および意見について総合評価する。

日常点・その他 80 % 毎回のメーリングリストへの投稿とその評価を最大50%とし、1分間スピーチの評価を最大10%とする。さらに、優秀な意見メール及び要約を最大20%まで加点評価する。なお、原則として2/3以上の出席を成績評価の要件とし、欠席回数に応じて日常点を減点する。

【レポート】

*評価の基準は、所定の字数が守られているか、書き方(誤字、段落、引用・参考文献など)の是非のほか、どこまで自分で考えたかという考察力である。

*A4判・縦型用紙に、横書きのこと。ワープロが望ましいが、手書きも可とする。

【その他】

*番組内容の要約やグループ・ディスカッションの報告は原則一人1回ずつ行うが、2回以上担当した人にはプラスアルファの評価を加える。

*ディスカッションでの発言など、授業に対する積極的な参加についてもプラスアルファの評価を加える。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講にあたっては、WebCTの読み書きができること、インターネットで情報検索ができることが必要である。これらは受講の条件なので、開講までにできるようにしておくこと。

教科書 / Textbooks

毎回、ドキュメンタリーの参考資料を当日プリントとして配布する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業で紹介する

その他 / Others

特殊講義(ピア・サポート論) GA

16391

担当者名 / Instructor 沖 裕貴

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

アメリカのピア・リーダーシップ・プログラムは、多くの大学で一年次支援プログラムの一環として機能し、一般学生の転換期教育に欠かせないものとなっている。また、ピア・サポータを育成する訓練や研修には、基盤となるコミュニケーション能力の育成の他、大学の歴史、理念・目的を初めとした知識と、基本的な青年期発達理論への理解が欠かせない。

本授業では、具体的に、本学における学生相互の学び合いの仕組みの目的、オリター制度やTA、ES制度の歴史などに関する基本的知識の習得、指導・支援を行う学生の要求と特徴をつかむための基本的な青年期発達理論の学習、学修指導に関する教員との分担の方法やチーム・ティーチング、ファシリテーションなどの教育方法の習得、さらにコミュニケーション能力を育成するさまざまなトレーニングなどを行い、講義だけでなく、グループワークを中心とした演習を盛り込む。

なお、授業は、演習も行うことから最大100名を限度とする。また、過去オリターやESを体験した学生の経験談や成果なども併せて紹介し、ピア・サポータ志望者の不安を払拭し、意欲を向上させるものにした。

到達目標 / Attainment Objectives

(知識・理解)

1. 本学の理念・目的やオリター制度、ES、TA制度の歴史、目的、仕組みを説明することができる。
2. 前後期青年期の特徴や最近の生徒・学生の思考・行動様式について説明することができる。
3. 授業を行う際に利用できる指導方術についてその要点を説明することができる。

(関心・意欲・態度)

1. ピア・サポートに意欲を持ち、自ら学ぶ態度を持つ。
2. ピア・サポートを通して得た経験を、インターンシップやボランティアを初め他のピア・サポートやサービス・ラーニングに生かそうとする意欲を持つ。

(技能・表現)

1. 適切なコミュニケーションをとるための技術を持ち、必要な場面で活用することができる。
2. 集団を指導する際に有効な指導方略、指導方術を修得し、適切かつ効果的に利用することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の到達目標、進め方、成績評価方法等
2	立命館学	立命館大学とは
3	立命館学	本学のピア・サポート
4	最近の学生気質	ゆとり世代の学生像
5	最近の学生気質	思春期・青年期の発達と大学生活
6	教育の方法と技術	ピア・サポートで活用できる教育の方法と技術
7	コミュニケーション・トレーニング	相手の情報を受け止めるためのトレーニング1
8	コミュニケーション・トレーニング	相手の情報を受け止めるためのトレーニング2
9	コミュニケーション・トレーニング	自分の情報を伝えるためのトレーニング1
10	コミュニケーション・トレーニング	自分の情報を伝えるためのトレーニング2
11	コミュニケーション・トレーニング	自分の情報を伝えるためのトレーニング3
12	コミュニケーション・トレーニング	問題を発見し、論理的に考え、提案するためのトレーニング1
13	コミュニケーション・トレーニング	問題を発見し、論理的に考え、提案するためのトレーニング2
14	コミュニケーション・トレーニング	問題を発見し、論理的に考え、提案するためのトレーニング3
15	コミュニケーション・トレーニング	問題を発見し、論理的に考え、提案するためのトレーニング4

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

講義においては毎回その内容に関して小レポート(各4点満点×5回)を課す。特に日頃から新聞等で教育問題に関心を持ち、主体的に考える姿勢が望まれる。また、演習においてはグループワークが中心となり、責任感や協調性に基づいた時間外の作業が要求される。さらに本授業の受講後もしくは並行してピア・サポートに従事することが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	A4 1枚 - 原稿用紙5枚程度、「本授業で何を学んだか、自分はどう変わったか」
日常点・その他	50 %	小レポート(講義に関して各4点満点×5回)、小レポート(演習に関して各4点×9回)

第2回～第6回の講義で「驚き」「ひらめき」「納得」「疑問」「意欲」を喚起した内容について授業中に小レポートを提出する。各1点～4点で採点し、成績に算入する。また、第7回～第15回の演習では、グループで取り組んだトレーニングについて授業中に小レポートを提出する。同じく各1点～4点で採点し、成績に算入する。なお、小レポートは出席確認(出席点はなし)も兼ねているので、必ずQRコードを用意すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

第7回目以降の授業は、毎回異なるグループごとに演習を行う。初めて会う人たちとさまざまなコミュニケーション・トレーニングを行うが、恥ずかしがらず、積極的、主体的に取り組んでほしい。これらは、ピア・サポーターのみならず、教職やボランティア等多くの役割や仕事に共通して求められる技術であり、自分を知り、自分を変えるために必要なトレーニングである。

本授業を受講する学生には、ES志願者はもちろん、教職志望者やオリター等学内でさまざまなピア・サポートを志望する学生を想定するほか、西園寺育英奨学生も積極的に参加してほしい。ただし、本授業は、ESやオリター等の任用の条件とはしない。

なお、受講者が多い場合には事前レポートによる受講者選考を行う予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

必携！相互理解を深めるコミュニケーション実践 林徳治・沖裕貴編著 / ぎょうせい / 978-4-324-08141-9(C3036) / 2007年3月発刊予定学

その他の必要な資料は適宜配布する。

参考書 / Reference Books

第2回目～第6回目の講義に必要な参考図書は、授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

理科入門ⅠS

20371

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校、中学校理科(物理、地学)で扱うテーマを中心に、基礎知識、またその方法(科学の方法)の修得をめざす。また、単に学校理科にとどまらず、科学リテラシーの涵養という観点から、社会現象を科学の目で捉えるための様々な手法、またそのための基礎知識について学習を深める。現代を生きる者の理科という観点を強調したい。講義形式が主になるが、実験、観察、討論等、様々な手法を駆使して、学習者の「科学する心」をもう一度目覚めさせたい。

到達目標 / Attainment Objectives

小学校、中学校理科の内容、方法が理解できる。
 科学リテラシーの観点から、理科の内容が再構成できる。
 科学の方法を駆使して、テーマに即した討論に参加、発表ができる。
 「人の関わりとしての理科」という観点から、学校理科のあるべき姿を模索できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目は、今後展開される教職科目「初等理科教育法」、「初等理科」の基礎科目という位置づけも担っています。「教職に関する科目」、また「教科に関する科目」については、計画的に履修するよう心がけてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回～3回	理科とは何か	小学校理科、中学校理科、高等学校理科を貫くもの
第4回～6回	理科の内容と方法(その1) - 科学の基礎とは何か -	小学校理科をテーマにして(「てこのつりあい、振り子の動き、ものの暖まり方、天体」から)
第7回～9回	理科の内容と方法(その2) - 科学の知識と科学の方法 -	中学校理科をテーマにして(「運動を科学する、電気磁気の世界、天体、気象」から)
第10回～12回	理科の内容と方法(その3) - リテラシーとしての科学を問う -	科学的なものの方・考え方と理科教材 - 小中高を貫く項目を題材にして(例:地動説は妥当か) -
第13回	科学リテラシーとしての理科(その1) - 生きる力と理科 -	テーマごとの演習、討論
第14回	科学リテラシーとしての理科(その2) - 理科の知識と方法 -	テーマごとの演習、討論
第15回	試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

「乾電池66個で炊飯器でご飯がたける」は正しいか」など、毎授業後、その内容に関連したクイズを出します。各個人の質問・指導、また解答はメール等で行います。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	講義時に出す課題、またクイズに対する解答内容、また応答回数等を評価します。
最終講義日試験	60 %	到達目標に即した筆記試験を行います。
日常点・その他	10 %	討論会での発表、調べ学習、また態度等を評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

小学校、中学校、また高等学校の理科の教科書を持参することが望ましい。
 (なければ、毎回プリント等で資料は提供します。)
 理科が嫌いな学生ほど受講する価値があります。なぜ嫌いなのかを明確にしておくことが受講の際の唯一の条件です。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
理科は理科系のための科目ですか	山下芳樹 / 森北出版 / 4 - 627 - 16121 - 2 / 教科書、資料集として活用

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Q & Aでわかる物理科学(1, 2, 3)	山下芳樹 他 / 丸善 / 4 - 621 - 07237 - 4 / 知識の宝庫(クイズ形式で楽しく学べます)
種々の参考書(資料)については、授業時に伝えます。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて伝えます。

理科入門II S

20372

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Outline

小学校、中学校理科(物理、化学、生物、地学)で扱うテーマを中心に、基礎知識、またその方法(科学の方法)の修得をめざす。また、単に学校理科にとどまらず、科学リテラシーの涵養という観点から、社会現象を科学の目で捉えるための様々な手法、またそのための基礎知識について学習を深める。現代を生きる者の理科という観点を強調したい。講義形式が主になるが、実験、観察、討論等、様々な手法を駆使して、学習者の「科学する心」をもう一度目覚めさせたい。特に、理科入門 では、理科入門 の学びを前提として、より深い理解を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

小学校、中学校理科の内容、方法が深く理解できる。
 科学リテラシーの観点から、内容に応じてその再構成ができる。
 テーマに即した討論に参加し、科学的根拠に基づいた発表、討論ができる。
 「人の関わりとしての理科」という観点から、学校理科のあるべき姿を模索できる。
 選んだテーマについて、内容、方法等質の高い調べ学習(実験、観察を含む)ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

理科入門 では、理科入門 の学びを前提とします。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回～3回	私たちを取り巻く現状と理科	学校理科と最先端科学、身の回りの科学
第4回～6回	理科の内容と方法(その1) - 作業(実験、観察)を通して理解する -	小学校、中学校理科をテーマにして(物理分野、化学分野から)
第7回～9回	理科の内容と方法(その2) - 作業(実験、観察)を通して理解する -	小学校、中学校理科をテーマにして(生物分野、地学分野から)
第10回～12回	課題研究(その1) - 科学の方法を具体的事例を通して学ぶ -	与えられたテーマに即して調べ学習を行う
第13回	課題研究(その2)	課題研究の発表、テーマごとの演習、討論
第14回	課題研究(その3)	課題研究の発表、テーマごとの演習、討論
第15回	試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

「乾電池66個で炊飯器でご飯がたける」は正しいか、など、毎授業後、その内容に関連したクイズを出します。各個人の質問・指導、また解答はメール等で行います。また、課題研究では、相談日等を設け、随時サポートします。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	講義時に出す課題、またクイズに対する解答内容、また応答回数等を評価します。
最終講義日試験	40 %	到達目標に即した筆記試験を行います。
日常点・その他	40 %	課題研究での発表、調べ学習、また態度等を評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

小学校、中学校、また高等学校の理科の教科書を持参することが望ましい。
 (なければ、毎回プリント等で資料は提供します。)
 課題研究ではグループで調べ学習を行います。授業時間以外でも、集まって作業をする場合もあります。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
理科は理科系のための科目です	山下芳樹 / 森北出版 / 4 - 627 - 16121 - 2 /
新しい教科書を作成しています。書名等は追って指示します。	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Q & Aでわかる物理学(1, 2, 3)	山下芳樹 他 / 丸善 / 4 - 621 - 07237 - 4 /
種々の参考書(資料)については、授業時に伝えます。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて伝えます。

その他 / Others